

ISSN 1344-476X

公益財団法人  
東洋文庫年報

2014 年度

公益財団法人 東洋文庫

THE

PROGRESS OF

THE

ARTS AND

MANUFACTURES

IN

THE

UNITED STATES

OF AMERICA

FROM 1790 TO 1860

BY

JOHN R. HARRIS

OF THE

AMERICAN ANTHROPOLOGICAL INSTITUTE

NEW YORK

1860



## 目 次

I	2014 年度の東洋文庫 .....	1
II	図書事業 .....	5
1.	資料の収集 .....	5
2.	資料の整理 .....	7
3.	資料の利用と複写サービス .....	8
4.	書庫資料の見学と研修 .....	10
5.	資料の保存整理 .....	13
6.	書誌情報の公開 .....	14
7.	書庫内資料と書架スペース .....	16
8.	電子図書館情報システム .....	16
III	研究事業 .....	21
1.	調査研究 .....	21
A.	超域アジア研究 .....	21
B.	アジア諸地域研究 .....	28
C.	資料研究 .....	42
D.	地域研究プログラム .....	43
E.	日本学術振興会科学研究費による調査研究 .....	46
F.	三菱財団補助金による調査研究 .....	54
G.	東洋文庫研究員・研究課題一覧 .....	56
2.	研究資料出版 .....	64
3.	研究情報普及 .....	65
A.	講演会 .....	65
B.	データベース公開 .....	73
C.	研究者の交流および便宜供与のサービス .....	73
D.	国際交流 .....	77
4.	研究員等の研究業績 .....	78

IV	普及・展示事業	132
1.	展示	132
2.	広報普及	134
V	業務報告	139
1.	総務報告	139
2.	人事報告	141
3.	会計報告	143
VI	役職員名簿	159
1.	役員	159
2.	評議員	160
3.	東洋学連絡委員会委員	160
4.	名誉研究員	161
5.	職員・研究員	162
6.	客員研究員	166

## I 2014 年度の東洋文庫

2014 年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員の異動について述べる。6 月の評議員会にて、任期満了となった理事 3 名の改選が行われ、理事には、斯波義信、中根千枝、山川尚義の各氏が再任され、引き続き理事会にて、代表理事（専務理事）には山川理事が、又、業務執行理事（文庫長）に、斯波理事がそれぞれ再任された。又、西村敏行監事よりは 6 月末日をもって辞任の意向が表明され、同評議員会にて 7 月 1 日付けで伊与部恒雄氏が監事に選任された。

職員では、4 月に池山洋二氏を普及展示部課長として採用（2015 年 1 月 1 日より同部運営課長）。6 月には普及展示部藤代卓也参事が依願退職した。同じく 6 月に篠木由喜氏を普及展示部の 1 年間の嘱託職員として採用した。

2013 年 9 月よりハーバード・エンチン研究所に研究留学していた牧野元紀主幹研究員が 9 月より復帰した（2015 年 1 月 1 日より同部部長代理）。又、総務部会計課牧祐紀子参事は 10 月 1 日付けで普及展示部に異動し、1 月には普及展示部長谷川茂宏参事が定年退職された。

川崎信定研究員（筑波大名誉教授、大正大名誉教授）が本年の文化功労者に選ばれた。又、志茂碩敏研究員が「モンゴル帝国史研究」で日本学士院賞を受賞した。

組織では 1 月 1 日付けで、普及展示部に学芸課（牧野部長代理）と運営課（池山課長）を設置した。

4 月 9 日には天皇皇后両陛下の行幸啓を受け、又、7 月 9 日にはキャロライン・ケネディー駐日米国大使の訪問を受けた。その他、福田康夫元首相、フィリピン・アヤラ・グループ一行、Council of Foreign Relations 一行、オックスフォード大学 Bodleian Library 館長、等々多数の VIP の訪問を受けた。

図書部関係では、当文庫のデータベースへの月間アクセス数（訪問数）が月間約 40 万件を達成した。本年度の当文庫の図書の増加は、購入 2,861 冊、



受贈 3,725 冊、合計 6,586 冊であった。又、細谷良夫研究員より『大明地理之図』4 軸が寄贈された。

洋書を中心に図書の補修を強化すべく、4 月より西薊一男氏及びアルバイト 2 名を起用した。

東洋学講座は、前期は、松重充浩研究員（日本大学教授）「朝鮮在住日本人の華北認識」、久保亨研究員（信州大学教授）「華北地域概念の形成と日本」、山本英史研究員（慶應義塾大学教授）「光棍例の成立とその背景」、濱島敦俊研究員（台湾国立暨南国際大学教授）「明末江南の商業化と宗族規範」を開催した。

後期は、「アジアの古地図を読む」との共通テーマのもと、要木佳美氏（鳥取大学講師）「中国古地図の世界—『地図文化史上の広輿図』—」、細谷良夫研究員（東北学院大学名誉教授）・小沼孝博研究員（東北学院大学准教授）「山形細谷（細矢）家伝来「大明地理之図—江戸時代の東アジア大絵図—」、応地利明氏（京都大学名誉教授）「地理的認識の交流—古地図から—」を開催した。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物 9 冊の刊行に加え、論叢類 4 冊を発刊し、データベース 1 件を公開した。又、各種研究会を計 71 回開催し、合計参加人数は 1,154 人であった。受入れ外来研究者 10 名、外国人研究者への便宜供与は、イラン、フランス等 13 カ国より 29 名であった。日本学術振興会特別研究員 PD・RPD として 7 名を受け入れた。

「アジア資料学研究シリーズ」と題して、9～10 月、10～11 月の 2 回各 2 日間の講習会を開催した他、2 月～3 月には「総合アジア圏域研究国際シンポジウム Islamic and Chinese Studies and Inter-Asia Research Networks」を 2 日間に渡って開催した。又、来日研究者による特別講演会 6 回、若手の研究者による談話会 3 回を開催した。

当文庫の一般向けの活動を更に強化すべく、2013 年度より一般向けの有料講座「東洋文庫アカデミア」を開催しているが、本年度は計 26 講座を開講し、延べ受講者 187 名であり、更なる規模の拡大に努めたい。この一環として、秋には三菱商事の会議室を借用して「現代中国理解セミナー」を開催、

23 名の受講があった。

ミュージアムでは、

- (1)「仏教—アジアをつなぐダイナミズム—」(2014 年 1 月 11 日～4 月 13 日)
- (2)「トルコ—日本・トルコ国交樹立 90 周年—」(2014 年 4 月 23 日～8 月 10 日)
- (3)「岩崎コレクション—孔子から浮世絵まで—」(2014 年 8 月 20 日～12 月 26 日)

(4)「もっと知りたい！イスラーム」(2015 年 1 月 10 日～4 月 12 日)  
を開催し、計 27,995 人の入場を得た。それぞれの図録を「時空を超える本の旅」シリーズで発刊した。又、これらの展示に関連した講演会を合計 11 回開催した。

岩手県の小岩井農場資料館にて「時空を超える本の旅—東洋文庫ミュージアムの世界—」展を 11 月より開催した。入場者数は期待した程ではなかったが、2015 年 5 月末まで継続する事となった。

ミュージアムの庭に続く通路「知恵の小径」にあるアジア諸言語による名言は、従来より大変好評で、これを纏めて『知恵の小径—文字でたどるアジアの名言』として出版した。又、本年も、月刊のメールニュースの配信、コミュニケーション誌『東洋見聞録』の刊行を行った。

シーボルト・ガルテンの新たな造形展示物（本年度の東洋文庫賞）は、東京藝術大学大学院山田亜紀氏の卒業作品「そこに居る」となった。又、「回顧の路」にあるクレバス・エフェクトは申請していた特許が承認された。東洋文庫としての初めての特許である。

3～4 月と 11～12 月には、六義園のライトアップにあわせた展示「六義園をめぐる歴史」を開催した。又、6 月には、ブラザース・フォア特別展示と、オリエント・ホールに於けるコンサートを実施した。又、三菱商事と三菱重工は、それぞれの株主優待として、東洋文庫ミュージアム無料招待券を配布し（後日精算）、これにより数千人の入場者増加をみた。

本年は、東洋文庫創立 90 周年であり次の記念行事を行った。

- (1) 創立 90 周年記念レセプション、9 月 7 日。福田元首相他要人が参加。
- (2) 「岩崎コレクション—孔子から浮世絵まで—」

- (2)「記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史—」山川出版社より 2015 年 3 月刊行。
- (3)「アジア学の宝庫、東洋文庫」を勉誠出版より 2015 年 3 月刊行。
- (4) 90 周年記念マグカップ制作。

成蹊学園と協力関係を構築する事に合意し、①成蹊学園関係者の当方ミュージアムへの無料入場〈後日精算〉、②成蹊大学図書館にて展示を行うとともに、③秋の成蹊学園公開講座「日本人と外国語」4 回の連続講座の一つを当文庫の片桐一男研究員（青山学院大学名誉教授）が担当した。又、「チベット大蔵経」「医学書」「東方見聞録」を展示した。

勉誠出版より「東洋文庫善本叢書」として国宝・重文を中心に、全 12 巻の出版に着手した（セット価格税抜き 572,000 円）。又、同じく勉誠出版『書物学』に「仏教—アジアをつなぐダイナミズム—」（執筆担当：會谷佳光研究員）、「トルコ—日本・トルコ国交樹立 90 周年—」（執筆担当：岡崎礼奈研究員）の紹介が掲載された。又、一昨年の展示「東インド会社とアジアの海賊」の講演会記録をまとめた書籍が同タイトルにて勉誠出版より刊行された。

ハーバード・エンチン図書館・研究所とは、協力協定の一環として、当文庫は東大・京大と並んで、毎年研究員の派遣応募の資格を得ているが、本年度の応募者は残念ながら選考もれとなった。

規程関係では、「個人立替払い等の支払い基準、その 2—自家用自動車使用基準」、「会計処理規程、附則 6」、「閲覧室利用規約」改定、「貴重書指定基準」を定めた。又、本年度は久々に公務員給与の改定が実施され、それに伴い弊財団の給与表も改定した。

財政面では、本年度は年間収支 17 百万円の赤字予算を組んでいたが、ミュージアムの入場者数が予定を上回った事、電気代を始め経費削減に努めた事より、約 7 百万円の収支赤字に留まり（予算は 16 百万円の赤字）、この分は運営調整積立資産を取り崩した。

以上



## II 図 書 事 業

## 1. 資料の収集

## A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は 23,064,837 円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 (うち非図書)	洋書 (うち非図書)	計
超域・総合アジア圏域研究	0	0	0
超域・現代中国研究	259	8	267
超域・現代イスラーム研究	6	547	553
東アジア研究	316	14	330
内陸アジア研究	29 (11)	58	87 (11)
インド・東南アジア研究	0	50	50
西アジア研究	0	338	338
共通 (継続・大型資料)	1,016	220	1,236
計	1,626 (11)	1,235	2,861 (11)

※単位：冊 (非図書資料はマイクロフィルム 1 リール、CD1 枚を 1 冊に換算)

主な購入図書としては以下のものがある。

アラビア語新聞 <i>al-Hilāl</i> . 1921/08-1935/12	54 冊
民国辺政史料統編	30 冊
明代孤本方志選	12 冊
韓国儒学思想大系	12 冊
後撰和歌集二巻 天福二年本	2 帖
世界民間蔵中国敦煌文献 第 1, 2 冊	2 冊
<i>Encyclopedia of Hinduism</i> . vol. 4-11.	8 冊
<i>Annuaire de l'Indo-Chine française pour l'année 1897</i> .	1 冊
16-19 世紀モロッコ契約文書	ヴェラム文書 11 点, 木片文書 29 点
<i>Septentrionalium Terrarum descriptio</i> .	1 冊
西域文物考古全集 第 1-20 巻	20 冊

また、本年度人間文化研究機構地域研究プログラムによる資料購入費の支出総額は3,103,729円で、冊数は和漢書90冊（図書73冊、雑誌17冊）、洋書401冊である。

## B. 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈*			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単 行 本	1,555	336	1,891	440	322	762
定期刊行物	1,465	313	1,778	3,309	2,045	5,354
非図書資料	32	24	56	0	0	0
計	3,052	673	3,725	3,749	2,367	6,116

\*科学研究費による購入はここに含む

主な受贈資料としては、以下のものがある。

李連栄氏寄贈	格薩爾精選本	48冊
今井駿氏寄贈	中国語資料	146冊
細谷良夫氏寄贈	『大明地理之図』	4軸
野澤豊氏旧蔵書	近代中国関係洋書	49冊
平野伸二氏寄贈	インド関係洋書	19冊

## C. 蔵書数

収蔵する蔵書総数は1,019,570冊で、和漢書579,716冊、洋書410,054冊、複写資料29,800冊である。

## 2. 資料の整理

## A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	3,113 冊
欧米語図書	533 冊 (イスラーム地域研究資料室の 41 冊を含む)
アジア諸言語図書	608 冊 (イスラーム地域研究資料室の 200 冊を含む)

整理した主な図書

(1) 新編中華人民共和国地方志	17 冊
(2) <i>The World in Miniature: South Sea Islands.</i>	2 冊
(3) 東亜「新満洲文庫」全 12 冊、続篇全 2 冊	14 冊
(4) アラビア語新聞 <i>al-Hilāl</i> . 1892-1921	100 冊
(5) 徐家匯蔵書樓明清天主教文献統編	34 冊
(6) 二十世紀三十年代国情調査報告 第 134-266 冊	133 冊
(7) 英国国家図書館蔵敦煌西域蔵文文献 第 3, 4 冊	2 冊
(8) <i>Studies in Indian Epigraphy: Journal of the Epigraphical Society of India.</i>	33 冊
(9) 英国国家図書館蔵敦煌遺書 (漢文部分) 第 11-30 冊	20 冊
(10) 河口慧海著作集全 17 巻別巻 3 巻補巻 3 巻	25 冊
(11) 中国金融檔案 大陸銀行巻	全 30 冊

## B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文 18 タイトル、欧文 3 タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	276	88	1,465	313
購入	169	14	953	84
小計	445	102	2,418	397
計	547		2,815	



## C. 新聞

本年度は和・中・韓文で 29 種、欧文 1 種を受入れた。

## 3. 資料の利用と複写サービス

### A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は 88 名で、内訳は教職員 50 名(外国人 12 名)、研究機関関係者 3 名(外国人 2 名)、大学院生 19 名(外国人 13 名)、大学生 13 名、文庫関係者 1 名、その他 2 名であった。

閲覧開館日は 279 日、利用者数は 2,235 名(うち新規利用者 523 名)、利用資料数は 29,114 冊で、詳細は後掲の表のとおりであった。利用者数は前年比で 261 名減少した。また 2014 年 5 月 1 日より、閲覧室での中央研究院歴史語言研究所「漢籍電子文献資料庫」(授權使用版)の利用を開始した。

なお東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ 1,304 名、3,104 冊であった。

#### (1) 開館日数および閲覧者数

	開館日数(日)	閲覧者数(人)	日平均(人)	昨年同月比 (△印は減)
2014 年 4 月	24	188	8	△ 5
5	23	191	9	△ 12
6	24	192	8	△ 33
7	25	215	9	9
8	25	235	10	△ 34
9	23	192	9	△ 3
10	25	205	9	△ 7
11	22	183	9	△ 56
12	21	165	8	△ 46
2015 年 1 月	21	116	6	△ 48
2	22	192	9	13
3	24	161	7	△ 39
計	279	2,235	8	△ 261

## (2) 閲覧カウンター出納冊数

	和 書		漢 書		洋 書		合 計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2014 年 4 月	57	126	709	4,331	74	273	840	4,730	198	2,333
5	146	508	296	1,990	43	114	485	2,612	114	748
6	140	357	248	1,492	144	810	532	2,659	111	560
7	135	411	306	1,840	108	264	549	2,515	101	410
8	193	369	320	1,299	94	199	607	1,867	75	△ 1,286
9	131	436	298	2,130	57	599	486	3,165	138	1,005
10	357	281	275	1,316	122	333	754	1,930	78	112
11	203	387	322	1,264	53	110	578	1,761	81	△ 1,642
12	132	228	214	1,296	55	142	401	1,666	80	△ 1,346
2015 年 1 月	103	213	290	1,284	39	100	432	1,597	77	△ 1,526
2	194	795	322	1,839	42	99	558	2,733	125	317
3	94	330	219	1,296	61	253	374	1,879	79	△ 907
計	1,885	4,441	3,819	21,377	892	3,296	6,596	29,114	105	△ 1,222
比率	15.25%		73.43%		11.32%		100.00%			

## (3) 貴重書閲覧予約申請受理件数

申請受理件数は、195 件であった。

## B. 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

## (1) マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
112	5,087	6,361	944

## (2) 電子複写

申込件数	提供枚数
990	38,940

## C. レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて 923 件であった。

## D. 資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は 4 件で、詳細は次のとおりである。

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	江戸東京博物館開館 20 周年記念特別展 大江戸と洛中～アジアのなかの都市景観～	公益財団法人東京都歴史文化財団東京都江戸東京博物館	2014.3.18 ～ 5.11	公益財団法人東京都歴史文化財団東京都江戸東京博物館	『北京全図』ほか 全 3 点 3 枚
2	徒然草—美術で楽しむ古典文学	公益財団法人サントリー芸術財団サントリー美術館、朝日新聞社	2014.6.11 ～ 7.21	公益財団法人サントリー芸術財団サントリー美術館	『徒然草』ほか 全 3 点 12 冊
3	文京ミューズフェスタ 2014	文京区、文の京ミュージアム・ネットワーク	2014.12.18	文京シビックセンター	『増訂解体新書』ほか 全 3 点 3 冊
4	Bunkamura25 周年記念 キャプテン・クック探検航海と『パンクス花譜集』	株式会社東急文化村 Bunkamura ザ・ミュージアム、読売新聞社	2014.12.23 ～ 2015.3.1	株式会社東急文化村 Bunkamura ザ・ミュージアム	『新旧インド誌』vol.4 全 1 点 1 冊

## 4. 書庫資料の見学と研修

主な見学は次のとおりである（53 件 353 名）。なお、このほかに 14 件 65 名の見学があった。

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
1	2014 年 4 月 2 日	西村陽子	北京大学教授栄新江氏、朱玉麒氏	2	書庫及び 所蔵資料見学
2	5 月 2 日	秋葉 淳	千葉大学学生・大学院生	19	〃



	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
3	6月27日	中見立夫	Institut of history MAS所長Chuluun氏ほかモンゴル人研究者一行	3	書庫及び所蔵資料見学
4	7月1日	村上正和	東京大学アジア研究図書館一行	8	〃
5	7月7日	佐藤仁史	中山大学歴史学系教授呉涌氏ほか中国人研究者一行	4	〃
6	7月7日	吉澤誠一郎	東京大学人文社会系研究科外国人研究員・大学院生	13	〃
7	7月15日	尾崎文昭	北京大学教授高遠東氏	1	〃
8	7月16日	原山隆広、 徳原靖浩	Mohammad Hasan Mokhber氏	1	〃
9	7月17日	相原佳之	学習院大学教授武内房司氏、同学生	9	〃
10	7月18日	相原佳之	中国第二歴史檔案館副館長馬振犢氏一行	7	〃
11	7月30日	相原佳之	津田塾大学国際関係学科学生	4	〃
12	8月6日	徳原靖浩	2014年度卒論を書くための情報リテラシーセミナー受講生	23	〃
13	8月8日	徳原靖浩	私立大学図書館協会初任者研修受講生	23	〃
14	8月28日	田村彩子	一橋大学社会科学古典資料センター一行	2	〃
15	9月8日	大木 康	平成26年度漢籍整理長期研修受講生	9	〃
16	9月17日	塩尻和子	中国陝西師範大学教授哈宝玉氏一行	3	〃
17	9月22日	宇都宮美生	シンガポール国立大学教授 Peter Borschberg氏	1	〃
18	9月26日	斯波義信	厦門大学歴史系教授鄭振満氏一行	3	〃
19	10月1日	李相鎬	ハーバード・エンチン図書館司書 Kang, Mikyung L.氏一行	3	〃
20	10月3日	中見立夫	モンゴル科学アカデミー国際関係研究所研究員 Sosorburam. A.氏	1	〃
21	10月15日	後藤敦子	お茶の水女子大学一行	6	〃
22	10月16日	牧野元紀	国立ハンノム研究院 Nguyen To Lan氏一行	3	〃
23	10月20日	尾崎文昭	ルイジアナ州立大学准教授 Zhou, Gang氏	2	〃
24	10月22日	金井ゆき	国立国会図書館平成26年度3級研修受講生	2	〃
25	10月23日	太田由紀	モンゴル公文書管理庁長官 Saruul Ishjamts氏一行	5	〃

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
26	10月24日	相原佳之	國學院大學文学部史学科准教授樋口秀実氏、同学生	8	書庫及び所蔵資料見学
27	11月4日	シルヴィオ・ヴィータ	ヴァチカン図書館東洋学部門責任者デリオ・ヴァニア・プロヴェールピオ氏一行	3	〃
28	11月4日	佐藤仁史	一橋大学学生	2	〃
29	11月20日	高村武幸	明治大学文学部学生	11	〃
30	11月20日	三菱地所設計	三菱地所設計渡邊氏ほか、建築家協会一行	16	〃
31	11月22日	山川尚義	オックスフォード大学ボドリアン図書館館長 Richard Ovenden 氏	1	〃
32	12月10日	中沢 綾	フランス国立図書館ヴェロニック・ペランジェ氏	2	〃
33	12月12日	中見立夫	昭和女子大学准教授フスレ氏ほか	2	〃
34	12月15日	中見立夫	内蒙古大学教授周太平氏、Narangerel 氏	2	〃
35	12月15日	上田裕之	筑波大学人文社会系助教上田裕之氏、同学生	4	〃
36	12月15日	相原佳之	日本大学文理学部教授高綱博文氏、同学生	21	〃
37	12月17日	斯波義信	国際基督教大学一行	10	〃
38	12月25日	一井義孝	内閣官房知的財産戦略推進事務局一行	4	〃
39	1月13日	荷見守義	弘前大学人文学部教授荷見守義氏、同学生	5	〃
40	2月4日	斯波義信	北京大学中文系教授安平秋氏ほか	6	〃
41	2月4日	徳原靖浩	京都大学 NIHU 客員准教授今松泰氏	1	〃
42	2月16日	相原佳之	埼玉大学教養学部准教授小野寺史郎氏、同学生	4	〃
43	2月20日	牧野元紀	ハーバード・エンチン研究所 Linda Grove 氏、李若虹氏	2	〃
44	2月20日	徳原靖浩	CNRS フランス国立科学研究センター研究員 Mohammadreza Neyestani 氏	1	〃
45	2月23日	篠崎陽子	龍谷大学教授三谷真澄氏、龍谷大学龍谷ミュージアム学芸員岩田朋子氏	2	〃
46	2月23日	原山隆広	パキスタン・カラチ大学教授 Moinuddin Aqeel 氏	2	〃

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
47	2月27日	楨原 稔	アメリカ合衆国・外交問題評議会 (Council on Foreign Relations) 一行	51	書庫及び 所蔵資料見学
48	3月4日	鶴見尚弘	香港科技大学教授呂宗力氏一行	5	〃
49	3月6日	牧野元紀	国立台湾大学副教授陳慧宏氏ほか	2	〃
50	3月16日	明星聖子	埼玉大学教養学部教授明星聖子氏一行	7	〃
51	3月17日	岸本美緒	復旦大学中国歴史地理研究所教授王振忠ほか中国人研究者一行	15	〃
52	3月20日	妹尾達彦	国立台湾師範大学歴史学系教授・文学院院长陳登武氏	1	〃
53	3月30日	田仲一成	復旦大学一行	6	〃

## 5. 資料の保存整理

所蔵資料の保存にあたっては、保存環境の整備、虫菌害の対策に努めるとともに、破損資料の修理・修復を行った。

本年4月より、2006年度末の製本室の閉鎖以来停止していた修理・修復作業を再開した。本年度はモリソン文庫・山本文庫の洋書（洋装本）を中心に作業を行った。

酸性劣化資料の対策としては、冊子体資料の脱酸性化処理を試験的に外部委託して行った。引き続き来年度以降の検討課題である。

実施した作業項目と内容は次のとおりである。

逐次刊行物合冊製本（外注）	312 冊
修理・修復（破損による再製本を含む）	58 冊
簡易補修	198 冊
保存容器	48 冊
その他（ヴェラム文書 11 点、亜細亜大観 16 輯の写真保全 286 点など）	297 点
マイクロフィルム劣化防止作業	1,281 本

## 6. 書誌情報の公開

2014 年度末現在、当文庫ホームページで提供している目録データベースは下記の 44 種である。

このうち 2014 年度新規公開分は※印で示す。各データベース名の後の( ) は収録件数である。

01	中国語逐次刊行物	(5,097 件)
02	日本語逐次刊行物	(2,844 件)
03	欧文逐次刊行物	(3,520 件)
04	朝鮮・韓国語逐次刊行物	(845 件)
05	漢籍資料オンライン検索	(79,806 件)
06	越南本漢籍検索	(441 件)
07	朝鮮本漢籍検索	(3,934 件)
08	岩崎文庫 (和書貴重書)	(7,966 件)
09	續修四庫全書	(6,229 件)
10	拓本検索	(3,105 件)
11	ラテン文字資料	(93,129 件)
12	欧文資料分類検索	(97,275 件)
13	辻直四郎文庫	(7,218 件)
14	キリル文字資料	(12,951 件)
15	モリソン文庫資料検索	(17,307 件)
16	モリソン文庫資料分類検索	(16,638 件)
17	モリソンパンフレット検索	(8,300 件)
18	中国語図書の検索	(62,742 件)
19	中国語図書分類検索	(49,860 件)
20	日本語図書の検索	(68,389 件)
21	研究部近代中国研究班収集日本語図書分類検索	(18,671 件)
22	韓国・朝鮮語図書の検索	(4,145 件)
23	藤井尚久文庫オンライン検索	(1,431 件)
24	西アジア諸言語図書分類検索	(52,454 件)
25	アラビア語図書の検索	(16,057 件)
26	ペルシャ語図書の検索	(14,595 件)
27	現代トルコ語図書の検索	(11,420 件)



28	オスマントルコ語図書の検索	(1,861 件)
29	イスラーム地域研究資料室収集資料 (アラビア語・ペルシア語・オスマントルコ語資料)	(3,912 件)
※ 30	モンゴル語図書検索 2014 年 9 月 29 日 リニューアル公開	(2,114 件)
31	キルギス語図書全リスト (PDF)	(約 20 件)*
32	ウイグル語図書全リスト (PDF)	(約 1,100 件)*
33	カザフ語図書全リスト (PDF)	(約 240 件)*
34	河口慧海将来蔵外文庫オンライン検索	(約 500 件)*
35	アメリカ議会図書館収集マイクロフィッシュ版総合目録データベース	(約 4,000 件)*
36	スィンディー語図書	(188 件)
37	南アジア諸語 (アラビア文字) 図書検索	(3,693 件)
38	インドネシア語・マレーシア語図書の検索	(333 件)
39	タイ語資料検索	(933 件)
40	ビルマ語図書の検索	(665 件)
41	ベトナム語図書の検索	(380 件)
※ 42	山本達郎博士寄贈書データベース (旧南方史資料) 2014 年 5 月 22 日 リニューアル公開	(8,291 件)
43	榎文庫	(9,950 件)
44	電子資料の検索	(102 件)

注 1：ホームページ上の目録データベースのうち「漢籍統合データベース」は、05 漢籍資料オンライン検索、06 越南本漢籍検索、07 朝鮮本漢籍検索の横断検索用であるため、本リストからは除外。また、2010 年度まで公開の「新収蔵漢籍検索」は、05 漢籍資料オンライン検索に併合のため、リストからは同様に除外。

注 2：同「榎文庫 NDC8 による分類検索」は、43 榎文庫と公開件数が同一のため、リストからは除外。

注 3：件数を概算できないもののうち、件数に大きな変動がないものは、2013 年度年報の数字を用い、\*で示した。

## 7. 書庫内資料と書架スペース

### 書庫内資料の排架一覧

階	排架内容		
6	Old Book, MS (モリソン文庫を除く), モリソンパンフレット, 漢籍稀観書, 漢籍: 経部・子部・集部・叢書部 (各部線装本), 岩崎文庫, 銅版画, 古地図, 梅原考古資料, 自筆稿本, 檔案 (満洲語檔案など)		
5	欧文図書 (モリソン文庫を除く), アジア諸語図書 (アラビア語・ペルシア語・トルコ語ほか), 個人文庫 (辻文庫・梅原文庫・榎文庫・岩見文庫・モリソン II 世文庫・ベラルデ文庫・山本文庫)		
4	和書, 漢籍: 子部・集部・叢書部 (各部普通本), 漢籍大型本, 中・朝雑誌, 近代中国研究委員会収集資料 (和・中・欧文図書、雑誌)		
3	3 階書庫 1	3 階書庫 2	2 階・中 2 階・3 階ミュージアム
	漢籍: 経部 (普通本)・史部 (線装本、普通本)	朝鮮本, 越南本, 満洲語, 蒙古 (モンゴル) 語, チベット語, サンスクリット語図書, 拓本資料, 電子資料	モリソン文庫 (大型本の一部を除く)
B1	逐次刊行物 (和・中・朝・欧文新聞、和・欧文雑誌)		マイクロ保管庫
			マイクロ資料

## 8. 電子図書館情報システム

2014 年度末現在、当文庫ホームページで提供している「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

2014 年度は新たに語彙データベース 2 件が追加された。その他の 2014 年度新規公開分は、全頁データ: 岩崎文庫総合 328 件 20,925 頁、東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー 27 件 1,532 頁、『亜細亜大観』16 冊 2,620 頁、イスラーム地域研究室 4 冊 1,906 頁、画像データ: 風景 1 件 6 コマ、奈良絵本・挿絵など 19 件 1,219 コマ、動画データ 4 種である。(※印)

## A. 語彙データベース

## ※(1) 中国経済史用語データベース

2014年8月26日 新規公開 5,984 件

## ※(2) 宋会要輯稿 食貨編 社会経済用語データベース

2014年12月24日 新規公開 33,332 件

## B. 全頁データ

(1) 岩崎文庫 古籍善本 55 件 (7,618 頁)

※(2) 岩崎文庫 総合 373 件 (30,279 頁)

(3) 洋古書 (宣教師文書) 21 件 (11,469 頁)

(4) 洋古書 (旅行記) 19 件 (8,999 頁)

(5) モリソンパンフレット 529 件 (9,605 頁)

※(6) 東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー (現代中国研究資料室)  
516 件 (41,448 頁)(7) 『柏原英一 (1914 ~ 2009) 写真帳』 (現代中国研究資料室)  
7 冊 (383 頁)

(8) 『亜東印画輯』 (現代中国研究資料室) 16 冊 (2,642 頁)

※(9) 『亜細亜大観』 (現代中国研究資料室)  
2015年3月30日 新規公開 16 冊 (2,620 頁)

(10) 雑誌『北支』昭和14年6月~昭和18年8月 51 冊 (2,760 頁)

※(11) アリー・ハイダル『メジェッレ注解』全4巻 (Dürerü'l-hukkam : şerh-i Mecelletü'l-ahkâm : şerhü'l-kava'idü'l-küllîye / eser-i Ali Haydar. — Tab-i 3. İstanbul : Matbaa-yi Tevsi-i Tıbaat, 1330 [191-].) (イスラーム地域研究資料室)  
4 冊 (1,906 頁)

## C. 画像データ

## (1) 地図

①中国関係 中華帝国図ほか 222 件 (274 コマ)

②日本関係 江戸内府図ほか 72 件 (787 コマ)

※(2) 風景 29 件 (1,338 コマ)

(3) 浮世絵・美人画 31 件 (209 コマ)

※(4) 奈良絵本・挿絵など 136 件 (7,786 コマ)

(5) モリソン文庫—香港銅版画・水彩画等 392 件 (416 コマ)

(6) 梅原末治考古資料画像データベース 15,343 件

(7) 中国祭祀演劇関係写真資料データ・ベース 35,236 件

#### D. 動画データ

##### (1) 香港の祭祀と演劇 (概観)

① 広東系 約 50 分

I 巡遊

II 儀礼

III - 1 六国封相 (武戯)

III - 2 粵劇：双仙拜月亭 (文戯)

III - 3 粵劇：再生紅梅記 (文戯)

② 海陸豊系 約 75 分

I 巡遊

II 儀礼

III - 1 海陸豊劇：呂布 (武戯)

III - 2 海陸豊劇：蕭光祖 (文戯)

III - 3 海陸豊劇：正字戯「宛城の戦」(『三国演義』第 16 回)

III - 4 海陸豊劇：正字戯「李碧蓮搜宮」

III - 5 海陸豊劇：海陸豊劇：白字戯「秦雪梅訓子」

③ 潮州系 約 120 分

I 巡遊

II 儀礼

III - 1 楊門女将 (文戯)

III - 2 楊門女将 (武戯)

III - 3 宝蓮燈 (文武戯)

III - 4 守揚州 (文武戯)

IV 潮劇【蘭英刺虎】1979 年旧暦三月廿七日、香港大埔墟天后廟祭祀

##### (2) 香港広東正一派道士の儀礼

① 龍躍頭太平清醮儀礼 約 50 分

② 粉嶺太平洪朝儀礼 約 50 分

③ 八門功德 約 6 分

##### (3) 中国 (江西) の儺舞・儺戯

① 萍郷県の儺舞 約 60 分

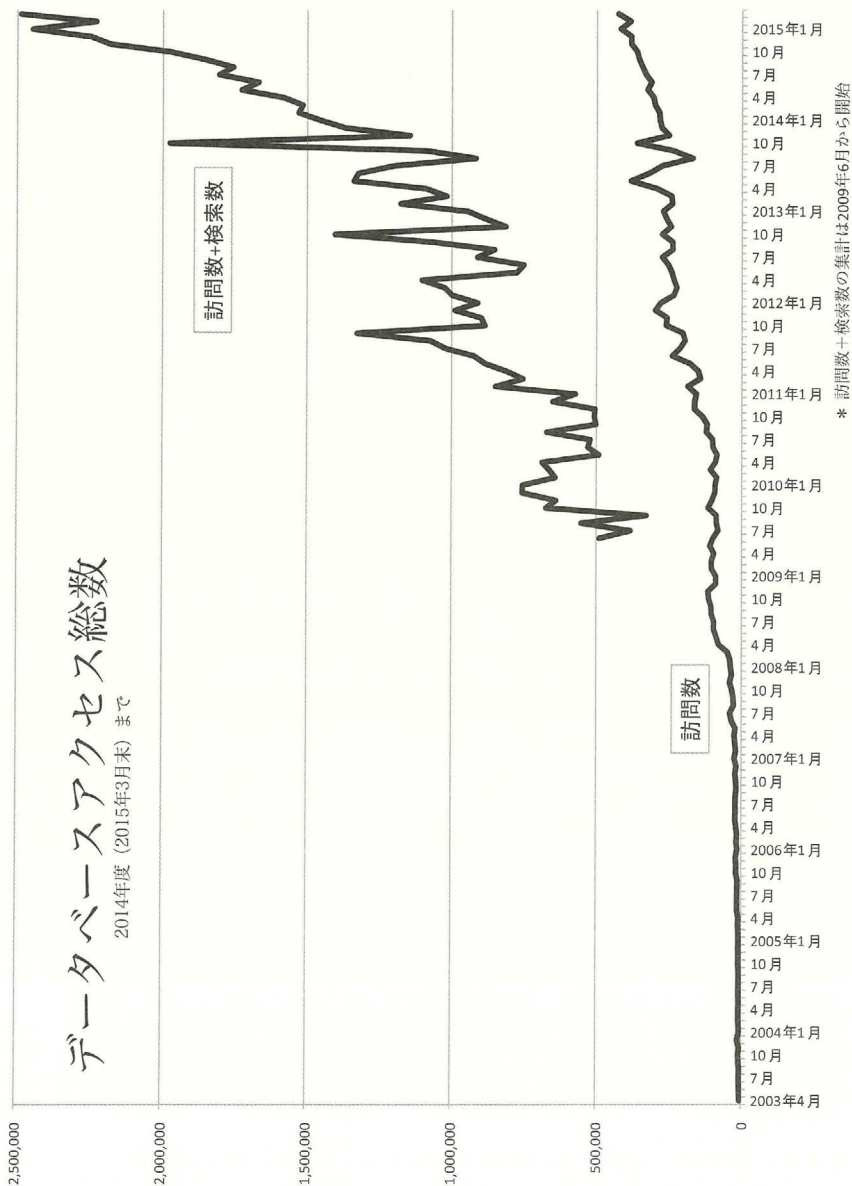
② 万載県の儺舞 約 40 分

③ 婺源県の儺舞・儺戯 約 50 分



- ④南豊県石郵村の儺舞 約 30 分
- ⑤南豊県水南村の儺舞 約 30 分
- (4) 憑依・降神儀礼
  - ※① Singapore : Lorong108 巷, 興僑 (莆田・仙遊) 重興壇中元祭祀に  
おける蕭公元帥・張公元帥の憑依降神 (1982 年農歴七月廿三日)  
2014 年 12 月 17 日 新規公開 約 7 分
  - ※② Singapore : Yankit Village, 瓊僑 (海南) 水尾娘娘廟, 中元祭祀に  
おける齊天大聖の憑依降神 (1982 年農歴七月十六日)  
2014 年 12 月 17 日 新規公開 約 4 分
- (5) 目連戲
  - ①浙江省紹興前良村調腔目連戲 約 50 分
  - ②祁門県栗木村目連戲 約 50 分
  - ③福建仙遊目連戲 約 50 分
  - ④湖南省湘西目連戲 約 10 分
  - ⑤莆田木身目連戲 約 30 分
- (6) 元宵祭祀
  - ①萍郷県元宵花灯会 約 30 分
- (7) 莆仙劇
  - ①白蛇伝 約 20 分
- (8) 廣東漢劇
  - ※①時遷偷雞 (水滸傳第 46 回)  
2014 年 11 月 14 日 新規公開 約 17 分
  - ※②打洞結拜 2014 年 11 月 14 日 新規公開 約 17 分

注 2011 年度まで「全頁データ：モリソン文庫 洋書稀観本」として公開していたデータは、B-(3) 洋古書 (宣教師文書) と B-(4) 洋古書 (旅行記) とに項目を分割して公開



### Ⅲ 研究事業

東洋文庫は、アジア諸地域の歴史と文化の発展に関する基礎資料を 90 年近くにわたって組織的かつ継続的に収集してきた（斯波義信「財団法人東洋文庫の 80 年」財団法人東洋文庫編集・発行『東洋文庫 80 年史Ⅰ—沿革と名品—』2007 年、5-36 頁）。研究事業の主たる目的は、これらの資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。アジアの全域を対象にした基礎資料の体系的な収集・整理と、それにもとづく総合的な基礎研究の推進は、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫以外にはなしえない。

東洋文庫はこの事業をさらに効果的に推進するために、2003 年度から（1）アジア研究の組織的な編成と若手研究員の積極的な採用、（2）現代アジアの重要課題に関する総合的研究の推進、（3）欧文の成果発信を拡充することによる国際的な活動の強化、および（4）資料・研究情報の公開と共同利用を促進すべく、電子情報システムの構築に着手した。この改革を機に、研究分野は〈超域アジア研究〉、〈アジア諸地域に関する歴史・文化研究〉、〈資料研究〉から構成されることとなった。各分野はそれぞれ、一次資料にもとづく現代アジアの学際的な実証研究、各ディシプリンを生かした歴史・文化的な基礎研究、東洋文庫をはじめとするアジア諸地域の現地研究機関の資料群の探索と研究を主要な課題としている。

#### 1. 調査研究

##### A. 超域アジア研究

これまで東洋文庫における調査研究は、超域アジア研究と歴史文化研究に分たれ、そのそれぞれがイスラーム圏域、中国圏域に、またアジア各地域研究部門へと専門化されてきたが、2012 年度から 3 年間の計画で、各年度に主要な検討地域に焦点を当て、それをアジアの地域間交流や地域を跨いだ共通の課題に複数の研究班で取り組む体制と運用を試みている。従来からの個別専門研究の長期的な蓄積に基づき、現在のアジアの変動に見られるように、

変動の原因とその範囲がアジアの内部においてのみならずグローバルに影響し合っているという状況下にあっては、歴史としての現代という視角からの研究が求められると考えられる。これらの理由から総合アジア圏域研究への取り組みを強化した。

“アラブの春”といわれるイスラーム圏の変動は、権威主義的政治体制が、一見安定的に見えても、その内実ではグローバル化する社会関係の変動に対応することが出来ていないことを露呈した。また、中国圏においても、これらの“アラブの春”に内在する諸問題に対応する取り組みが急がれており、経済発展の次に来る社会生活の充実が緊急の課題であることを示している。その状況の中で、より歴史的に長期の視点から現在と将来を検討すべきという議論がなされ、グローバリゼーションが進む中で、中国研究は如何にあるべきか、また、アジアの歴史的な流れの中で現在をどのように位置付け、今後の方向を考えるか、という長期視野に関する課題が一気に浮上している。そこでは、(1) 全アジア的視野に立ち、(2) 世界的な動きの中でアジアを位置づけつつ、さらに、(3) どのように個別地域のうごきと連動させて検討するか、という3層にわたる研究課題を結びつけることが求められる。この新たな研究領域は、アジア社会の長期変動に関する主題であり、これまで長年にわたって資料収集と地域研究に基づいたアジア研究を進めてきた東洋文庫の研究班すべてを連携する総合アジア圏域研究において初めて対応が可能である。

この課題に応えるため、2012年度から、「一つの圏域に焦点を当てながら関連するアジアのすべての圏域について考える。また、アジアのすべての圏域から一つの圏域について考える」という相互にフィードバックを可能とする研究体制と研究方法を新たに設定した。具体的には、「超域アジア研究部門」のなかに、「総合アジア圏域研究班」を設置し、新たな取り組みを開始した。この「総合アジア圏域研究班」の目的と役割は以下のとおりである。(1) アジア規模の問題群を設定し、東洋文庫のすべての研究グループを有機的に結び付けて分析検討する、(2) イスラーム圏と中国圏というこれまでの2つの超域研究のテーマを相互に関連させながら、かつまたそれぞれが独自に持つアジア規模の問題への広がりを検討する。さらに、(3) 東洋文庫が進めてきたアジア諸地域に関する歴史・文化研究ならびに資料研究を多様に組み合わせ、総合アジア圏域研究の活動に結び付けていく。そのために国際的な研究交流や共同研究を進め、それらの検討成果を継続的にワーキングペーパーや欧文電子ジャーナルなどを活用して広く発信する。



以上の活動を推進するため、書誌学にも通暁した人材を育成し、アジア資料学の構築を目指す東洋文庫独自の若手人材育成という課題に取り組んだ。

### 中国圏とイスラーム圏の現在

1980年代以降のアジア諸地域は、大きな変動を経験するとともに、経済的な急成長をとげた。そのことにより、21世紀の世界情勢の展望にとってアジアの占める位置と役割は著しく高まりつつある。中国は1979年の改革・開放後に急速な変容と発展を遂げ、今や中国情勢は、国内問題にとどまらず、隣接アジアを包摂した課題として総合的・多面的な実証研究を不可避としている。

また、イスラームのグローバル化とその先鋭化も近年の著しい現象であり、いわゆる“アラブの春”という動きは、世界的に大きな影響を与えている。現代世界の理解のためには、中東や中央アジア、中国・東南アジアなどのイスラームの現実を基礎データにもとづいて多面的に解析することが必要である。

以上のような状況をふまえ、現代のアジア圏域ならびに中国圏域およびイスラーム圏域に関するアジア規模の研究を組織し、これを政治学・経済学・宗教学・歴史学などを融合した学際型、内外研究機関横断的な共同研究として実施した。これらの現代研究は、基礎資料の収集と解析にもとづき、長期的な視野の下に息の長い実証研究として進めることが必要である。2013年度はインド・東南アジアをめぐるアジア規模のまたグローバル規模の検討を加えるべく東洋文庫の2研究班による研究を行い、それらを集約する国際研究シンポジウムを開催した。

### 〈超域アジア研究部門〉

#### (1) 総合アジア圏域研究班

##### 「総合アジア圏域研究」

総 括	斯波義信◎ 濱下武志◎、田仲一成◎、平野健一郎◎
現代中国	毛里和子、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信◎*
現代イスラーム	八尾師誠、池田美佐子、粕谷 元、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、斯波義信◎*、山本英史、清水信行
近代中国	内山雅生

東北アジア	六反田豊、松村 潤、石橋崇雄、小沼孝博
日 本	今西裕一郎
中央アジア	梅村 坦、小松久男、土肥義和
チベット	吉水千鶴子
インド	辛島 昇
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦 徹
東アジア資料	斯波義信◎*
研究補助者	宇都宮美生、太田啓子
(◎は専従者、*は重複を示す。以下同じ)	

基本的な研究方法は、年度ごとに重点地域を定め、それをアジア規模の視野から多角的に検討するとともに、周縁諸地域との地域連関や相互影響関係を検討する。範囲は、基礎資料研究、現地研究、主題研究などに跨り、多分野にわたる国際的な比較研究を行う。また、資料、検討過程並びに研究成果は、欧文にてオンラインにより発信する。このような総合的アジア研究は、アジア諸地域における資料収集と地域研究の蓄積を持ち、内外の研究連携を進めてきた東洋文庫においてのみ可能であると考える。

東洋文庫のすべての研究班の参加によって行われる重点研究としてこの「総合アジア圏域研究」があるが、基本的な検討項目は、各年度において選択した1つの地域のアジア圏域間における位置と役割、地域間移民ネットワーク、ディアスポラ、トランスナショナル問題を検討する。ワークショップを開催して議論を重ね、現地調査・資料調査によって現代の諸問題を歴史的背景を含め提示する。これらの討論過程を、ワーキングペーパーや電子ジャーナルにおいて発信し、さらに議論を広げていくことを目指す。

#### [研究実施概要]

- a) 昨年度に引き続き、東洋文庫所蔵の貴重書を用いた講習会「アジア資料学研究シリーズ」を催し、「西洋古典書誌講習会—西洋書籍と東洋研究Ⅱ—」「東洋の Codicology Ⅲ—文理融合型東洋写本・版本学(講習会)—」として各2日間のセミナーを開催した。内外の書誌学研究者、研究資料館関係者からの応募があり、先着で52名の参加を得た。
- b) 現代中国研究班、現代イスラーム研究班がコーディネーターとなり、中国圏域とイスラーム圏域の相互影響をめぐる総合アジア圏域研究

シンポジウム “Islamic and Chinese Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Supra-Regional Spheres of Islamic and Chinese Regions” (The Third International Symposium of Inter-Asia Research Networks) を開催した。シンポジウムは2日間行われ、のべ93名の参加者を得た。

- c) 若手研究者の国際的な研究成果発信を支援するため、昨年度に引き続き、国立シンガポール大学出版のポール・クラトスカ氏を招き、セミナー “Scholarly Publishing in English: What Editors Expect” を開催した。東洋文庫に籍を置く若手研究員および日本学術振興会特別研究員が参加し、クラトスカ氏より英文研究論文の作成について指導をうけた。

## (2) 現代中国研究班

### 「現代中国の総合的研究 (2)」

総括	毛里和子*
政治	毛里和子*、天児 慧、青山瑠妙、興梠一郎、唐 亮、平野 聡
経済	中兼和津次*、加藤弘之、巖 善平、丸川知雄、梶谷 懐、寶劔久俊、唐 成
国際関係・文化	村田雄二郎*、平野健一郎◎*、濱下武志◎*、田中明彦、川島 真、貴志俊彦、黄 東蘭、砂山幸雄、高田幸男、古田和子、土田哲夫、尾形洋一、大澤 肇
資料	斯波義信◎*、矢吹 晋、貴志俊彦*、新村容子、城山智子、村上 衛、岡本隆司

現代中国は、政治、経済、社会の大改革を行い、その影響力は東アジアから広く世界に及びつつある。この動態を、歴史・文化の要因をも視野に収めながら、総合的に捉える研究体制（資料、政治、経済、国際関係・文化の各グループで構成）を構築した。資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点としつつ、学際的研究と公開利用に向けて拡充と再編をはかる。その際、台湾中央研究院や中国社会科学院、ハーバード・エンチン研究所との学術交流など、海外・国内の研究機関との連携をいっそう強化し、政治、経済、国際関係・文化グループは研究会の開催を継続実施し、次年度以降における成果の刊行に備える。



#### [研究実施概要]

- a) 資料グループは、2011 年度に刊行した和文論叢『モリソンパンフレットの世界』をもとに、引き続き東洋文庫が所蔵する近代中国関係資料の中心をなすモリソンパンフレットを整理し、系統的な調査・研究を着実に進めた。
- b) 政治グループは、政治・経済・行政・社会・法律各分野の専門家で陳情に関心を持つ中堅・若手研究者をメンバーとする「総合研究—陳情」研究会を継続した。
- c) 経済グループは、南京大学に保管されていた、戦前の中国農村調査の基礎データ（ロッシング・バック資料）を修理・収集し、広く利用可能なデータとして東洋文庫に収蔵する作業を継続した。さらに「歴史的視野から見た現代中国経済」研究の第2部として、毛沢東時代の「社会主義経済」にかんする再検討を行うため研究会を継続した。
- d) 国際関係・文化グループは、前年度に続き、全体的な研究テーマ「戦後中国の国際関係と社会・文化変容」の下、3ヶ月に1回程度の研究会を開催した。

### (3) 現代イスラーム研究班

#### 「現代イスラームの超域的基礎研究

—議会主義の展開と立憲体制に関する一次資料の収集と比較分析研究—

総 括	八尾師誠*
アラブ	池田美佐子*、長沢栄治、小杉 泰、関本照夫、松本 弘、鈴木恵美
イラン	八尾師誠*、松永泰行、黒田 卓、鈴木 均
トルコ	粕谷 元*、小松久男*、設楽國廣、江川ひかり、大河原知樹、秋葉 淳、澤江史子
中央アジア	湯浅 剛*、小松久男*、宇山智彦

世界の近現代イスラーム研究において、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書（アラビア語、ペルシア語、トルコ語）を収集・整理・分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義の政治思想と立憲体制の実態を比較・検討する。2009 年度からは、新たに中央アジア諸国を比較の対象に加え、基本資料の収集と整理・分析を行う。これによ



て中東・中央アジアなどのイスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を一次資料にもとづいて総合的に考察する。他方、イスラーム関係資料の収集と整理、データベース化を推進し、日本における資料センターとしての充実をはかる。

〔研究実施概要〕

現代イスラーム研究班の活動は、資料の性格に対応してアラブ、イラン、トルコ、中央アジアの4グループに分かれて実行される。アラブ、イラン、トルコグループの研究は、第1期（2003-2008年度）の実績を踏まえて、以下のように実施された。

- a) アラブグループ：2013年度にひき続き *A Guide to Parliamentary Records in Monarchical Egypt*（東洋文庫、2007）を利用して、議会文書の解説・分析を進めた。
- b) イラングループ：議会文書の分析を進め、イラン議会図書館との研究協力協定の一環として、Ali Tatari 氏のペルシア語書籍 *Financial-Administrative System and Institutionalization of the First National Assembly of Iran* を刊行した。
- c) トルコグループ：『トルコにおける議会制の展開』（東洋文庫、2007）および『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』（東洋文庫、2014）の研究成果を踏まえつつ、引き続きトルコの憲法と議会に関する資料文献の収集と分析を進め、研究会を開催した。
- d) 中央アジアグループ：昨年度に引き続き関係資料の収集と整理を行った。
- e) 4グループの合同研究会（7月26日、於：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）を開催し、宇山智彦「旧ソ連地域における主権国家体制の揺らぎ：『脅威』の虚実、『ナショナリズム』『地域統合』の両義性」、今井宏平「機能不全化するトルコの地域安定化政策：『アラブの変革』とウクライナへの対応を事例として」の報告を得た。

## B. アジア諸地域研究

### 〈東アジア研究部門〉

#### (1) 前近代中国研究班

##### ①「古代地域史研究—『水経注』の分析から—(2)」

総括 太田幸男\*

松丸道雄、藤田 忠、飯尾秀幸、靱山 明、塩沢裕仁、  
多田狷介、窪添慶文、池田雄一、金子修一、川合 安

本研究班では地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的方法による研究に挑んでいる。また流域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせて検討することで、歴史的な自然環境・社会的実態を具体的に理解し、流域の地域社会の構造の変化を明らかにしていく。刊行を予定している『水経注疏訳注』洛水・伊水篇訳注もこれらの成果を反映させたい。渭水下流域及び洛水・伊水流域は「黄河文明」の中心地である。ここを「地域史」という観点から分析することは中国古代史研究においては新鮮な視点であり、『水経注』の研究という範疇を超えて、内外における中国古代史研究の新たな展開となる研究を目指している。

##### 〔研究実施概要〕

- a) 陳橋驛復校『水経注疏』（江蘇古籍出版社刊）をテキストとし、洛水・伊水篇（巻15）の講読を隔週の研究会において実施し、完了した。
- b) 上記の研究会での成果と2013年12月に行った洛水・伊水流域の現地調査による成果等をふまえて、東洋文庫中国古代地域史研究グループ編『水経注疏訳注 洛水・伊水篇』（東洋文庫論叢78）を刊行した。

## ②「東アジア都城の考古学的調査・研究（3）」

総括 清水信行\*

早乙女雅博、飯島武次、妹尾達彦、井上和人、小嶋芳孝

本研究班では、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行い、その研究成果として2004年度に『東アジアの都城と渤海』、2006年度に『渤海都城の考古学的研究Ⅱ』を公刊した。2011年には上京龍泉府、2012年には上京龍泉府、虹鱒漁場墓地遺跡、三霊屯遺跡等の中国所在の渤海遺跡を踏査、資料収集を行った。現在、中国では上京龍泉府、西古城、八連城など都城及び古城跡の調査が進行し、それら遺跡の報告書も刊行され、渤海遺跡に関する資料が増大した。そのため、これら遺跡資料の机上における整理と調査・研究が重要となっており、現地における調査とともに継続していくことが今後の活動の中心となる。

## 〔研究実施概要〕

引き続き中国吉林省所在の八連城、西古城、黒竜江省上京龍泉府など渤海の都城に関する遺跡を調査した。これらの遺跡については中国でかなりの量の発掘報告書が刊行されたため、それらの報告結果の精査を行い、これまでの研究成果と合わせて再検討を行った。

## ③「中国社会経済史用語解集成の作成とその電子辞典化」

総括 斯波義信◎\*

梅原 郁、千葉 隼、渡辺紘良、妹尾達彦\*、徳永洋介、石川重雄、土肥祐子

本グループがこれまでに作成・公刊した『宋史食貨志訳註（一）～（六）』（東洋文庫、1960-2006）、および『宋会要輯稿・食貨篇・社会経済用語集成』（東洋文庫、2008）における訳註および用語の収集の成果をベースとして、整理と増補を加え、広範囲かつ多方面の利用者の便宜に適合するような冊子体およびCD-ROMの用語解説集を作成し、研究活動のいっそうの発展に資するプロジェクトである。

## 〔研究実施概要〕

- a) 『宋会要輯稿・食貨篇・社会経済用語集成』（東洋文庫、2008）に収載する約8万の用語を、検索の便宜に向けて、A. 財政、B. 経済、C. 社会、

D. 公用語の4範疇（同中・小区分）に従って再整理・再編集し、デジタル化して公開した。

- b) 『中国社会経済史用語解』（東洋文庫、2011）を増補拡充するため、司法・商業の用語の解説・語釈を実施し、宋明刊「清明集」戸婚門、道釈門、明刊「万用正宗」律令門、商旅門の訓読と用語の採集を行った。
- c) 次年度に『唐宋編年史料語彙索引』（約6万語彙原稿カードによる）を電子媒体で編集して公開するための準備作業を行った。

#### ④「前近代中国民事法令の変遷」

総括	山本英史*
南宋	大澤正昭、青木 敦
元代	鈴木立子
明代	鶴見尚弘
明清代	岸本美緒、濱島敦俊、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児

宋代以降の戸婚・田土・錢穀などを扱う「民事」法令を分析し、どのように変遷してきたかを明らかにする。中国の各時代の様々な法についての研究の中でも、近20年の特徴のひとつとして、法令の有効性、厳格性などを版牘文や契約文書によって検討する研究がなされてきたことがあげられる。契約文書や多くの条例、版牘文などが発見され、また中国国内にあるものが利用しやすくなったことにもよろう。本研究班も過去5年間、この方向で研究活動をしてきた。この5年間の研究をとおして、あらためて法令そのものに視点をあてることが必要であることに到った。民事的な法令に限ったのは、社会状況を反映しやすく、社会の実態の変化を分析するに適しているためである。一度できた法は常に現実社会に適合しにくくなってゆくが、時代を通して考察することにより、漢族社会の大きな変容をつかむことができると考える。

#### 〔研究実施概要〕

- a) 2013年度に引き続き、宋～清の条例の収集を進めた。
- b) 収集した条例の整理、解説と並行して定期的に研究会を開催し、メンバーが各自分担研究する研究報告を数度実施した。
- c) 内外の研究者と意見交換の場としての拡大研究会として、本年度は中国厦門大学の鄭振満教授を招き、講演と学術交流を実施した。



## (2) 近代中国研究班

### 「20 世紀前半日本の中国調査」

総 括 内山雅生\*  
 経 済 久保 亨、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎  
 政 治 本庄比佐子、松重充浩、田中比呂志  
 文化・社会 高田幸男\*、佐藤仁史、浅田進史、山本 真、瀧下彩子◎

本研究は、1910 年代から 40 年代前半に日本の諸研究調査機関が中国で実施した調査活動に関する資料収集とその分析を行うもので、その重点は華北におくが、地域的特質を検討するために華中・華南を含め、日本側および中国側の資料の活用について新たな視点から再整理をはかり、20 世紀前半期の中国社会の全体像を考察する。

### 〔研究実施概要〕

- a) 華中・華南を対象に加え、日本及び中国における資料調査・収集を引き続きおこなった。
- b) 定例研究会を開催し、山本真「華南福建の社会構造から読み解く革命と戦時総動員—在地武装勢力に着目して—」、本庄比佐子「台湾から華南を見る—資料の一つ『台湾時報』—」、高田幸男「江南プロジェクトの現状—科研第 2 期第 1 回調査へ向けて—」の各報告を得た。
- c) 『近代中国研究彙報』第 37 号を刊行した。

## (3) 東北アジア研究班

### ①「日本所在近世朝鮮文献資料研究 (2)」

総 括 六反田豊\*  
 吉田光男、糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、  
 森平雅彦、山内弘一、山内民博

当班では 2004 年度以来、京都大学附属図書館や天理大学附属天理図書館今西文庫をはじめ、日本国内の各機関・個人が所蔵する近世朝鮮の記録類の調査を進めてきた。本課題はそれをさらに継続し、第 2 次調査をおこなうことにより、解題目録の完成を期すことをめざす。すでに近世朝鮮の古典籍類

(いわゆる「朝鮮本」)については総合的な調査が進められ、その全貌がある程度解明されているが、これに対し地方官庁や民間で作成され、「成冊」などと呼ばれる帳簿類など各種の記録類については、これまで全体的な調査がなされることがほとんどなかった。2004年度からの第1次調査では、もはや現地では所在が確認されていない資料を発見し、その内容分析をおこなうなどの成果もあげており、第1次調査と今回の第2次調査によって、日本における当該資料類の悉皆的な調査をほぼ達成できるものと見込まれる。

〔研究実施概要〕

- a) 『日本所在近世朝鮮記録類解題Ⅱ』刊行の準備作業を進めた。
- b) 調査済み資料について書誌データの整理と分析を進め、また韓国所在の資料類との対照作業を通じて近世朝鮮の各種記録類の性格を検討した。
- c) 未調査資料のリストを作成し、予備的調査を行った。

②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究(2)」

総 括 松村 潤\*

満洲語檔案 加藤直人、中見立夫、楠木賢道、細谷良夫、柳澤 明、  
杉山清彦

清代の第一公用語である満洲語は、清初ばかりでなく、清朝一代にわたって用いられた言語である。18世紀の乾隆帝代より、京師に暮らす旗人たちは、日常語として漢語をもちいるようになっていったが、文章用語としての満洲語は、民国にいたるまで継続して利用された。現在、北京・中国第一歴史檔案館には、約1千万件の文書資料が保存されているが、そのかなりの部分は、満洲語(または漢語とのいわゆる合璧)によって記されたものである。このことは、清代の文書伝達体系全体において、満洲語の利用が不可欠であったことを示している。とくに入関前(1644年以前)および清初の時期の文書・書籍、ならびに旗人、藩部をはじめとする辺境地方、そして対外関係等の文書において、多くの場合満洲語が用いられている。本研究は、これら満洲語で記された、または場合によっては印刷された清代の文献資料について、清初期を中心として総合的に検討を加えようとするものである。

〔研究実施概要〕

清初の「内国史院」関係文献と『鑲紅旗満州衙門檔案』の研究を実施する。2012年度に出版した「天聰五年檔Ⅱ」にひき続き、崇徳年間分の檔案研究

を継続した。また、『鑲紅旗檔』研究編 (TBRL *The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko*) の編集作業を継続した。また、本研究グループが長年にわたって実施した調査によって得られた清史関連文献の整理・研究を併せておこなった。

### ③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析 (2)」

総 括 石橋崇雄\*

岸本美緒\*、C.A. ダニエルス、柳澤 明\*、武内房司

中国ではこの数年にみられる内外政治・経済・民族を中心とする国家事業が急進するなか、長期間に互って内在していた政治・経済・民族・文化問題が表面化している。チベットやウイグルをめぐる自治区の問題はその端的な事例であり、その影響は広く中央アジア・北アジア領域世界にも及んでいる。そこには、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を進展させた清朝の最大版図が直接に現代中国と繋がるなか、その一体化から生じた政治・経済・民族・文化の問題も現代中国に直結していた反映と捉えられる特徴が多々窺える。新たに用いられ始めている「中華民族」の呼称はその顕著な例として捉えうる。本研究班では、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を独自に進展させた清朝の国家領域構造と対外関係の問題を総合的に研究・分析してきた。刊行予定の英文論文集にこれまでの成果を反映させると共に、引き続き清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、清朝の国家領域構造と対外関係を分析する上で不可欠な檔案（公文書）類のうち、保存収蔵状況が未詳な檔案類を中心に体系的に蒐集、整理、デジタル化し、向後の研究に貢献することを目的とする。

#### 〔研究実施概要〕

- a) 欧文論叢 (TBRL) 『清代諸領域の歴史的構造分析』第1巻・清朝初期政治史研究 (1) ならびに同『清代諸領域の歴史的構造分析』第2巻・『壇廟祭祀節次』の刊行を準備した。
- b) 前年度に引き続き、清朝政治史、清代中国社会経済史、清代中国近代政治史、清代モンゴル・露清関係史、清代中国西南民族史の各専門研究領域をもとに、既成の領域世界・時代区分の枠を越えて海外における図書館・檔案館・研究機関などに所蔵されている檔案文献史料類の史料調査・



現地調査を実施し、旧来のマイクロ＝フィルム方式や新たなデジタル化方式による蒐集・整理・分析作業を行うと共に、中国で新たに影印されている大部の檔案文献史料類の蒐集することを進めた。

- c) 上記の文献史料類について、目録作成を進めると共に、デジタル化によって幅広い利用ができるようにした。またこれらの新規蒐集史料と東洋文庫収蔵の文献資料とを活用し、上記の課題に関する研究を推進し、その研究成果を個別論文・論文集・史料集などの形で公開することを目指した。欧文論叢 (TBRL) として準備した『清代諸領域の歴史的構造分析』第2巻・『壇廟祭祀節次』はその一環であり、東洋文庫所蔵の『壇廟祭祀節次』(漢文・満洲文)を取り上げ、広く中国の国家祭祀研究への大きな貢献をめざしたものである。

#### (4) 日本研究班

##### 「岩崎文庫貴重書の書誌的研究 (2)」

総括	今西祐一郎*
語学	柳田征司、石塚晴通
文学	深沢眞二、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、枋尾 武、 宮崎修多
思想・文化	斉藤真麻理、和田恭幸

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2006年度までに室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題 (I～V) を公刊したことを受けて、ひき続き近世の成立ないしは刊行の貴重書を調査して研究の基盤を整備するとともに、その成果を広く公開することをめざしている。

##### 〔研究実施概要〕

2015年度刊行予定の『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅷ』に向けて、岩崎文庫所蔵資料について書誌調査を行い、研究会を催し、執筆作業を進めた。また、その資料群の全体像の把握に努めた。



## 〈内陸アジア研究部門〉

## (1) 中央アジア研究班

## ①「サンクトペテルブルグ所蔵古文献の研究—ウイグル文を中心として—」

総 括            梅村 坦\*

ウイグル        P. ツィーメ、小田壽典、松井 太、橋堂晃一

コータン        熊本 裕

東洋文庫が入手したサンクトペテルブルグの東洋学研究所のマイクロフィルムのうち、ウイグル語とソグド語については『東洋文庫所蔵 St.Petersburg ウイグル文字・ソグド文字・マニ文字写本マイクロフィルム仮目録 [第1稿]』として、初期の現地での実見データの一部を取り込んだフィルム番号整理一覧を、2002年に刊行した。その後、マイクロフィルムのデータを昨年までのプロジェクトでデジタル整理を続けた。ほぼ完成に至った目録の改訂版を原稿とし、冊子かデジタルデータの形で編集し直して刊行することは、内外研究者の要望に沿うことになる。ただし、東洋文庫と東洋学研究所の初期の契約の制約があるため、その刊行方法については慎重に検討をおこなうものとした。ついては、ウェブ上に未公開のものを含む大英図書館蔵のウイグル文字文献の一覧表などと合わせて刊行する可能性も検討したい。その中から、文書研究の成果についての論文をこれに付すこととする。

## 〔研究実施概要〕

前年度に引き続き、以下の研究を実施した。

- a) 目録改訂版の増補をベースとして文献研究を進め、各メンバーが個別成果として発表した。
- b) 古ウイグル文を中心とする古文献の研究文献一覧を増補し、下記 c、d の成果に反映させた。
- c) 漢文との合璧文献を中心として、2-(1)-③「漢語文献」グループとの協同研究をすすめた。
- d) データベース「IOM 所蔵ウイグル文書目録—東洋文庫蔵マイクロフィルムより—」を作成して東洋文庫のサーバに搭載し、当面内部での利用ができるようにした。

## ②「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと政治権力」

総 括 小松久男\*

梅村 坦\*、堀川 徹、新免 康、長縄宣博、濱田正美

ソ連解体（1991 年）以後、中央ユーラシア近現代史研究は、大きく可能性が開かれた。これまでアクセスが不可能であった多種多様な史料が公開され、また現地の研究者との共同研究や外国人研究者による現地調査も可能になったことは、決定的な意味をもっている。こうした中で、本研究は次の 2 点を課題とする。

第一に、8 世紀以降の中央アジア史を考えると、その政治と社会、文化においてイスラームが果たした役割を無視することはできないが、ソ連時代は無神論イデオロギーのためにイスラームに関わる諸問題は不当に軽視されてきた。いま新たな中央アジア史を再構成しようとするならば、この点を克服することが不可欠である。第二に、ペレストロイカ以降、中央ユーラシア地域においてはイスラームの復興が顕著であり、イスラーム国家の樹立を目標とする急進派は、世俗主義を掲げる政権との間に鋭い緊張関係を作り出している。このような現代のイスラーム復興主義は、中央ユーラシア史の文脈においてどのように考えるべきだろうか。それには、近現代史におけるイスラームと政治権力との相互関係を実証的に検討することが不可欠である。

### 〔研究実施概要〕

- a) 国内外における資料収集を行った。
- b) NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点との共催で 2 回研究会を開催し、Diliara Mirkasymovna Usmanova（カザン連邦大学教授）「国家と信仰の間で—第一次世界大戦中のロシア・ムスリムのふるまい—」（8 月 28 日）、Zaynabidin Abdirashidov（ウズベキスタン国立大学上級講師・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター外国人研究員）“Known and unknown Fitrat: Early convictions and activities”（11 月 29 日）の報告を得た。

③「サントペテルブルグ東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献  
マイクロフィルム目録のデータベース化」

総 括 土肥義和\*

梅村 坦\*、石塚晴通\*、片山章雄、妹尾達彦\*、荒川正晴、  
氣賀澤保規、關尾史郎、池田 温、岡野 誠

2002年に東洋文庫が世界にさがけて入手した東洋学研究所の内陸アジア出土文書マイクロフィルム（全363リール、約25万齣）には、4、5世紀から15世紀に及ぶコータン・サカ語、西夏語、チベット語、ウイグル・ソグド語、漢語、チャガタイ・トルコ語、サンスクリット語、アラビア語、ペルシア語、満洲語、モンゴル語の11言語の文書が含まれている。このフィルム資料の目録をデータベース化してそれを公開することは、わが国だけでなく、諸外国の研究機関・研究者の希求するところ切なるものがある。

本研究は、上記フィルムの中からとくに漢語文献を抽出してそのフィルム目録のデータ化を図るとともに内陸アジア出土漢語文献の特性を明らかにすることを目的とする。

〔研究実施概要〕

- a) 敦煌出土文献 Reels 256～363のうち、漢語文献のある40リールについてリールに付された各文献整理番号とその齣数とを対照させた仮目録を作成し、文庫の閲覧に供するべく各文書に付された文献番号の「索引」作りを進めた。
- b) 上記文献中、『俄藏敦煌文献』（上海古籍出版社、1993）で未収録とされる漢語文献約700件について、前年度に引き続き内容を検討した。その中の20件については録文を作成し出典を確定することができた。
- c) サントペテルブルグ所蔵ウイグル・ソグド文字文献全31リールのうち、21リールに含まれる漢語文献約1,100件余りについて、文献番号とそのmicrofilm 齣数とを対照した「仮目録」を作成するとともに、できる限りその録文と出典を示した目録の作成に着手し、その結果、非仏典漢語文献の集約については一定の目途を立てることができた。
- d) 本研究班における研究成果として、『敦煌・吐魯番出土漢語文献の様式・特性の研究』（仮）を刊行するために、前年度に引き続き定期的に「内陸アジア出土古文書研究会」・「8-11世紀内陸アジア出土漢語文書輪読会」を開催し、編集作業を進めた。

## (2) チベット研究班

### 「チベット蔵外文献の書誌的研究 (2)」

総 括	吉水千鶴子*
仏教思想	川崎信定
敦煌文献	武内紹人
ボン教	御牧克己
宗義文献	松濤誠達
歴 史	山口瑞鳳
密教図像	立川武蔵
言 語	星 泉

チベット研究班においては、新たに発見された写本を中心とするチベット語資料を収集・保管し、歴史・文化・宗教の各分野にわたるチベット語文献の体系的網羅的なコレクションの充実をはかることを目的とする。収集した資料については目録化を行い、データベースとして公開すると同時に、敦煌チベット語文献、河口慧海将来文献などとともに東洋文庫所蔵チベット語蔵外文献として写本校訂と訳注研究を行い、データベースあるいはシリーズ刊行物として公開する。以上の3点により、世界的なチベット学の研究拠点として高い貢献を目指すものである。

#### [研究実施概要]

- a) 資料収集：近年中国で出版されたチベット美術関連の図書を収集した。チベット語大蔵経文献、蔵外文献の電子版を購入し、コレクションの体系的な充実をはかった。
- b) a) によって収集した資料の整理を行った。
- c) チベット人研究協力者の協力のもとに、次の研究を行った。
  - ① 筆記体写本の校訂：古いチベット語写本の多くは手書きの筆記体で書かれており、一般研究者には解読が難しいものがある。それらをチベット人協力者の指導を得て校訂し、活字体テキストデータベースを作成した。
  - ② ①のデータベースをもとに文献の分析・研究を行った。
- d) 『西藏仏教宗義研究 第11巻』、*Studies in Tibetan Buddhist Texts* vol. 2 の刊行準備を行った。



## 〈インド・東南アジア研究部門〉

## (1) インド研究班

## 「インド刻文史料の蒐集と研究」

総 括	辛島 昇*
	小名康之
ウルドゥー	萩田 博
ドラヴィダ	太田信宏、水野善文、石川 寛
アーリヤ	三田昌彦

インド（南アジア）の刻文研究は、これまでわが国でごく僅かな研究者しかいなかったが、近年、ドラヴィダ系言語について石川寛、太田信宏、アーリヤ系言語について三田昌彦、古井龍介といった若手研究者が育ってきた。刻文は、「史書なきインド」の古代・中世史研究における根本史料であるにもかかわらず、そのようなこれまでの状況から、わが国においては、テキストおよび研究書の蒐集が充分とは云えない。他方、インド自体での刻文研究は、テキストの出版が遅れていることと、若手研究者が育たないことによって、危機的な状況にあるとさえ云いうる。また、世界的にも、インド刻文の研究者数は、極めて少ない。そのような状況に鑑み、わが国の研究機関において、未出版のものをも含めてインドの刻文史料を蒐集し、それを国際的に公開しながら、わが国の新しい研究者の力を結集して、インド古代史・中世史の研究進展を図ることは、わが国のインド研究に課せられた急務と云えよう。

## 〔研究実施概要〕

- a) 実際の出来事を記録する刻文と、年代を経て語り継がれる口頭伝承の関係は重要で、2015年2月、Brenda Beck トロント大学教授と Y. Subbarayalu タミル大学元教授を招いてセミナーを行い、中世タミル地方の口頭伝承と刻文の関係を検討した。
- b) 2014年3月に東南アジア研究班と合同で行った、南アジア・東南アジア前近代における国家形成と社会統合についての国際シンポジウム報告書(TBRL)の作成を行い、原稿を完成させた。
- c) インド研究班が2009-2014年度に行ったインド刻文研究についての報告書 *Report on Indian Epigraphical Studies* の作成にかかり、その原稿をほぼ

完成させた。

## (2) 東南アジア研究班

### 「近現代東南アジアに関する史料研究」

総括 弘末雅士\*

嶋尾 稔、青山 亨、北川香子、坪井祐司、島田竜登、  
東條哲郎、牧野元紀◎

近代日本と東南アジアは、明治期の後半から緊密な関係を有し始め、第二次世界大戦期に日本は東南アジアを軍事占領した。また戦後日本は、東南アジアと緊密な経済関係を形成するに至っている。こうしたなかで日本の東南アジア研究も、この40年間に飛躍的な研究の発展をとげた。ただし日本の東南アジア研究は、第二次世界大戦後にいきなり始まったわけではない。すでに大正期より東洋史の東西交渉史の一分野として南洋史が注目を浴び、また南洋ブームの高まりとともに経済関係の文献も出版されていた。そして第二次世界大戦期には、翻訳本も含め多数の東南アジア関係の文献が出版された。これらの文献は、一部の実証研究を除いて、学術的にあまり注目を浴びてこなかった。しかしそれらは、日本の東南アジア観を検討するためのみならず、東南アジア社会を考察する上においても、重要な資料となりうる。本研究は、従来力点が置かれた日本の東南アジア関与という観点からのみならず、当時の東南アジアの社会統合に果たした日本人の役割の視点からその記述を検討し、日本人をはじめ中国人やインド人さらにはアラブ人や欧米人など多様な人々が居住した近代東南アジア社会の特質について研究する。

### 〔研究実施概要〕

- a) 近代東南アジアの都市の社会統合に果たす日本人の役割に関する文献資料の整理を行い、関係文献目録のデータベース作成について検討した。
- b) カンボジアをはじめとする東南アジアの主要都市を訪れ、外来系住民の居住空間の歴史的展開について調査した。
- c) 研究会を開催し、日本人をはじめ外来系住民を交えた近代東南アジアの都市の社会統合について議論し、併せて成果の出版について検討した。

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究 (2)」

総 括	三浦 徹*
トルコ	永田雄三、磯貝健一、林佳世子、高松洋一
契約観念	後藤 明
トルコ・ペルシア	
	清水宏祐、堀川 徹*、守川知子、矢島洋一
アラブ	佐藤健太郎、高野太輔、原山隆広◎

ワクフ（宗教的寄進）は、都市や農村の宗教施設を建設するだけでなく、経済基盤となり、政治権力者、名士、民衆の結びつきをつくった。ワクフに関わる、法学書、年代記、地理書などの叙述史料とワクフ寄進文書や調査台帳などの文書史料を収集し、諸地域における実態と歴史の変容を解明する。

〔研究実施概要〕

- a) 第1期からの継続課題であるヴェラム文書（モロッコの契約文書、東洋文庫所蔵）について、アラビア語文書校訂および英文解説のための研究会を月例で開催するとともに、関連資料の収集や調査を行った。
- b) ワクフ文書の総合的研究にむけ、フランス CNRS 国際共同研究（GDRI）と連携し、アルジェリアでのワークショップ（6月）に参加するとともに、第4回中東研究世界大会（WOCMES、アンカラ、8月）において、ヨーロッパとイスラーム世界の寄進を比較するパネルを組織した。
- c) 第2期の成果として、TBRL15 *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries : Part I* を、編纂・刊行した。モロッコやオランダの研究者の協力を得て、本研究における国際的な研究の端緒となるものと位置づけられる。『イマーム・レザー廟ワクフ文書集』（TBRL、ペルシア語）の校訂と研究を進めた。

## C. 資料研究

### 〈資料研究部門〉

#### 東アジア資料研究班

##### 「東アジア資料の研究」

総括	斯波義信◎*
総括補助者	田仲一成◎*
日本	浅野秀剛、片桐一男、延廣眞治、吉田伸之
中国	丘山 新、小川裕充、佐藤慎一、鈴木博之、戸倉英美、 濱下武志◎*、矢吹 晋*、平勢隆郎、片山 剛、尾崎文昭
朝鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
情報	廣瀬紳一

中国、台湾、香港、東南アジア華人社会などに所蔵される文献資料の探索、各国図書館との国際的情報交換・資料交換・人的交流を目指す。

##### 〔研究実施概要〕

- 中央研究院歴史語言研究所の漢籍全文資料庫授權使用協定により、洋書（旅行記）10,000 頁をデジタル撮影して提供した。
- 中国人民大学副教授呉真博士を約1か月間、招聘し、東アジア比較演劇史の共同研究を実施した。
- 中国祭祀演劇関係写真データベースの開発・公開・補充を行った。このデータベースの月間アクセス総数は400,000件に達し、単独項目としては、東洋文庫の蔵書資料検索項目の中で最高値を示すに至っている。



## D. 地域研究プログラム

## (1) イスラーム地域研究資料室

「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

室 長      三浦 徹\*  
              堀川 徹\*、近藤信彰、高松洋一\*、大河原知樹\*、  
              磯貝健一\*、秋葉 淳\*、渡辺浩一、柳谷あゆみ、  
              原山隆広◎\*、徳原靖浩

本研究では、イスラーム地域の現地語史料について、書誌情報や文献情報の体系化を進めることによって研究の基盤を作り、同時に史資料の体系的な収集や利用のための環境を構築する。史料群を地域社会全体を表す縮図と捉え、これを体系的・俯瞰的に研究することによってイスラーム地域の重層的な像を解明することを目的とする。

〔研究実施概要〕

- a) 現地の出版状況や、現地及び海外の研究動向を踏まえ、現地語資料および欧文研究書等の収集と整理を行った。我が国のイスラーム地域研究の成果を国内外により開かれたものにするため、「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」のデータの更新および科研費（研究成果公開促進費）との連携による国際版の作成・公開を行った。また、アラビア文字資料司書連絡会を開催し、機関の枠を超えたアラビア文字資料の収集と利用に関する情報共有を行った。通算4回目となる「卒論を書くための情報検索リテラシーセミナー」では、大量の情報から効率的に必要な情報を検索するための方法を学生に直接レクチャーし、検索スキルの面でも向上を図った。同セミナーは新たに現代パレスチナ地域研究を専門とする錦田愛子（早稲田拠点構成員）による、フィールドでの資料収集についてのレクチャーを加え、より広く専門の学生に対応することができた。資料の整理に関しては、大学図書館等における現地語資料の整理に有益な、アラビア文字とラテン外字の入力補助パネルを拠点ホームページ上に公開した。
- b) 史料研究では、昨年度に引き続きオスマン民法典の翻訳を目的とした「シャリーアと近代」研究会を計5回行うと共に、共著『イスラーム法の

「変容」(山川出版社、イスラームを知るシリーズ)を刊行した。NIHU 連携研究で作成したオスマン民法典研究関係文献データベースを nDP (nihu Data Provider) 上で公開すると共に、基本文献 1 点の全頁画像をホームページ上に公開し、オスマン民法典研究の研究環境の整備を行った。特定史料の研究成果として、東洋文庫研究部西アジア研究班との連携により東洋文庫所蔵ヴェラム(皮紙)契約文書のアラビア語テキスト校訂と研究(TBRL15 *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part I*)を刊行した。第3回オスマン史研究会のほか、共催により近代中央ユーラシア比較法制度史研究会、「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」研究会、第13回中央アジア古文書セミナー、第7回オスマン文書セミナーを開催し、トルコ、エジプト、イラン、中央アジアの幅広い分野で史資料を扱う若手研究者や学生の育成を行った。国際連携の面では、科研費(基盤研究)「ワクフ(イスラーム寄進制度)の国際共同比較研究」との連携により、第4回中東研究世界大会(アンカラ)でのセッションの開催や東京でのワークショップ開催(2月)などの活動を行った。

## (2) 現代中国研究資料室

「日本における現代中国資料の情報・研究センターの構築：

資料の長期的系統的分析による現代中国変容の解明」

室 長      土田哲夫\*  
高田幸男\*、内田知行、大澤 肇\*、貴志俊彦\*、  
久保 亨\*、小浜正子\*、田中 仁、中村元哉、  
内山雅生\*、瀧下彩子◎\*、相原佳之

中国研究についてのウェブやデータベースに関する情報を交換し、研究者の知見を広めるために、国内外の研究者・実務家を招いての国際シンポジウム及び小規模なワークショップを開催する。また東洋文庫所蔵及び新規収集の一次資料に基づいた共同研究会を継続して開催し、資料の読解能力を高め、若手研究者の養成をはかる(年数回)。また、データベースや文献資料以外に、現代史研究に必要な資料の史料学的研究を進めるセミナーなどを開催する。

## [研究実施概要]

- a) 資料利用環境の整備および国内外諸機関との連携については、国立情報学研究所との連携により NACSIS-CAT への書誌登録を継続して行った。本年度中に約 6,000 タイトルの東洋文庫近代中国研究委員会（現・近代中国研究班）収集資料および現代中国資料が登録され、登録タイトル数は 56,000 件あまりとなった。
- b) 電子図書館についても、引き続き拡充に努めた。画像をインターネットで完全公開している資料は 516 タイトル、公開画像数は 41,000 画像あまりに増加した。また目次から検索できるシステムの整備など、利用環境の向上を継続した。
- c) 資料研究活動については、5つの研究班のもとで活発に行った。研究班体制の3年目として、過去2年間の実績をもとに、他機関・他大学との共催も含めて計17回の研究会・シンポジウムが開催された（江南地域社会班6回、図画像資料班1回、ジェンダー資料班5回、政治史資料班3回、1950年代史料班2回）。
- d) 海外交流面では、中国第二歴史檔案館副館長馬振犢氏ら5名を招聘し資料デジタル化にかかわるワークショップを催した。また江南地域社会班により20世紀中国江南における指導者・中堅層の人材養成に関する海外調査、海外研究機関との間でデータベース相互利用に関する協定の締結等を行った。
- e) 活動の成果として、近代中国の知識人が残した手書き日記の一部を活字化し注釈をつけた「王清穆『農隱廬日記』(4)」を『近代中国研究彙報』に公表した。また戦前期に出版された写真帳をもとに『『亜細亜大観』データベース』を作成し公開した。さらに、各研究班の活動をもとに、英文著作の翻訳出版、基本史料の解題出版、大学における講座の開催、データベースの拡充などの形態で成果を公表する準備を行い、2015年度中にその一部が公刊される。東洋文庫研究部現代中国研究班との協同で行っている所蔵資料「汪政權駐日大使館文書」についても目録作成事業を継続し、来年度の出版に目処をつけた。



## E. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

### (1) 研究成果公開促進費（データベース等）

#### ①「東洋学多言語貴重資料のマルチメディア情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である（財）東洋文庫が80年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数500,000件、冊数1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、図像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。書誌データは1994年度に入力を開始して以来、約18年を経て、647,000件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年度以降は、デジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを超える貴重書フィルム（35mm）を所蔵している。これをスキャナーにより画像にとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関するVideo資料を動画データベースとして公開する計画も一部実行して来ている。これらの努力の結果、2002年度において毎月2,000件であったアクセス数は、2013年3月末の段階で、当初の120倍、240,000件に到達した。今後は、書誌データについては、分類による検索を付加して、利用者の検索を容易にし、画像データについては、引き続きデジタル撮影を継続して、その量的拡大とメタデータの充実をはかる。また、動画については、この3年間に400分（5時間）をUpしたが、一層の充実を目指す。

#### [研究実施概要]

##### a) 画像データ

- ・ 地図
- ・ 風景、浮世絵・美人画・奈良絵本・挿絵など



- ・モリソン文庫（香港銅版画・水彩画など）
- ・梅原末治考古資料画像データベース
- ・中国祭祀演劇関係者写真データベース
- b) 全頁データ
  - ・岩崎文庫（総合、古蹟善本）
  - ・洋古書（宣教師文書、旅行記）、モリソンパンフレット
  - ・北支
- c) 動画データ
  - ・香港の祭祀と演劇（概観）
  - ・香港広東正一派道士の儀礼
  - ・憑依・降神儀礼
  - ・中国（江西）の儺舞・儺戲
  - ・目蓮戲
  - ・元宵祭祀
  - ・莆仙劇
  - ・廣東漢劇

②「日本における中東・イスラーム研究文献目録データベース 1868-2015」

〔研究代表者：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室長）〕

本データベースは、わが国における中東地域かつイスラームに関する研究文献の書誌データベースです。財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター（2003年3月廃止）編『日本における中東研究文献データベース 1868年～2000年』事業を継続し、2007年から東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室と日本中東学会の連携により、データを収集・公開しています。2008年度以降は、文部科学省委託事業「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」拠点強化事業「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」遡及入力事業の成果を収録しています。収録対象は、日本において1868年以降に刊行された中東地域かつイスラームに関する研究文献（図書、論文等）を収録しています。事典等のページ数の少ない項目、新聞・週刊誌に掲載された記事は含まれません。日本人の編著については、国外で発行された出版物を含んでいます。

〔研究実施概要〕

- ・「日本における中東・イスラーム研究文献目録データベース 1868-2015」  
国際版を WEB 上で公開する。
- ・平成 26 年度入力レコード数：4,000 件、データ容量：4MB

③「八世紀末期～十一世紀初期 敦煌氏族人名集成」

〔研究代表者：土肥義和（東洋文庫研究員）〕

本書を刊行する目的は、全世界の研究者が、古代の東西交流の重要拠点であった敦煌の社会・政治・制度・民族・文化等の実態を解明する際の有効な文字資料集として世界に普及させ、かつ研究を促進させることにある。敦煌から発見された漢語文献資料約 56,000 件の 7 割以上は 8 世紀末期～11 世紀初期のものといえる。そのために、本書によって、敦煌発見資料に見える漢語表記による人名の大部分をとらえることができる。漢語人名に限定しているが、当時の敦煌は蕃漢雑居の地であり、彼らは漢語で氏名を標記することがあったため、収集した人名は、漢人のほか、チベット人・ソグド人・突厥系諸族など、国際色が豊かである。また、本書は文字資料だけでなく、従来、等閑視されてきた絵画、造像などに見える人名も収集している点にも特色がある。さらには、人名のみならず、その人物と関係深い肩書きや地名等の情報も収集しており、各方面の研究に資することは間違いない。

そして、何より、本書が世界初の各種敦煌資料を網羅した人名索引であることに重要な意義がある。敦煌資料は膨大な資料が各機関に分蔵されているため、全体を一括した資料集はいまだに存在しない。また、資料の大部分が写本であるために、一部の文字の解釈が困難であり、さらにまた、資料全体を網羅したうえで信頼できる電子資料は作成されていない。そのような状況下において、諸資料の人名を網羅した本書は、研究史上画期的な意義を有している。

〔研究実施概要〕

土肥義和編『八世紀末期～十一世紀初期敦煌氏族人名集成：氏族人名篇人名篇』1冊 汲古書院刊

## (2) 基盤研究B

## ① 「モノ」の世界から見た中世イスラームの女性

～ガラス器と陶器を中心に～

〔研究代表者：真道洋子〕(2011年度採用、4ヶ年間・最終年度)

考古学、美術史、建築史、文献史学の観点から「モノ」を対象として、物質文化史から垣間見られる中世イスラームの女性の生活についてアプローチすることを目的としている。物質資料から女性そのものを明らかにすることはなかなか困難な作業であるが、この研究では、当時の女性論やジェンダー論を論じるのではなく、女性の周囲に存在していたと想定される生活用品などから多角的に文化をとらえ、生活文化の復元を目指している。既定の学問領域の枠を超え、女性を中心にその時代に生きた生の人間像を意識して、中性イスラーム時代の生活文化の諸相を解明しようとする新たな試みを提示したい。

## 〔研究実施概要〕

最終年度となる本年度は、早稲田大学に所蔵されているエジプト、フスタート遺跡出土遺物を中心に調査を行い、イスラーム時代のエジプトを中心とした物質文化の総括的な研究に取り組んだ。出土遺物は早稲田大学および出光美術館の合同調査によって、1978年から1982年にかけて実施された発掘調査の出土遺物で、正式にエジプト政府から日本調査隊に分与された貴重な遺物である。

5月には、ルーヴル美術館によるウズベキスタンのブハラ・オアシスに点在するイスラーム時代の遺跡の発掘調査にガラス班として参加した。ここでは、パイケンド遺跡を中心に発掘されたガラス器の精査を行い、エジプト資料と比較することで、この地域の特徴を明らかにした。成果は、2015年度に開催される国際ガラス史学会で報告する予定である。

また、秋には、ロンドンで行われたイラン文化と地中海ガラスに関する二つのシンポジウムに参加し、欧米を中心とした研究者との情報交換を行い、加えて、大英博物館、ピクトリア・アルバート美術館での資料調査、パリのルーヴル美術館で連携研究者の Rocco 氏とブハラ調査の打ち合わせを行った。

また、学会や学術的研究会のほかに、コプト・イスラーム物質文化に関する公開研究会を早稲田大学、東京大学、国士舘大学等で計4回実施し、社会に向けての研究成果の発表の場とした。



以上の活動によって、ガラス器と陶器を中心に中世イスラーム時代の生活文化の諸相を解明しようという研究の方向性を確立した。今後は、4年間の研究で生じた新たな課題としての物質文化の地域性についての比較研究を継続していく必要性を感じている。

## ②「江戸時代知識人の清朝史研究と近代日本における東洋史学」

[研究代表者：楠木賢道]（2011年度採用、4ヶ年間・最終年度）

本研究は、18世紀初めの荻生北溪・深見有隣、及び19世紀初めの志筑忠雄・馬場為八郎らをはじめとする江戸時代知識人の清朝史に関する研究の視角・成果・水準を明らかにし、それらがどのように内藤湖南をはじめとする日本の近代東洋史学者に影響を与えたか、そしてそれらがどのように満洲国期に変容していったのかを検討し、江戸時代以来の日本の清朝史研究の歴史を明らかにせんと試みるものである。本年度は、昨年度に引き続き、文化文政期から幕末期の日本の知識人たちを取り扱うとともに、近代東洋史学に与えた影響の見通しを立てる。あわせて、弘前藩で執り行われた「秋審」をれいにとりながら、江戸時代の明律・清律研究が、各藩・幕府の法運用に影響を与えたか、不作に対する禁忌として「秋審」が運用されたのかを、明らかにする。

### [研究実施概要]

研究代表者楠木賢道は、本研究の成果を単著『江戸の清朝研究』として原稿を完成させ、17世紀初めの清朝建国期・幕府による鎖国推進期、18世紀初めの享保の改革期、19世紀初めのレザノフ来航からゴロウニン事件期、幕末開国期の各時期における江戸時代知識人の清朝に関する研究の視角・成果・水準を明らかにして学界に問う予定であった。またその際研究の進捗状況のため、近代における影響については十分に論を展開できないと考えていたが、『江戸の清朝研究』を執筆する過程で、原稿は完成できなくても、近代における影響について深く探求する必要があると考えるに至り、幕末の江戸の漢学を支えていた知識人のネットワークを明らかにした。さらに、荻生北溪が康熙本『大清会典』を研究して享保の改革の参考資料としたのと同じ方法で、後藤新平は台湾総督府民政長官として臨時台湾調査会に嘉慶本『大清会典』を研究させ台湾統治の参考資料とし、初代満鉄総裁として満鉄調査部に旧慣調査報告を作成させ満鉄経営の参考資料としたが、その後藤が東京市長となったとき、それまでの経験に基づき同じ方法で江戸の自治制を研究



させ、東京の市政改革に乗り出したことを明らかにした。

また近藤重蔵『喇嘛考』に関する分析を進め、『江戸の清朝研究』の原稿を補充し、その成果を、中国における満洲族史研究の中心になりつつある吉林師範大学において招待講演し、質疑応答の成果を原稿にフィードバックすることに努めた。

さらに、黒龍江將軍衙門檔案のマイクロフィルムのデジタル化作業を行い、それを用いて調査し、1696-12 档冊が康熙帝とガルダンとの戦いを行ったものであることを確認し、読み進めた。

研究協力者浪川健治は、『弘前藩御刑法牒』『国日記』を分析し、法運用に明律・清律の影響が強く見られることを明らかにし、その成果を口頭発表した。

### ③「ワクフ（イスラーム寄進制度）の国際共同比較研究」

[研究代表者：三浦 徹]（2013 年度採用、5 ヶ年間・第 2 年度）

本研究は、フランス国立科学研究院（CNRS）国際共同研究「ワクフ」（2011-15 年、研究代表者 Randi Deguilhem エクサンプロヴァンス・地中海人文科学研究所教授）と連携し、イスラーム地域（中東・中央アジア）において、ワクフ（イスラーム寄進制度）によって形成される社会経済関係を分析し、寄進財に関わる国家、集団、個人の 3 者の社会関係を明らかにする。CNRS の国際共同研究にはアラブ諸国を中心に 10 機関が連携し、(財)東洋文庫研究部を中心に、トルコ・イラン・中央アジアの研究者、さらにヨーロッパ・中国・日本の寄進制度の研究者を組織した本研究計画を実施することによって、国際的なワクフ・寄進制度の社会機能に関する比較研究を行い、宗教と経済が結びついた社会のあり方を分析する。

#### [研究実施概要]

1. 国際研究集会 1.1 CNRS 国際ワクフ研究(エクサンプロヴァンス大学)とマスカラ大学(アルジェリア)の共催による国際研究集会“Waqf and its Terminology: Between Local Social Practices and Jurisprudential Norms”(2014 年 6 月 23-24 日)に参加し、三浦徹(研究代表者)が“What is called an Act of Donation?: A Comparative Terminology”という表題で日本中近世における寄進を取り上げ、ワクフと共通する寄進の定義を行った。1.2

第 4 回中東研究世界大会(WOCMES、アンカラ、2014 年 8 月 18-22 日)に CNRS 国際ワクフ研究と連携し、パネル“Diversity and commonality in theory and in practice: analyzing waqf and other endowment models in

the Islamic World, Europe and beyond”を企画した。Randi Deghuilhem、大河原知樹、大月康弘、Jean Pierre Dedieu のビザンツやスペインやオスマン帝国の寄進に関する報告によって、「不動産等を永久寄進し、寄進者とも国家とも独立した経営体をつくり、それによる利益を寄進者の一族および慈善（公益）の双方に配分するシステム」が、歴史上さまざまな地域に広く存在することがあきらかとなった。

2. 海外研究者の招聘 Mohammadreza Neystani (CNRS 研究員) を招聘し、サファヴィー朝におけるシーア派ワクフの理論と実践について、“Structure and Uses of Shia Waqf during the Safavid Period”の報告をえた (2015 年 2 月 21 日)。

3. ワクフ共通データベースの作成 CNRS が設計したリレーショナル・データベース (ワクフ文書、研究文献、文書テキスト) について、上記 Neyestani 氏によるセミナーを開催した (2015 年 2 月 20 日)。

### (3) 若手研究 B

#### ①「ジャウイ史料の利用によるマレー民族の形成過程の研究」

[研究代表者：坪井祐司] (2012 年度採用、4 年間・第 3 年度)

『カラム』を中心としたジャウイ (アラビア文字表記のマレー語) の定期刊行物の分析を通じて、脱植民地化期の島嶼部東南アジアにおけるマレー人という民族集団の形成過程を再検討する。1950、60 年代のシンガポールにおいてアラブ系の編集者により発行された月刊誌『カラム』(京都大学所蔵) の分析に加えて、海外におけるジャウイ定期刊行物の収集、分析により、マレー民族の形成に外来者が果たした役割を再検討する。これにより、マレーシア (マラヤ) のナショナル・ヒストリーの枠内で単線的にとらえられてきた従来のマレー民族概念を相対化し、その形成過程を島嶼部東南アジアの脱植民地化における多様な勢力の競合の結果として動態的に描くことを目指す。

#### [研究実施概要]

ジャウイ雑誌『カラム』に関して、京都大学地域研究統合情報センターの共同研究「脱植民地化期の東南アジアにおけるマレー・ムスリムの自画像と他者像」(2013～14 年度) を代表者として組織し、連携しながら活動した。「カラム雑誌記事データベース」の内容を拡充し、資料のデジタル化・共有を進めるとともに、データベースを利用した研究を行った。2014 年 8 月にマレー

シアで行われた国際会議にて『カラム』に関するパネルを組織し、筆者は『カラム』の同時代の国際情勢への認識について報告した。10月に発行された日本マレーシア学会の学会誌では、4本の論文を含む『カラム』の特集を組んだ。筆者は、総論において民族主義に対抗するイスラム近代主義を代表する存在として『カラム』を位置づけるとともに、個別論文にて1950年代の政治記事の分析を行い、同誌が宗教の国家への制度化を志向したことを論じた。2015年3月にはディスカッションペーパーを発行した。筆者は、昨年の号から引き続いて写真からみた『カラム』の世界観を分析し、1950年代中葉に同誌の関心が内向きになったことを指摘した。上記の活動を通じて、『カラム』が当時のマレー・ムスリム社会のなかで非主流派でありながらも、主流派に対してより広いイスラム世界の視角から論戦を挑み続けたことを明らかにした。

それとともに、収集を進めてきたジャウィ新聞『マジュリス』の記事の分析を進めた。2014年12月のマレーシアにおける国際会議にて1930年代初頭のマレー人の地位をめぐる議論について報告し、同紙が英語紙を頻繁に引用し、論争していたことを示した。会議のワーキングペーパー（2015年3月）には報告をもとにした論文を執筆した。これにより、『マジュリス』などのジャウィ新聞が当時のマラヤ政治における論争で重要な役割を果たしたことを明らかにした。

## ②「宋金元代中国における石刻「文書」の歴史的展開」

〔研究代表者：小林隆道〕（2014年度採用、3ヶ年間・初年度）

本研究は、石に刻まれた公文書である石刻「文書」が10～14世紀（宋金元代）中国においてどのように展開したかを政治制度・文化・地域の各観点から考察する。

原文書の姿を精巧に復元する石刻「文書」は、北宋期（特に徽宗朝12世紀初）を転換期として歴史的に形成・展開し20世紀初頭まで続いており、中国独自の社会・文化に根ざした文書形態と言える。本研究では石刻「文書」を文書上の文字が紙から石へと史料体を乗り継いだ姿と位置づけ、その史料体（モノ）自体が有する歴史情報に十分注意を払う。フィールドワークや拓本調査を通し、当時の政治を直接的に表現した公文書を中国文化を代表する「書」を復元した形態で石に刻み、立石地で一定の機能を果たした宋金元代の石刻「文書」が、中国の政治・文化・地域の凝縮物としてどのように歴史的に展



開したのかを明らかにし、その成果を国際的に広く発信することが本研究の目的である。

#### 〔研究実施概要〕

研究実績計画に基づき、平成26年度は次の三点に重心を置き研究を進めた。  
1、文献史料の整理・分析。2、フィールドワーク。3、研究成果の発信。この三点に即して研究成果を記す。

まず1に関して。本研究では考察対象時代を従来の宋代よりも広く設定しているため、金代及び元代に関する文献史料の基礎的な整理・分析をまず行った。

次に2に関して。自らを「史料の資料化プロセス」に置き史料論を含めた研究を進めるため、中国に赴きフィールドワークを行った。8月には蘇州大学の丁義珏氏の協力を得て蘇州玄妙観の碑刻「玄妙観重修三門記」と蘇州文廟の碑刻を調査した。前者は元代を代表する書家趙孟頫が書丹したものであり、その草稿は東京国立博物館に所蔵されている中国書法上に重要な位置を占めている。しかし、原碑は失われ、現在立石されている碑は復元された模刻であり、書が石に刻まれる意味を考える上で当該碑刻は重要な考察対象であり、その大きさ、形状、位置などの現場状況の把握を行った。3に関して。ボストン、杭州で開催された2つの国際学会に英語論文を提出して参加し研究発表を行い、国内では2回の研究発表を行った。また、中国語論文を国際学会において影響力の強い論文集に1本公刊し、研究成果を国際的に発信した。これら海外での積極的な研究発表は現在の日本の学術界に求められる国際化の方向性に一致すると考える。

### F. 三菱財団補助金による調査研究

#### 「東洋文庫アーカイブスの構築に関する調査研究」

〔研究代表者：牧野元紀〕（2012年度採用、3ヶ年間・最終年度）

東洋文庫は、近代日本の「東洋学」（アジア・アフリカに関する人文社会系諸学の総称）の歴史において、常に中心的位置を占めてきた。世界5大東洋学研究図書館の一つであり、その名“TOYO BUNKO”は世界の東洋学者の間で広く親しまれている。創設90年を迎える今日、蔵書は約100万点に上っている。

2009年、書庫の増設、閲覧室・ミュージアムの新規開設を伴う本館の全



面建替工事の最中、取り壊し寸前の旧館倉庫から数多の資料が“発掘”された。いずれも創設前夜から今日に至るまでの東洋文庫の沿革に関わるもので、学術的・文化財的価値を有するものも含まれ、適切な保存と管理が求められた。

本プロジェクトは、これらの資料をアーカイブズ学的見地から整理・分類し、その状態や公開性に応じてデジタル処理を施すものである。資料の集積とそれに対応する目録の作成はほぼ完了した。検分と保存、デジタル化を現在も尚進めているところである。

最終目標は、「東洋文庫アーカイブズ」を文庫内の一角に公開すること、あるいは、インターネット上に立ち上げることである。本アーカイブズの開設により、世界における近代以降の日本東洋学の歩み、歴史的位相が明らかとなる。専門家のみならず、広く一般において東洋学への理解と関心を高めたい。

#### 〔研究実施概要〕

2013年9月から2014年8月までの一年間、研究代表者の牧野が勤務先の東洋文庫からの派遣でHarvard-Yenching Instituteの客員研究員に赴任した。これを受けて、本プロジェクトは一年間の延長が認められ、代表者は滞在先のアメリカ東海岸およびカナダ東部において先行事例の視察と関連文献の渉猟を実施した。

アメリカとカナダの両国は、ミュージアム Museum、図書館 Library、アーカイブズ（文書館）Archives の連携、いわゆる「MLA 連携」の先進国である。MLA 連携は日本においては通常、異なる個々の MLA の間での連携が想定されている。しかし、アメリカとカナダでは同一組織内に、特に図書館と文書館の中に充実した展示スペースが設けられていることが多い。先端的取組を行い、成果を挙げている以下の各館を訪問した：ニューヨーク公共図書館、モルガンライブラリー、カナダ国立図書館・公文書館、ケベック国立図書館・公文書館。各館では可能な限り、専門職員との情報・意見の交換を行った。

2014年9月、牧野が帰国した。9月から12月にかけて、アーカイブズ室を中心に東洋文庫内の記録書類を再精査した。その結果、段ボール箱数にして新たに4箱分の書類・写真類が見つかった。12月22日日中において、牧野とプロジェクトメンバーの中村がその書類の検分を行った。また同日夕方より他のプロジェクトメンバーおよび国立公文書館アジア歴史資料センターの研究員・調査員をオブザーバーとして招請し、東洋文庫アーカイブズの公開にあたっての具体的な作業手順・注意事項について意見を聴取した。

2015 年 1 月、学生 1 名を調査補助者として採用し、2 月中旬から 3 月末現在において、4 箱分の目録作成について代表者とともに作業に従事している。  
発表論文

1) 「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅：西洋生まれの東洋学」  
(学習院大学国際研究教育機構『学習院大学国際研究教育機構研究年報』1 号、2015 年)

#### G. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 亨	古代ジャワ史・ジャワ文学研究
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天兄 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 涉	医療社会史
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石川 重雄	中国宋元代の仏教・官箴・判牘研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
井上 和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究

研究員名

井上 和人  
今西祐一郎  
上野 英二  
内田 知行  
内山 雅生  
宇都宮美生  
梅田 博之  
梅原 郁  
梅村 坦  
宇山 智彦  
江川ひかり  
遠藤 光暁  
大江 孝男  
大河原知樹  
大澤 肇  
大澤 正昭  
太田 啓子  
太田 信宏  
太田 幸男  
大谷 俊太  
岡崎 礼奈  
岡田 英弘  
尾形 洋一  
岡野 誠  
岡本 隆司  
丘山 新  
小川 裕充  
奥村 哲  
尾崎 文昭  
小田 壽典  
小名 康之  
小沼 孝博  
梶谷 懷

研究課題

東アジア古代都城制度の比較研究  
源氏物語を中心とした平安時代文学の研究  
平安朝文学の研究  
中華民国社会史  
近代中国華北農村経済史  
古代中国都城史・古代中国水利史  
現代朝鮮語の記述的研究  
宋元時代の法制制度の研究  
ウイグル民族誌、内陸アジア史  
中央アジア近代史・現代政治  
トルコ社会経済史  
中国語音韻史・方言学  
現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究  
19-20 世紀シリアの社会史・政治史  
近現代中国における学校教育史  
唐宋時代社会史  
アラビア半島・紅海文化圏の歴史  
南インド近世史  
秦墓竹簡の研究  
室町・江戸時代文学の研究  
日本近代美術史  
アジア史  
近現代中国政治外交史  
前近代中国の王権・国家・法／敦煌吐魯番文献  
近現代中国外交史  
中国仏教資料研究  
中国絵画資料研究  
中国近現代史  
20-21 世紀中国の文学  
古トルコ語仏教文献の研究  
インド・ムガル時代史  
清朝時代のモンゴル・中央アジア地域の歴史・史料研究  
中国の財政金融改革

研究員名	研究課題
粕谷 元	トルコ現代史
糟谷 憲一	18-19 世紀朝鮮政治史
片桐 一男	日蘭文化交渉史の研究
片山 章雄	中央アジア古代史
片山 剛	広東農村社会史研究
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代档案史料の研究
加藤 弘之	地域開発の現状と政策に関する実証研究
金子 修一	中国古代史
金丸 裕一	中国政治経済史・日中関係史
辛島 昇	南アジア史
川井 伸一	中国企業研究
川合 安	六朝貴族制の研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
貴志 俊彦	東アジアの通信メディアをめぐる比較史的研究
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北川 香子	カンボジア史
北村 文夫	現代中東問題の研究
北本 朝展	デジタル・アーカイブ
橋堂 晃一	ウイグル古文献学
金 鳳珍	東アジアの歴史・思想・国際関係
草野 靖	中国王朝国家の発展と社会経済
楠木 賢道	清初の「民族」関係
久保 亨	中国近現代史
窪添 慶文	魏晉南北朝時代史
久保田 淳	日本中世文学、和歌文学
熊本 裕	イラン語史の研究
黒田 卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	中国隋唐政治社会史
巖 善平	中国の三農問題
黄 東蘭	近代日中関係史
高野 太輔	初期イスラーム史
興梠 一郎	現代中国論・中国現代史



研究員名

小嶋 芳孝  
小杉 泰  
後藤 明  
小浜 正子  
小松 久男  
小南 一郎  
近藤 信彰  
齋藤真麻理  
早乙女雅博  
櫻井 徹  
佐藤健太郎  
佐藤 慎一  
佐藤 宏  
佐藤 仁史  
澤江 史子  
塩沢 裕仁  
設楽 國廣  
部 勇造  
篠崎 陽子  
斯波 義信  
嶋尾 稔  
島田 竜登  
清水 宏祐  
清水 信行  
志茂 碩敏  
城山 智子  
真道 洋子  
新免 康  
末成 道男  
須川 英徳  
杉山 清彦  
鈴木 恵美  
鈴木 董

研究課題

渤海文化の考古学的研究  
現代イスラム政治の研究  
イスラム社会と政治の研究  
中国ジェンダー史、中国近現代社会史  
中央アジア近代史  
中国藝能史研究  
イラン史・ペルシア語文化圏史  
中世日本文学の研究  
東アジア考古学の研究  
在留外国人のコミュニケーション誌の現況について  
マグリブ・アンダルス史  
中国近代政治資料研究  
農村経済社会の長期変動  
近現代江南農村社会史研究  
現代トルコ政治  
中国古代歴史地理研究  
オスマン帝国末期政治史  
南アラビア古代史  
前近代中国文化史  
中国社会経済史  
ベトナム史  
東南アジア経済史、海域アジア貿易史  
セルジューク朝時代イランの研究  
古代の日本・大陸交流史  
13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究  
近現代中国の通貨・金融システム  
イスラーム・ガラス文化史  
中央アジア史  
東アジア社会人類学  
高麗・朝鮮時代の商業  
清朝政治社会史  
現代エジプト政治史  
トルコ史

研究員名	研究課題
鈴木 均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木 博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木 立子	元朝社会経済史
砂山 幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾 達彦	中国古代・中世都市史
關尾 史郎	敦煌・トルファン文書研究
関本 照夫	東南アジア伝統工芸業の研究
曾田 三郎	中国近代政治・社会史
高田 幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体
高遠 拓兄	清代における刑罰制度の研究
高橋 英海	西洋古典学
高松 洋一	オスマン朝史、古文書学、アーカイブズ学
瀧下 彩子	近現代中国社会文化史
武内 紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武内 房司	18-19 世紀を中心とする西南中国の歴史における社会・民間宗教研究
武田 幸男	朝鮮古代・近世史
田島 俊雄	中国農業・農家の経済計算と所得分配
多田 狷介	漢魏晋史
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田中 明彦	現代東アジア国際政治の研究
田中 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
田中 仁	20 世紀中国政治、中国共産党史
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルス	清代社会経済史、中国技術史
竺沙 雅章	中国仏教文化史
千葉 熈	宋代宮廷史
P. ツィーメ	古ウイグル文献学
塚原 東吾	科学史・科学哲学、STS
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井 祐司	マレーシア近代史

研究員名

鶴見 尚弘  
寺田 浩明  
唐 成  
唐 亮  
東條 哲郎  
徳永 洋介  
徳原 靖浩  
戸倉 英美  
枋尾 武  
土肥 祐子  
土肥 義和  
富澤 芳亜  
鳥海 靖  
中兼和津次  
長沢 栄治  
永田 雄三  
中谷 英明  
長縄 宣博  
中見 立夫  
中村 元哉  
新村 容子  
西 英昭  
西尾 寛治  
延廣 眞治  
萩田 博  
八尾師 誠  
濱下 武志  
濱島 敦俊  
濱田 正美  
林 佳世子  
林 俊雄  
原 實  
原山 隆広

研究課題

明・清時代社会経済史  
中国明清法制史  
現代中国金融の研究  
現代中国政治史の研究  
マレーシア近代社会経済史  
中国法制史  
ペルシア文学、イラン思想史  
中国古典文学資料研究  
和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究  
中国宋元代の南海貿易、明代の中琉貿易  
西域出土漢文文書の研究  
中国近代経済史  
日本近現代史  
現代中国経済・移行経済の研究  
近代エジプト社会経済史  
オスマン帝国社会経済史  
インド仏教学  
帝政ロシアのムスリム社会と国家  
清代モンゴル史・清代文書の史料的研究  
中国近代政治史—憲政史・メディア史  
近代中国におけるアヘン問題  
中国・台湾の近現代法制史  
マレーシア・インドネシア近世史  
江戸・明治の文芸  
ウルドゥー語学・文学の研究  
20世紀初頭のイランにおける立憲革命の研究  
中国近現代史  
中国近世社会経済史  
中央アジアにおけるイスラーム研究  
オスマン朝期中東社会史  
中央ユーラシア史・草原考古学の研究  
インド古代文学の研究  
アッバース朝末期政治史

## 研究員名

平勢 隆郎  
平野健一郎  
平野 聡  
弘末 雅士  
廣瀬 紳一  
深沢 眞二  
藤井 昇三  
藤田 忠  
藤本 幸夫  
古田 和子  
古屋 昭弘  
弁納 オー  
寶劔 久俊  
星 泉  
細谷 良夫  
堀川 徹  
本庄比佐子  
牧野 元紀  
松井 太  
松重 充浩  
松永 泰行  
松濤 誠達  
松丸 道雄  
松村 潤  
松本 弘  
丸川 知雄  
三浦 徹  
水野 善文  
三田 昌彦  
御牧 克己  
宮崎 修多  
宮脇 淳子  
村井 章介

## 研究課題

中国考古資料研究  
近代東アジア国際関係論  
中国党支配（国民党・共産党）の史的研究  
インドネシア宗教社会史  
漢字文化圏電子情報学の研究  
連歌・俳諧の研究  
現代日中関係史の研究  
中国古代政治・社会史  
朝鮮本研究  
情報・流通ネットワークの歴史的分析  
中国語史  
近現代中国農村経済史  
現代中国の農村社会経済変動の研究  
チベット言語学  
清朝政治史  
中央アジア文書研究  
近現代日中関係史  
ベトナムのキリスト教  
中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の研究  
近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史  
現代イランの政治・宗教及びシーア派研究  
インド古代神話学の研究  
殷周金文の研究  
東北アジア民族史  
イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治  
中国の産業集積および日中経済関係  
イスラム都市社会史  
古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学  
北インド中世史  
チベット宗義書の研究  
近世近代漢詩文の研究  
モンゴル帝国史  
日本中世を中心とする東アジア文化交流史



研究員名

村上 衛  
 村田雄二郎  
 毛里 和子  
 本野 英一  
 靱山 明  
 守川 知子  
 森平 雅彦  
 森安 孝夫  
 矢島 洋一  
 柳澤 明  
 柳田 征司  
 柳谷あゆみ  
 矢吹 晋  
 山内 弘一  
 山内 民博  
 山口 瑞鳳  
 山村 義照  
 山本 英史  
 山本 真  
 山本 毅雄  
 湯浅 剛  
 吉澤誠一郎  
 吉田 伸之  
 吉田 光男  
 吉田 豊  
 吉水千鶴子  
 吉村慎太郎  
 六反田 豊  
 和田 恭幸  
 渡辺 紘良

研究課題

清末沿海経済史の研究  
 中国近代史・中国地域研究  
 現代中国政治・外交及び東アジア国際関係  
 清末民初における対外経済関係  
 中国古代法制史・辺境論・資料論  
 イラン・イスラーム史  
 朝鮮中世・近世史  
 古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史  
 中央アジア史  
 清代外交史・民族関係史  
 日本語の歴史的研究  
 中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究  
 近現代中国経済  
 李朝史、朝鮮儒教研究  
 朝鮮後期郷村社会史研究  
 チベット学、仏教哲学  
 日本近現代史  
 17～19世紀中国社会構造の研究  
 近現代華南農村の社会構造  
 東洋学研究資料のデジタル・アーカイブ化  
 中央アジア政治史  
 中国近現代史  
 日本近世都市社会史  
 朝鮮近世史  
 ソグド語及びソグド語文献の研究  
 インド・チベット仏教思想史の研究  
 イラン近現代史  
 朝鮮中世・近世史  
 日本近世出版文化史および通俗仏書の研究  
 宋代社会史

(全 251 人)

## 2. 研究資料出版

総合アジア圏域研究との連携の下に、超域アジア研究と歴史・文化研究に関する一次資料の解析と研究の成果は、継続してきた和文および欧文の紀要・雑誌・叢書として刊行され、順次オンライン公開を進めた。さらに今回、総合アジア圏域研究に伴う成果を新たにアジア研究に関する英文の電子ジャーナルとして編集発行することにより発信力を高めた。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、さらに広い研究情報ネットワークと結びつくことにより、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

### A. 定期出版物刊行

- (1) 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報） 第96巻第1～4号  
A5判 4冊（刊行済）
- (2) 『東洋文庫欧文紀要』  
(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No. 72  
B5判 1冊（刊行済）
- (3) 『近代中国研究彙報』第37号 A5判 1冊（刊行済）
- (4) 『東洋文庫書報』第46号 A5判 1冊（刊行済）
- (5) *Modern Asian Studies Review*／新たなアジア研究に向けて Vol. 6  
オンラインジャーナル（刊行済）
- (6) *Asian Research Trends New Series* No. 9 A5判 1冊（刊行済）

### B. 論叢等出版

- (1) 『水経注疏訳注 洛水・伊水篇』東洋文庫論叢78 A5判 1冊（刊行済）
- (2) 2014年度国際シンポジウム要旨集 A4判 1冊（刊行済）
- (3) TBRL15 *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part I*  
B5判 1冊（刊行済）
- (4) *Financial-Administrative System and Institutionalization of the First National Assembly of Iran*  
A5判 1冊（刊行済）
- (5) IOM所蔵ウイグル文書目録—東洋文庫蔵マイクロフィルムより—  
DB （館内公開済）

C. 研究資料の全文オンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次研究資料の全文公開を行った。  
<http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html>

3. 研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

(前 期)

『華北の発見』

第541回 2014年6月30日(月)

「朝鮮在住日本人の華北認識

—総合雑誌『朝鮮及満洲』掲載記事を事例として—」

東洋文庫研究員

日本大学教授

松重 充浩 氏

第542回 2014年7月7日(月)

「華北地域概念の形成と日本」

東洋文庫研究員

信州大学教授

久保 亨 氏

『中国近世の規範と秩序』

第543回 2014年7月15日(火)

「光棍例の成立とその背景—清初における秩序形成の一過程—」

東洋文庫研究員

慶應義塾大学教授

山本 英史 氏

第 544 回 2014 年 7 月 24 日 (木)

「明末江南の商業化と宗族規範」

東洋文庫研究員

(台湾) 国立暨南国際大学教授 濱島 敦俊 氏

(後 期) 共通テーマ「アジアの古地図を読む」

第 545 回 2014 年 12 月 1 日 (月)

「中国古地図の世界—『地図文化史上の広輿図』—」

鳥取大学講師

要木 佳美 氏

第 546 回 2014 年 12 月 3 日 (水)

「山形細谷(細矢)家伝来「大明地理之図」—江戸時代の東アジア大絵図—」

東洋文庫研究員

東北学院大学名誉教授

細谷 良夫 氏

東洋文庫研究員

東北学院大学准教授

小沼 孝博 氏

第 547 回 2014 年 12 月 4 日 (木)

「地理的認識の交流—古地図から—」

京都大学名誉教授

応地 利明 氏

## (2) 特別講演会

2014 年 9 月 26 日 (金)

「中国民間歴史文献の収集と整理」〔中国語・通訳あり〕

厦門大学歴史系教授

鄭 振滿 氏

2014 年 11 月 29 日 (土)

「中国近代史研究と日中関係」

中山大学哲学系教授

袁 偉時 氏



「歴史認識と日中関係」

Seton Hall University 准教授 汪 静 氏  
〔中国語・通訳あり〕

2014 年 12 月 12 日（金）

「中国中古の仏教王権観」〔中国語・解説あり〕

復旦大学文史研究院副教授 孫 英剛 氏

2015 年 2 月 20 日（金）

“Is this just one more folk legend?” 〔英語・通訳なし〕

Professor, Department of Anthropology,  
The University of Toronto Brenda BECK 氏

2015 年 3 月 7 日（土）

「毛沢東時代の経済制度と政策の評価」

北京大学国家発展研究院教授 周 其仁 氏  
北京大学国家発展研究院教授 姚 洋 氏  
〔中国語・通訳なし〕

2015 年 3 月 20 日（金）

「中国中世における地獄の審判と俗世の法律」〔中国語・解説あり〕

国立台湾師範大学歴史学系教授 陳 登武 氏

(3) 東洋文庫談話会

2014 年 9 月 10 日（水）

「戦後中国「留用」帰国者に関する資料

—東洋文庫所蔵「中共事情」を中心に—

東洋文庫外来研究員  
下関市立大学教授 飯塚 靖 氏

2014 年 10 月 20 日（月）

「17-18 世紀のチベット仏教僧ネットワークと清朝

—アムド（東北チベット）の諸寺院との関わりを中心に—」

日本学術振興会特別研究員 (PD) 池尻 陽子 氏

2015 年 3 月 9 日（月）

「宋代文書から読み解く中国怪異譚」

東洋文庫奨励研究員

小林 隆道 氏

「南宋中期における史彌遠政権の成立とその変質」

日本学術振興会特別研究員 (PD) 小林 晃 氏

#### (4) 公開講座

〈トルコ—日本・トルコ国交樹立 90 周年—〉

2014 年 5 月 24 日（土）

「オスマン帝国という国家」

東京大学東洋文化研究所名誉教授 鈴木 董 氏

2014 年 5 月 31 日（土）

「オスマン文化の形成と変容」

東京大学東洋文化研究所名誉教授 鈴木 董 氏

2014 年 6 月 28 日（土）

「オスマン帝国における伝統演劇と西洋演劇の受容」

東洋文庫研究員・明治大学元教授 永田 雄三 氏

2014 年 7 月 13 日（日）

「100 年の恩～日本・トルコ友好史」

作家

秋月 達郎 氏

2014年8月9日（土）

ワークショップ「トルコのタイル文様を描いてみよう！」

トルコ細密画の会

青木 節子 氏

新井久美乃 氏

宮本 千鶴 氏

2014年8月10日（日）

ワークショップ「トルコ刺繍「オヤ」を使ったアクセサリー作りに挑戦！」

オヤ講師

小島 優子 氏

ワークショップ「トルコ式書道で名前を書いてみよう！」

日本アラビア書道協会・事務局長

山岡 幸一 氏

演奏会「トルコの民族楽器サズの演奏」

サズ演奏家

大平 清 氏

2014年9月21日（日）・10月4日（土）

アジア資料学研究シリーズ

「西洋古典書籍誌講習会—西洋書籍と東洋研究Ⅱ—」

東洋文庫研究部長

濱下 武志 氏

シンガポール国立大学教授

Peter BORSCHBERG 氏

東洋文庫主幹研究員

牧野 元紀 氏

東京大学史料編纂所教授

松井 洋子 氏

龍谷大学名誉教授

江南 和幸 氏

2014年10月31日（金）・11月1日（土）

アジア資料学研究シリーズ

「東洋のCodicology Ⅲ—文理融合型東洋写本・版本学（講習会）—」

東洋文庫研究員・東京大学准教授

杉山 清彦 氏

東洋文庫研究員・東京外国語大学AA研教授

中見 立夫 氏

東洋文庫研究員・日本大学副学長

加藤 直人 氏

東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授

石塚 晴通 氏

東洋文庫研究員・和光大学教授

深沢 眞二 氏

慶應義塾大学教授

石川 透 氏

〈岩崎コレクション—孔子から浮世絵まで—〉

2014年9月27日（土）

「岩崎彌太郎が見た幕末長崎と海外」

長崎歴史文化博物館研究員

岡本健一郎 氏

2014年11月24日（月）

「浮世絵の話：東洋文庫コレクションを中心に」

大和文華館館長

あべのハルカス美術館館長

浅野 秀剛 氏

2014年11月30日（日）

「日本の漢籍受容と古写本」

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授

高橋 智 氏

2014年12月7日（日）

「東洋文庫コレクションにみる浮世絵としての春画」

立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員

石上 阿希 氏

2015年2月28日（土）・3月1日（日）

《総合アジア圏域研究国際シンポジウム》（使用言語：英語）

Islamic and Chinese Studies and Inter-Asia Research Networks:  
Integrated Study of Dynamism in the Supra-Regional Spheres of Islamic  
and Chinese Regions

Opening Address:

HAMASHITA Takeshi (Research Department Head, Toyo Bunko)

SESSION 1:

Some Aspects of Chinese Muslim Society: Focusing on Migration,



Network, and Gender

Speakers, Titles:

WANG Jianxin

(Professor, Cultural Anthropology, Ethnology Institute of Lanzhou University; Vice Director, Center for Studies of Ethnic Minorities in Northwest China of Lanzhou University)

“Sermon Poems in Uyghurs and Huis: A Comparison Approach toward the Socio-Religious Representations of Muslim Minorities in China”

Maria JASCHOK

(Director, International Gender Studies Centre; Research Fellow, Lady Margaret Hall, University of Oxford)

“Soundscape of a Women’s Mosque and Potency of Silence: Evocations of Islamic Faith, Ruptured Memory and Precarious Presence in Kaifeng, China”

MATSUMOTO Masumi (Professor, Muroran Institute of Technology)

“Islamic Education for Women in China: Vocational or Ethical Schooling?”

Commentator:

OKA Natsuko

(Research Fellow, Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization)

SESSION 2:

Parliamentarism and Constitutional Systems in Islamic and Chinese Regional Spheres Speaker:

Speakers, Titles:

Mohsen KHALILI

(Associate Professor of Political Science, Faculty of Economics and Administrative Sciences, Ferdowsi University of Mashhad)

“Two Dimensions of the Iran’s Constitutionalism: Familiar Notions, Lack of Theory”

SASAKI Shin

(Assistant Professor, Faculty of Humanities, Seikei University)

“After the ‘Second Empire’: New Horizons of Ottoman Constitutional

History”

SUZUKI Emi

(Research Fellow, Toyo Bunko; Fellow, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies)

“Notable Politics and Parliament in Modern and Contemporary Egypt”

AJIOKA Toru

(Professor, Faculty of Liberal Arts, University of the Sacred Heart)

“Constitutional Government and the Local Administration System of Republican China”

Commentator:

Hamid AHMADI

(Professor of Political Science, Faculty of Law and Political Science, University of Tehran)

SESSION 3:

Local and Global Problems around Islamic and Chinese Regional Spheres

Speakers, Titles:

MA Qiang

(Professor, Institute for Western Frontier Region of China, Shaanxi Normal University)

“Middleman: The Integrated Function of Hui among Ethnic Groups in Yining City of Xinjiang”

KOH Keng We

(Assistant Professor, Nanyang Technological University)

“Islam and the Chinese in Southeast Asia: A Historical Overview”

XIANG Biao

(Lecturer in Social Anthropology, University of Oxford)

“Economic Globalization, Population Mobility, and Islam in China: The Case of Yiwu”

Commentator:

HAMASHITA Takeshi

General Discussion

Closing address:

HAMASHITA Takeshi

〈もっと知りたい！イスラーム〉

2015 年 3 月 15 日（日）

「遠くて近いイスラーム世界」

東洋文庫研究員

お茶の水女子大学教授

三浦 徹 氏

「サイバー・イスラーム：インターネットがつなぐ日本と中東」

日本エネルギー経済研究所研究理事

保坂 修司 氏

# (5) 各種研究会・講演会開催

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会数	7	4	7	8	2	6	5	4	8	4	5	11	71
参加人数	55	44	78	149	24	101	63	60	197	41	107	235	1,154

## B. データベース公開

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況については、Ⅱ 図書事業のグラフ（p. 20）に示す通りである。

## C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

### (1) 外来研究員の受入

彌永 信美（フランス国立極東学院東京支部長）

「日本仏教」

（2014 年 4 月 1 日～2014 年 12 月 31 日）

宋 好 彬（高麗大学校民族文化研究院研究員）

「朝鮮本古典籍の調査」

（2014 年 4 月 1 日～2014 年 9 月 30 日、高麗大学校）

〔受入担当：藤本幸夫〕

飯塚 靖（下関市立大学教授）

「『満洲国』期の重化学工業基盤の構築とその戦後中国への影響」

（2014 年 4 月 1 日～2014 年 9 月 30 日、下関市立大学）

〔受入担当：久保亨〕

蘇 基 朗（香港科技大学人文科学部長）

「中国近代化の為の実業・法律・教育」

（2014 年 5 月 19 日～2014 年 8 月 2 日）

〔受入担当：斯波義信〕

蘇 寿富美（George Mason 大学副教授）

「中国近代化の為の実業・法律・教育」

（2014 年 7 月 18 日～2014 年 8 月 2 日）

〔受入担当：斯波義信〕

姚 小 鷗（中国伝媒大学文学院教授）

「中国古代文学」

（2014 年 7 月 20 日～2014 年 8 月 20 日）

〔受入担当：田仲一成〕

オリヴィエ・テシエ（フランス国立極東学院ハノイ支部准教授）

「20 世紀初頭のベトナム大衆文化」

（2014 年 8 月 14 日～2014 年 8 月 21 日、極東学院）

〔受入担当：極東学院〕

康 保 成（中山大学中文系教授）

「中国古代戯曲演劇史」

（2014 年 8 月 25 日～2014 年 11 月 24 日）

〔受入担当：田仲一成〕



ダヴァン・ディディエ（フランス国立極東学院東京支部長）

「中世における臨済宗」（2015 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日）

呉 真（中国人民大学副教授）

「中国古代戯曲演劇史」（2015 年 1 月 24 日～2015 年 2 月 28 日）

[受入担当：田仲一成]

(2) 2014 年度日本学術振興会特別研究員 PD・RPD の受入

池尻 陽子（筑波大学大学院 PD）

「チベット仏教僧の思想とネットワークが清代内陸アジア史に与えた

影響に関する研究」

(2010 年度採用、11・12（中断）・14 年度・3 ヶ年間）

[受入指導者・吉水千鶴子]

※ 2014 年 10 月 31 日をもって身分を終了

小林 晃（北海道大学大学院 PD）

「12～15 世紀中国における華北・江南の政治的統合過程」

(2012 年度採用、13・14 年度・3 ヶ年間)

[受入指導者・山本英史]

五味 知子（慶應義塾大学大学院 PD）

「17～19 世紀中国基層社会における規範とジェンダー」

(2013 年度採用、14・15 年度・3 ヶ年間)

[受入指導者・岸本美緒]

阿部 由美子（東京大学大学院 PD）

「旗人から満洲族へ—20 世紀中国理解への新たな視座」

(2014 年度採用、15・16 年度・3 ヶ年間)

[受入指導者・松重充浩]

河野 正 (東京大学大学院 PD)

「1950 ～ 1960 年代、多地域比較による華北農村社会の変容に関する研究」  
(2014 年度採用、15・16 年度・3 ヶ年間)  
[受入指導者・内山雅生]

西村 陽子 (東洋文庫研究員)

「地図史料批判によるシルクロード探検隊資料の統合と遺跡データベース  
の作成」  
(2014 年度採用、15・16 年度・3 ヶ年間)  
[受入指導者・斯波義信]

※就職につき、2014 年度をもって身分を辞退。

濱本 真実 (東洋文庫研究員)

「近代ユーラシア陸上貿易におけるタタール商人の活動とその文化的影響」  
(2014 年度採用、15・16 年度・3 ヶ年間、RPD)  
[受入指導者・小松久男]

(3) 2014 年度東洋文庫奨励研究員の受入

小林 隆道 (2014 年度採用、就職につき終了)

〈外国人研究者への便宜供与〉

China

栄新江 [北京大学教授] (ほか 9 名)

Mongol

CHULUUN, S. [Director, Institute of History, Mongolian Academy of  
Science] (ほか 5 名)

Iran

Hamid AHMADI [Professor, University of Tehran] (ほか 2 名)

Singapore

Peter BORSCHBERG [Professor, National University of Singapore]

India

Yellava SUBBARAYALU [Retired Professor, Tamil University]

USA

ZHOU Gang [Associate Professor, Louisiana State University]

Egypt

George FAWZY [President, Leila Books]

France

Mohammadreza NEYESTANI [Post Doctor Research Fellow, CNRS]

Pakistan

Moinuddin AQEEL [Professor, University of Karachi]

Canada

Brenda BECK [Professor, University of Toronto]

Italia

Silvio VITA [Director, Italian School of East Asian Studies]

Vatican

Delio V. PROVERBIO [Curator of Oriental Manuscripts, Vatican Library]

Taiwan

海中雄 [蒙藏委員会処長]

D. 国際交流

以前より研究協力協定を締結しているフランス国立極東学院、台湾中央研究院、ハーバード・エンチン図書館、ハーバード・エンチン財団、アレキサンドリア図書館、イラン議会図書館、ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) 図書館との協力関係を継続した。

また、2015年2月28日（土）・3月1日（日）に《総合アジア圏域研究国際シンポジウム》として、“Islamic and Chinese Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Supra-Regional Spheres of Islamic and Chinese Regions”（The Third International Symposium of Inter-Asia Research Networks）を開催した。

#### 4. 研究員等の研究業績

期間：2014年4月1日～2015年3月31日まで

略号：①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

##### 會谷 佳光

- ①「仏典の世界 アジアをつなぐ信仰の軌跡」（『書物学』，第2巻，2～7頁，勉誠出版，2014年5月）。
- ①「漢籍善本紹介 東洋文庫（5）」（『新しい漢字漢文教育』，第58号，5～8，102～104頁，全国漢文教育学会，2014年5月）。
- ①「『重要文化財 樂善録 宋版・円爾旧蔵』解題」（東洋文庫善本叢書3，『重要文化財樂善録 宋版・円爾旧蔵』，385～397頁，勉誠出版，2014年10月）。
- ①「漢籍善本紹介 東洋文庫（6）」（『新しい漢字漢文教育』，第59号，5～8，90～93頁，全国漢文教育学会，2014年11月）。
- ①「東洋文庫蔵重要文化財『礼記正義』について」（『東洋文庫書報』，第46号，1～17頁，（公財）東洋文庫，2015年3月）。

##### 相原 佳之

- ①「清代貴州省東南部の林業経営与白銀流通」（張新民主編『探索清水江文明的踪迹—清水江文書与中国地方社会國際學術研討会論文集』，546～571頁，巴蜀書社（成都），2014年10月）。
- ①「東洋文庫所蔵の近代中国資料のデジタル化事業について」（堤一昭・田中仁編『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』のデジタル化と公開の可能性—東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録（OUFC Booklet, Vol. 7）』，65～74頁，大阪大学中国文化フォーラム事務局，2015年3月）。



- ③「東洋文庫所蔵資料概要と現代中国研究資料室における資料デジタル化の取り組み」(ワークショップ「近現代アジア資料と資料デジタル化」, 於: 中央大学, 2014年7月21日).
- ③「東洋文庫所蔵の近代中国資料のデジタル化事業について」(研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」, 於: 大阪大学, 2014年12月20日).
- ③「東洋文庫所蔵「汪政権駐日大使館文書」からみる、汪政権駐日大使館における文書の記録管理に関する考察」((公財)りそなアジア・オセアニア財団助成プロジェクト 第4回東アジアアーカイブズ共同研究会主催セミナー, 於: 学習院大学, 2015年1月31日).

#### 秋葉 淳

- ①“Empires and Sharia: A Comparison of Colonial Islamic Legal Systems”, Shinichiro Tabata ed., *Eurasia's Regional Powers Compared: China, India, Russia*, pp. 171-187, Routledge, Jan. 2015.
- ②『近代・イスラームの教育社会史—オスマン帝国からの展望』(〈橋本伸也〉, 昭和堂, 2014年, 295頁, [1~50頁, 78~112頁, 188~193頁, 291~295頁担当:「序章」, 第1章「伝統教育」の持続と変容」, 第3章「オスマン帝国の新しい学校」, 「第Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ部イントロダクション」, 「あとがき」]).
- ③「オスマン帝国における近代社会の形成(17~19世紀)—研究動向と新しい課題」(「近世イスラーム国家と周辺世界」第4回研究会, 於: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2015年2月22日).

#### 浅田 進史

- ②『第一次世界大戦開戦原因の再検討—国際分業と民衆心理』(〈小野塚知二〉, 岩波書店, 2014年, 256頁).
- ③“The Siege of Tsingtao in 1914”, in Colloque International “From the Balkans to the World: Going to War (1914-1918). A Local and Global Perspective” of International Committee of Historical Sciences, Paris, France, 15 Nov. 2014.

#### 浅野 秀剛

- ①「鈴木春信の『絵本鑑艸』」(『浮世絵芸術』, 168号, 62頁, 国際浮世絵

学会, 2014 年 7 月).

①「出版文化と春画」(『書物学』, 第 3 卷, 32 ~ 13 頁, 勉誠出版, 2014 年 8 月).

①「喜多川歌麿筆 深川の雪」(『國華』, 1427 号, 33 ~ 35 頁, 國華社, 2014 年 9 月).

③「正面摺筆彩掛物絵について」(国際浮世絵学会, 於: 法政大学, 2014 年 6 月 7 日, [要旨:『国際浮世絵学会会報』, 86 号, 3 頁, 国際浮世絵学会, 2014 年 5 月]).

③「初期浮世絵の画題—「薄雪」「定家」を中心に」(絵入本学会, 於: 同志社大学, 2014 年 12 月 21 日, [要旨:『絵入本ワークショップⅦ資料集』, 20 頁, 絵入本学会, 2014 年 12 月]).

#### 荒川 正晴

①「大英図書館所蔵コートン出土木簡の再検討—木簡内容とその性格をめぐって」(『待兼山論叢』, 48, 1 ~ 23 頁, 大阪大学大学院文学研究科, 2014 年).

①「トゥルファンにおけるソグド人」(森部豊編『ソグド人と東ユーラシアの文化交渉』, 101 ~ 118 頁, 勉誠出版, 2014 年 8 月).

①「西域長史文書としての「李柏文書」」(白須浄真編『大谷光瑞とスヴェン・ヘディン』, 213 ~ 234 頁, 勉誠出版, 2014 年 9 月).

③「西突厥汗国の Tarqan 達官与粟特人」(第二屆絲綢之路国際學術研討会「粟特人在中国: 考古發現与出土文献的新印証」, 於: 中国銀川市, 2014 年 8 月 13 ~ 16 日).

#### 飯島 明子

①「竹林と結ばれる工房」(落合雪野・白川千尋編『ものとくらしの植物誌 東南アジア大陸部から』, 230 ~ 248 頁, 臨川書店, 2014 年 5 月).

②『もうひとつの「王様と私」』(〈石井米雄〉, めこん, 2015 年, 222 頁).

#### 飯島 武次

①「二里头類型第四期与二里头下層文化的青銅器」(中国社会科学院考古研究所『夏商都邑与文化』, 373 ~ 393 頁, 中国社会科学出版社, 2014 年 10 月).

①「関于夏商文化的陶亀」(中国社会科学院考古研究所『紀念二里头遺址

発現 55 周年学術研究会論文』, 64 ~ 66 頁, 中国社会科学出版社, 2014 年 10 月).

①「考古学から見た中華文明の源流と伝播」(『中国考古学』, 14, 7 ~ 27 頁, 日本中国考古学会, 2014 年 12 月).

③「“日本中国考古学会”創立的歴史」(中国考古学会・日本中国考古学会主催「中日考古学論壇」, 於: 北京大学考古文博学院, 2015 年 3 月 28 日, [要旨集: 『中日考古学論壇』, 4 頁]).

#### 池田 温

①「東洋文庫の敦煌吐魯番文書研究」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 129 ~ 134 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

#### 池田 美佐子

③“Parliamentary Development in Egypt: Uneasy Experiences”, in the Fourth World Congress for Middle Eastern Studies, Ankara, Turkey, 19 Aug. 2014.

③「1952 年エジプト 7 月革命: 背景と目的」(科研基盤研究 (B)「「アラブの春」の社会史的研究—エジプト「1 月 25 日革命」を中心に」定例研究会, 於: 早稲田大学, 2015 年 1 月 24 日).

③「エジプト立憲王制期の議会: 民主主義制度としての議会の一考察」(シンポジウム「中東政治におけるリベラリズム再考」, 於: 東京大学, 2015 年 2 月 20 日).

#### 池田 雄一

①「漢代を遡る奏讞—中国裁判における審級制の起源」(『中国の歴史と地理』, 第 3 集, 7 ~ 16 頁, 中国の歴史と地理研究会, 2014 年 7 月).

①「張家山漢簡『奏讞書』訳注稿」(『中国の歴史と地理』, 第 3 集, 17 ~ 95 頁, 中国の歴史と地理研究会, 2014 年 7 月).

①「秦漢時代の日書と吏人」(『中国の歴史と地理』, 第 3 集, 137 ~ 155 頁, 中国の歴史と地理研究会, 2014 年 7 月).

①「關於里耶秦簡中的鄉里吏問題」(史林揮塵編輯組『史林揮塵—紀念方詩銘先生學術論文集』, 51 ~ 70 頁, 上海古籍出版社, 2015 年 1 月).

②『水経注疏訳注 (洛水・伊水篇)』(東洋文庫論叢第 78) (〈窪添慶文, 多田狷介, 藤田忠, 塩沢裕仁〉, (公財) 東洋文庫, 2015 年, 35 + 594 頁).

石川 寛

- ①「ラーシュトラクータ朝史の新史料」(『東洋学研究』, 52号, 261～277頁, 東洋大学・東洋学研究所, 2015年3月).

石川 重雄

- ①「江西北部歴史調査報告『清明集』の世界の地理的環境と文化的背景〈江州・饒州・南康軍篇〉」(〈大澤正昭, 佐々木愛, 小川快之, 戸田裕司〉, 『上智史学』, 59号, 141～163頁, 上智大学史学会, 2014年11月).

石塚 晴通

- ①「史記 夏本紀・秦本紀 解題」(〈小助川貞次〉, 東洋文庫善本叢書1『国宝史記 夏本紀・秦本紀』, 101～109頁, 勉誠出版, 2014年9月).
- ①「梵語千字文 解題」「胎藏界真言 解題」(〈小助川貞次〉, 東洋文庫善本叢書6『梵語千字文 胎藏界真言』, 77～79頁, 80～82頁, 勉誠出版, 2014年12月).
- ①「毛詩 解題」「礼記正義 書誌解題」(〈小助川貞次〉, 東洋文庫善本叢書5『国宝毛詩 重文礼記正義』, 103～107頁, 108～111頁, 勉誠出版, 2014年12月).
- ② *Elements of Codicology of the Hanzi Script*, Ver. 3 ([平成26年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究報告書, 課題番号: 23251011, 研究代表者: 石塚晴通], 2014年, 49頁).
- ③「岩崎文庫本」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ, 2014年度東洋のコディコロジー (Codicology) Ⅲ・文理融合型東洋写本・版本学講習会「非漢字文献Ⅱ」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014年11月1日).

石橋 崇雄

- ①「私の逸品: 壇廟祭祀節次 目の前によみがえる清代の舞楽」(東洋文庫編『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』, 140頁, 山川出版社, 2015年2月).
- ①「清朝の満洲語、満洲文字、北京官話、満洲語文献—東洋文庫の清代満洲語文献類が持つ資料価値理解の一助として」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 179～192頁, 勉誠出版, 2015年3月).



井上 和枝

- ①「朝鮮人村落『苗代川』の日本化と解体」(久留島浩・須田努・趙景達編『薩摩・朝鮮陶工村の四百年』, 191～226頁, 岩波書店, 2014年7月)。
- ①「昭和の苗代川から平成の美山へ」(『鹿児島国際大学考古学ミュージアム調査研究報告』, 12, 39～44頁, 鹿児島国際大学考古学ミュージアム, 2015年3月)。
- ③「韓流女性の源流 朝鮮の新女性」(杉並ほっとコミュニケーション第20期, 於: 杉並区高井戸地域区民センター, 2014年4月26日)。
- ③「近世の薩摩と朝鮮交流史」(鹿児島県県民大学連携講座, 於: かがしま県民交流センター, 2014年5月31日)。
- ③「美山(苗代川)村落の変遷—鹿児島国際大学附置地域総合研究所所蔵資料を中心に」(鹿児島県県民大学連携講座, 於: かがしま県民交流センター, 2015年2月14日)。

今西 祐一郎

- ①「実名敬避小説としての『源氏物語』」(『学士会会報』, 909号, 39～42頁, 学士会, 2014年11月)。
- ①「皇統分裂と『源氏物語』」(『文学』, 16-1, 210～211頁, 岩波書店, 2015年1月)。
- ①「『表記情報学』始末—「あとがき」に代えて」(『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究』, IV, 219～228頁, 国文学研究資料館, 2015年3月)。
- ③「江戸時代の『書籍目録』」(北米くずし字講習会講演, 於: コロンビア大学 C. V. スター東亜図書館, 2014年5月24日)。
- ③「学術と啓蒙—日本語表記の観点から」(建部賢弘生誕350周年 Takebe Conference 2014 公開講演会, 於: お茶の水女子大学, 2014年8月25日)。

内山 雅生

- ①「近代中国農村社会特性: “共同体” 与 “共同性”」(『中国社会科学報』, 585期, 6頁, 中国社会科学院, 2014年4月)。
- ①「山西大学農村調査史料与日本の“地方文書”研究」(『風華正茂』, 1巻, 122～129頁, 山西大学中国社会史研究中心, 2014年7月)。
- ①「農民が語る「個人史」から中国現代史を読み解く」(『世界を見るための38講』, 59～63頁, 下野新聞社, 2014年10月)。

- ①「中国内陸農村訪問調査（5）」（〈祁建民〉、『国際情報学部研究紀要』, 15号, 185～195頁, 長崎県立大学国際情報学部, 2015年3月）.

梅村 坦

- ①「わたしの逸品：ウイグル木活字 ポール・ペリオとの交流がもたらした秘蔵品」（東洋文庫編『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』, 60頁, 山川出版社, 2015年2月）.

宇山 智彦

- ①「権威主義体制論の新展開に向けて：旧ソ連地域研究からの視角」（日本比較政治学会編『体制転換／非転換の比較政治』, 1～25頁, ミネルヴァ書房, 2014年6月）.
- ①「変質するロシアがユーラシアに広げる不安：進化する権威主義、迷走する「帝国」」（『現代思想』, 42-10, 129～143頁, 青土社, 2014年7月）.
- ②『カザフスタンを知るための60章』（〈藤本透子〉, 明石書店, 2015年, 384頁）.
- ③“Kazakh Intellectuals' Views on the West and the East, Wars and Civilizations in the 1910s”, in Slavic-Eurasian Research Center 2014 Summer International Symposium, Thirty Years of Crisis: Empire, Violence, and Ideology in Eurasia from the First to the Second World War, Sapporo, 10 July 2014.
- ③「クリミア後の世界秩序と紛争：帝国論の応用から考える」（日本国際政治学会2014年度研究大会共通論題, 於：福岡国際会議場, 2014年11月15日）.

江川 ひかり

- ①“Osmanlı Döneminde Düzce'nin Sosyal-Ekonomik Hayatı ve Gelişim Süreci”, 〈İlhan Şahin〉, Ali Ertuğrul ed., *Düzce'de Tarih ve Kültür*, pp. 43–54, İstanbul, 2014.
- ①“Pazar Yerinden Kasabaya: Düzce'nin Doğuşu”, 〈İlhan Şahin, Halit Ramazan Kubilay〉, İlhan Şahin, Hikari Egawa, Emine Erdoğan Özünlü, Tuncay Öğün eds., *The 19th Conference of the Comité international des études pré-ottomanes et ottomanes CIEPO 19 Osmanlı Öncesi ve Dönemi Tarihli Araştırmaları*, I, pp. 165–170, İstanbul, 2014.

- ③ “The Family Structure and Economic Activities in Düzce Based on the Nüfus Defterleri (Population Register) and Temettüat Defterleri (Income Register) of the 19th and Beginning of the 20th Century”, 〈İlhan Şahin, Shigeru Kakumoto, Halit Ramazan Kubilay〉, in Session 325: The Recovery of Düzce from Two Huge Earthquakes in 1999 and its Future: Comparative Study to the Earthquakes and Tsunami in Northeastern Japan in 2011, The Fourth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES-4), Ankara-Turkey, Middle East Technical University, 22 Aug. 2014.
- ③ “Cemeteries and Gravestones Culture of Nomads in their Sedentarization Process: Focusing of the Yağcı Bedir Group in North-Western Anatolia during the Nineteenth and Early Twentieth Centuries”, in Panel : Comparative Studies on Ottoman and Central Asian Nomads, the 21th Conference of the Comité international des études pré-ottomanes et ottomanes (CIÉPO 21) 7-11 October 2014, Budapest-Hungary, The Academy of Magyar, 8 Oct. 2014.
- ③ “Osmanlı Döneminde Düzce'nin Sosyal-Ekonomik Hayatı ve Gelişim Süreci”, 〈İlhan Şahin〉, in I. Uluslararası Düzce Sempozyumu, Peleminir Otel, Düzce, 21 Nov. 2014.

大河原 知樹

- ① “Some Aspects of Anglo-Ottoman Diplomacy in the Modern Era: Cases of British Protection of the Harari Family”, Marinos Sariyannis (Editor-in-chief), Gülsün Aksoy-Aivali, Marina Demetriadou, Yannis Spyropoulos, Katerina Stathi, Yorgos Vidras eds., *New Trends in Ottoman Studies (Papers presented at the 20th CIÉPO Symposium Rethymno, 27 June-1 July 2012)*, pp. 617-630, University of Crete, Foundation for Research and Technology-Hellas, 2014, [<http://www.univie.ac.at/ciepo/wordpress/wp-content/uploads/2011/07/downloaded1.pdf>].
- ② 『イスラーム法の「変容」—近代との邂逅』(〈堀井聡江〉, 山川出版社, 2014年, 113頁).
- ③ “Islamic Waqf Institutions in the Ottoman Judicial Reform Period (19th Century)”, in WOCMES, World Congress for Middle Eastern Studies, Ankara, Turkey, 22 Aug. 2014.



③ “In Search for the Origin of an Ottoman Notable Family: The Case of the Azms”, in International Committee of Pre-Ottoman and Ottoman Studies (CIEPO, Comité international des études pré-ottomanes et ottomanes), 21st Symposium, Hungaryian Academy of Sciences, Budapest, Hungary, 8 Oct. 2014.

#### 大澤 肇

① 書評「佐藤仁史『近代中国の郷土意識』」（『現代中国』，88号，111～116頁，日本現代中国学会，2014年10月）。

① 「現実政治と歴史研究のあいだ—中国における「現代史」研究の現状とその意義」（中部大学国際関係学部夢構想委員会編『「国際」という夢をつむぐ—中部大学開学50周年・国際関係学部創設30周年記念論集』，93～102頁，中部大学，2014年10月）。

③ 「歴史資料数位化与其応用：以日本の中国研究為中心」（台湾師範大学東亜学系102学年度第二期專題講演，於：台湾師範大学，2014年6月5日）。

#### 大澤 正昭

① 「『居家必用事類全集』所収『山居録』の研究—訳注稿（一）」（『上智史学』，59号，103～126頁，上智大学史学会，2014年11月）。

① 「江西北部歴史調査報告：『清明集』的世界の地理的環境と文化的背景〈江州・饒州・南康軍編〉」（〈佐々木愛，石川重雄，戸田裕司，小川快之〉，『上智史学』，59号，141～163頁，上智大学史学会，2014年11月）。

① 「『山居録』の史料活用について」（『唐宋変革研究通説』，6号，17～39頁，唐宋変革研究会，2015年3月）。

#### 大谷 俊太

① 「三藐院近衛信尹筆〔笑話書留〕について—近世初期堂上歌壇と笑話」（『国語国文』，83巻10号，1～15頁，京都大学国文学会，2014年10月）。

① 「近衛前久（龍山）詠『五十首和歌』関連資料 解題と翻刻（上）」（『女子大國文』，156号，82～115頁，京都女子大学国文学会，2015年1月）。

① 「近衛前久（龍山）詠『五十首和歌』関連資料 解題と翻刻（下）」（『国文論藻』，14号，63～90頁，京都女子大学大学院文学研究科，2015年3月）。



- ②『三室戸寺蔵文学関係資料目録』（和泉書院，2015年，222頁）。

岡崎 礼奈

- ②『トルコー日本・トルコ国交樹立90周年』（（公財）東洋文庫，2014年，28頁，[項目執筆：「テュルク系諸民族の広がり」「オスマン帝国の歴史と文化」「日本⇄トルコ交友の歴史」，3，7～8，21頁]）。
- ②『岩崎コレクションー孔子から浮世絵まで』（（公財）東洋文庫，2014年，28頁，[項目執筆：「東洋文庫における『岩崎コレクション』」「モリソン文庫と洋書のコレクション」「東洋文庫所蔵の浮世絵」，2～3，13，17～18頁]）。
- ②『もっと知りたい！イスラーム』（（公財）東洋文庫，2015年，28頁，[項目執筆：「イスラーム入門」「イスラームの広がりと多様性」「中央アジアのイスラーム」「南アジアのイスラーム」「日本とイスラーム世界の出会い」，2～3，11，13，15，24頁]）。

岡田 英弘

- ①「歴史は文化の一種」「民族も国家もネーション」「インドは歴史のない文明」「なぜ中世が必要なのか」「シナの歴史文化は正統史観」「歴史の父ヘーロドトス」「ゾロアスター教の二元論」「歴史のないアメリカ文明」「歴史を重んじないイスラム文明」「日本の世界史教科書の問題点」「歴史を捨てた現代中国」「日本人がつくる世界史」（〈宮脇淳子〉，『機』，265～276号，藤原書店，2014年4月～2015年3月，[リレー連載「今、世界は1～12」]）。
- ①「世界史のなかの明治初年」（『環』，60号，194～201頁，藤原書店，2015年1月）。
- ②『岡田英弘著作集Ⅳ シナ（チャイナ）とは何か』（藤原書店，2014年5月，569頁）。
- ②『岡田英弘著作集Ⅴ 現代中国の見方』（藤原書店，2014年10月，583頁）。
- ②『岡田英弘著作集Ⅵ 東アジア史の実像』（藤原書店，2015年3月，573頁）。

岡野 誠

- ①「島田正郎先生の横顔—『契丹国』再刊に寄せて」（『契丹国—遊牧の民

キタイの王朝』, 新装版, 238～245 頁, 東方書店, 2014 年 12 月).

①「唐代の平闕式についての一考察 (上)—敦煌写本「唐天宝職官表」の検討を通して」(『法律論叢』, 87 巻 4・5 号, 138(1)～102(37)頁, 明治大学, 2015 年 2 月).

① 書評「川村康『中国律令法の変容』」(『法制史研究』, 64 号, 384～386 頁, 法制史学会, 2015 年 3 月).

①「石岡浩さんを悼む 附: 石岡浩氏略歴並びに研究業績目録」(『法史学研究会会報』, 18 号, 218～224 頁, 法史学研究会, 2015 年 3 月).

#### 岡本 隆司

① 書評「村上衛『海の近代中国—福建人の活動とイギリス・清朝』」(『史学雑誌』, 123-9, 66～75 頁, 史学会, 2014 年 9 月).

①「モンゴル「独立」問題と漢語概念—キャフタ協定にいたる交渉を中心に」(『東洋史研究』, 73-4, 105～139 頁, 東洋史研究会, 2015 年 3 月).

②『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念』(名古屋大学出版会, 2014 年, 408 頁).

②『出使日記の時代—清末の中国と外交』(〈箱田恵子, 青山治世〉, 名古屋大学出版会, 2014 年, 514 頁).

②『袁世凱—現代中国の出発』(岩波書店, 2015 年, 246 頁).

#### 尾形 洋一

①「大連湾物語 I : Ta-lien-wan—失笑をかった第一印象」(『教学 Jiaoxue』, 2014, 6～22 頁, 日中学院, 2014 年 5 月).

#### 小田 壽典

①「偽経本『八陽経』写本からみた仏教文化史の展望」(『内陸アジア史研究』, 30 号, 51～68 頁, 内陸アジア史学会, 2015 年 3 月).

#### 小名 康之

①「アウラングゼーブのファルマーン (1662 年)」(『青山史学』, 33 号, 71～89 頁, 青山学院大学文学部史学科, 2015 年 2 月).

#### 小沼 孝博

① “The Qing Dynasty and Its Central Asian Neighbors”, *Saksaha*:

*A Journal of Manchu Studies*, Vol. 12, pp. 33-48, Michigan Publishing, University of Michigan Library, 2014.

① “An Encounter between the Qing Dynasty and Khoqand in 1759-1760: Central Asia in the Mid-Eighteenth Century”, 〈Kawahara Yayoi, Shioya Akifumi〉, *Frontiers of History in China*, Vol. 9 (3), pp. 384-408, Leiden: Brill, 2014.

① 「「異人」イメージの政治性—18-19 世紀の清王朝と中央アジアの事例から」(『東洋文化研究』, 17 号, 335 ~ 357 頁, 学習院大学東洋文化研究所, 2015 年 3 月).

② 『清と中央アジア草原—遊牧民の世界から帝国の辺境へ』(東京大学出版会, 2014 年, 320 頁)

③ 「山形細谷(細矢)家伝来「大明地理之図」—江戸時代の東アジア大地図」(〈細谷良夫〉, 2014 年度後期東洋学講座「アジアの古地図を読む」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014 年 12 月 3 日).

#### 梶谷 懐

① 「中国「国家資本主義」論の再検討—分配問題を中心に」(『国民経済雑誌』, 210-4, 13 ~ 33 頁, 神戸大学経済経営学会, 2014 年 10 月).

② 『超大国中国のゆくえ 4 経済大国化のきしみとインパクト』(〈丸川知雄〉, 東京大学出版会, 2015 年, 272 頁).

③ 「「法の支配」なき資本主義は持続可能か—中国「国家資本主義」の検討」(比較経済体制学会全国大会, 於: 山口大学, 2014 年 6 月 7 日).

#### 糟谷 憲一

① 書評「長田彰文著『世界史の中の近代日韓関係』」(『東洋史研究』, 第 73 巻第 2 号, 144 ~ 152 頁, 東洋史研究会, 2014 年 9 月).

① 「閔氏政権の成立と展開」(『韓国朝鮮文化研究』, 第 14 号, 1 ~ 20 頁, 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室, 2015 年 3 月).

#### 片桐 一男

① 「東洋文庫の蘭学資料」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 219 ~ 236 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月)

① 「シーボルト事件で流罪となった阿蘭陀通詞馬場為八郎」(『鳴滝紀要』, 第 25 号, 1 ~ 25 頁, シーボルト記念館, 2015 年 3 月).

- ①「外（と）つ国の言葉をわがものとして—阿蘭陀通詞の世界」（『2014（平成26）年度 成蹊大学公開講座講演録』，47～64頁，成蹊大学公開講座運営委員会，2015年3月，〔成蹊大学公開講座，於：成蹊大学，2014年10月18日〕）。
- ②『伝播する蘭学—江戸・長崎から東北へ』（勉誠出版，2015年，368頁）。
- ②『米沢藩医 堀内家文書 解題篇』（米沢市医師会・米沢市上杉博物館，2015年，208頁）。
- ②『知の開拓者 杉田玄白—『蘭学事始』とその時代』（勉誠出版，2015年，312頁）。

#### 片山 章雄

- ①「木下奎太郎と芥川龍之介が見た北京の職貢図」（鈴木靖民・金子修一編『梁職貢図と東部ユーラシア世界』，323～334頁，勉誠出版，2014年5月）。
- ①「大谷光瑞の業績—探検隊収集将来品をめぐって」（『聚美』，13号，74～78頁，聚美社，2014年10月）。
- ①「鮮卑の祖先窟の伝達と突厥の祖先窟の伝承」（『専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報』，19～17頁，古代東ユーラシア研究センター，2015年3月）。
- ②『横浜ユーラシア文化館特別公開図録 大陸調査の先駆 大谷探検隊—21世紀の研究成果から』（〈横浜ユーラシア文化館〉，横浜ユーラシア文化館，2014年，20頁）。
- ③「在欧吐魯番出土文字資料の断片接続からみえるもの—ヘルシンキ・マンネルヘイム断片コレクションを主たる素材として」（〈小口雅史〉，唐代史研究会夏期シンポジウム，於：文部科学省共済組合箱根宿泊所，2014年8月18日）。

#### 片山 剛

- ①「分段図・所有権状の発給と登記文書の保管：契拠類の行方と証明責任の所在」（『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』，6号，86～98頁，大阪大学文学研究科片山剛研究室，2015年3月）。
- ③「關於二十世紀三十年代南京市土地登記工作及其文件」（台湾社会經濟史討論会，於：国立陽明大学（台北），2014年9月3日）。
- ③「土改前夕村庄的土地“管理”和村民的土地“所有”：以広東省高要県



為例」(第17回上海交通大学・大阪大学学術交流セミナー, 於: 上海交通大学, 2014年11月3日)。

加藤 直人

③「世界の満洲語資料と東洋文庫」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ, 2014年度・東洋のコディコロジー (Codicology) Ⅲ・文理融合型東洋写本・版本学講習会「非漢字文献Ⅱ」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014年10月31日)。

加藤 弘之

①「中国型資本主義をどう捉えるか」(『ワセダアジアレビュー』, No. 16, 24～29頁, 早稲田大学アジア研究機構, 2014年8月)。

①「中国型資本主義の「曖昧さ」をめぐるいくつかの論点—中兼和津次氏の批判に答える」(『国民経済雑誌』, 210-2, 25～39頁, 神戸大学経済経営学会, 2014年8月)。

①「中兼和津次氏の「曖昧な制度」批判に答える」(『中国経済研究』, 第11巻第2号, 78～85頁, 中国経済学会, 2014年9月)。

①「中国: 「曖昧な制度」としての対口支援」(黒崎卓・大塚啓二郎編『これからの日本の国際協力』, 179～184頁, 日本評論社, 2015年2月)。

辛島 昇

① “Establishment of an Indian National Cuisine and South India”, D. N. Jha ed., *The Evolution of A Nation Pre-colonial to Post-colonial: Essays in Memory of R. S. Sharma*, pp. 107-114, New Delhi: Manohar, Jan. 2014.

① “Political Compact made by Local Chiefs during the Later Chola Period”, Kesavan Veluthat and Donald R. Davis Jr. eds., *Irreverent History: Essays for M. G. S. Narayanan*, pp. 243-250, Delhi: Primus Books, Aug. 2014.

② *A Concise History of South India: Issues and Interpretations*, New Delhi: Oxford University Press, 2014, xxi + 396p.

川合 安

①「『旧唐書』音楽志訳注稿(二)」(〈隋唐楽府文学研究班〉, 『関西大学中国文学会紀要』, 36号, 29～70頁, 関西大学中国文学会, 2015年3月, [61

～70 頁担当]).

②『南朝貴族制研究』(汲古書院, 2015 年, 360 頁).

③「六朝時代の家族・婚姻等に関する研究状況」(ワークショップ「魏晉南北朝時代のジェンダー構造」, 於: 日本大学文理学部, 2014 年 7 月 12 日).

④「南朝貴族制社会と士庶区別」(第 14 回魏晉南北朝史研究会, 於: 日本女子大学, 2014 年 9 月 13 日).

⑤「南朝の士庶区別」(魏晉南北朝史新探索国際学術研討会・中国魏晉南北朝史学会第十一届年会, 於: 中国社会科学院, 2014 年 10 月 13 日).

#### 川崎 信定

①「仏教の智恵、世界に発信・文化功労者」(『千葉日報』, 19 頁, 2014 年 10 月 25 日).

②「仏の智恵を探り続けて」(『広報船橋』, No. 1349, 船橋市, 2015 年 1 月 1 日).

③「チベット仏教文献と東洋文庫」(『東洋見聞録』, 第 14 号, 5～8 頁, 東洋文庫, 2015 年 3 月, 「インタビュー・この人に聞く (第 6 回)」).

#### 川島 真

① “Sino-Japanese Controversies Over the Textbook Problem and the League of Nations”, Madeleine Herren ed., *Networking the International System: Global Histories of International Organizations*, pp. 91–106, Springer, 2014.

②『近代中国をめぐる国際政治』(中央公論新社, 2014 年, 274 頁).

③『東アジア近現代通史—19 世紀から現在まで』上、下 (〈和田春樹, 後藤乾一, 木畑洋一, 山室信一, 趙景達, 中野聡〉, 岩波書店, 2014 年, 上: 244 頁, 下: 256 頁).

④『チャイナ・リスク』(岩波書店, 2015 年, 307 頁).

⑤ “The Memory and Legacy of the Tribute System in Twentieth-Century China”, in Association for Asian Studies 2015 Annual Conference, Session “The Coastal and the Continental: Qing Frontiers and Foreign Relations in Modern China—Sponsored by Historical Society for Twentieth Century China (HSTCC)”, Chicago, USA, 28 Mar. 2015.

貴志 俊彦

- ①「グラフ誌が描かなかった死一日中戦争下の華北」(貴志俊彦・山本博之・西芳実・谷川竜一編著『記憶と忘却のアジア』, 213～243頁, 青弓社, 2015年3月).
- ②『日中間海底ケーブルの戦後史—国交正常化と通信の再生』(吉川弘文館, 2015年, 254頁).
- ③「非文字資料から解析する近現代満洲史研究の可能性」(ボン大学2014年度夏学期公開リレー講座「Die Mandschurei in Vergangenheit und Gegenwart (満洲の過去と現在)」第8回, 於: ドイツ国ノルトラインヴェストファーレン州立フリードリッヒ・ヴィルヘルム・ボン大学アジア研究科, 2014年6月3日).

岸本 美緒

- ①「礼教・契約・生存—清代中国の売妻・典妻慣行と道德観念」(『歴史学研究』, 925号, 13～23頁, 青木書店, 2014年11月).
- ①「關於清代前期定例集の利用」(〈顧其莎氏訳〉, 『中国古代法律文献研究』, 第8輯, 375～397頁, 中国政法大学法律古籍整理研究所, 2014年12月).

北川 香子

- ① Bookreview “ISHIZAWA Yoshiaki and MIWA Satoru, *Cambodia: The Five Great Ruins of the Forest*, Rengo Shuppan, 2014”, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 6, pp. 1-5, The Toyo Bunko, Mar. 2015.
- ①「ヨーロッパの船が河を遡ってきた頃: 17世紀カンボジア史再考」(『南方文化』, 41, 37～75頁, 天理南方文化研究会, 2015年3月).

橘堂 晃一

- ① “Notes on the Commentary to the Yuanjue jing in Old Uigur”, *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*, Vol. 67 (3), pp. 313-318, Akadémiai Kiadó, Sep. 2014.

金 鳳珍

- ③ “Rethinking of the Traditional East Asian Region Order: The Tribute System as a Set of Principles, Norms, and Practices”, in the 4th Global

International Studies Conference 2014, Goethe University, Frankfurt am Main, Germany, 6-9 Aug. 2014.

③「퇴계와 율곡의 사단칠정론과 삼원사고 (退溪と栗谷の四端七情論三元思考)」(嶺南大学主催国際学術大会, 於: 嶺南大学, 2014年8月15日).

③「公共の概念史—中国と日本を中心に」(於: 台湾中央研究院文哲研究所, 2014年9月21日).

③「조공체제와 화이관 (朝貢体制と華夷觀)」(韓國外交史研究会, 於: ソウル大学, 2014年12月20日).

③「西方『權利』觀念的接受与变化—西周与俞吉濬的比較」(国際学術研討会「東亞与西方交流中的跨文化現象」, 於: 台湾中央研究院文哲研究所, 2015年1月13日).

#### 楠木 賢道

①「成島柳北を生んだ浅草・蔵前の知的ネットワーク」(『環』, 59号, 252～255頁, 藤原書店, 2014年10月).

①「後藤新平『江戸の自治制』を読む」(『環』, 59号, 320～333頁, 藤原書店, 2014年10月).

③「江戸時期日本の清史研究」(満学論壇系列講座16, 於: 吉林師範大学歴史文化学院, 2014年9月24日).

#### 久保 亨

①「仁礼敬之の『北清見聞録』と黎明期のアジア主義」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 269～283頁, 勉誠出版, 2015年3月).

③「華北地域概念の形成と日本」(2014年度前期東洋学講座「華北の発見」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014年7月7日, [『東洋学報』, 96-2, 75～76頁, (公財) 東洋文庫, 2014年9月]).

#### 窪添 慶文

①「北魏後期における将軍号」(『東洋学報』, 96-1, 31～59頁, (公財) 東洋文庫, 2014年6月).

①「北魏後期の官僚の遷転」(伊藤敏雄編『石刻史料と史料批判による魏晋南北朝史研究』, 34～82頁, 2015年3月, [平成22-26年度科学研究費補助金 基盤研究(A) 成果報告書, 研究代表者: 伊藤敏雄]).



- ①「『水経注』巻15に見える塙について」(東洋文庫中国古代地域史研究グループ編『水経注疏訳注(洛水・伊水篇)(東洋文庫論叢第78)』, 49～64頁, (公財)東洋文庫, 2015年3月)。
- ②『水経注疏訳注(洛水・伊水篇)(東洋文庫論叢第78)』(池田雄一, 多田狷介, 藤田忠, 塩沢裕仁), (公財)東洋文庫, 2015年, 35+594頁)。
- ③「北魏後期における官僚の遷転」(国際学術シンポジウム「石刻史料から見た魏晉南北朝史—北朝史を中心に」, 於:(公財)東洋文庫, 2014年9月14日)。

#### 久保田 淳

- ③「『あけぼの』の系譜」(和歌文学会, 於:青山学院大学, 2014年10月18日, [和歌文学会『和歌文学会第60回大会資料集』, 12～21頁, 2014年10月])。
- ③「藤原俊成の『あけぼの』の歌について—歌ことば『あけぼの』に関連して」(日本学士院第一部会, 於:日本学士院, 2015年2月12日)。

#### 黒田 卓

- ③「インド在住イラン系文人アブー・ターレブ・ハーンがみた英仏戦争—『求道者の旅路』の一節から」(東北大学大学院国際文化研究科科長裁量経費による共同研究プロジェクト「中東表象」研究会, 於:東北大学川内キャンパス, 2014年11月26日)。

#### 氣賀澤 保規

- ①「東アジアにおける「日本」の始まり—近年発見の百濟人「祢軍墓誌」の理解をめぐる」(『白山史学』, 50, 1～22頁, 東洋大学白山史学会, 2014年5月)。
- ①「私が東洋史を志したころ」(『東方』, 400, 6～8頁, 東方書店, 2014年6月)。
- ①「房山雲居寺石経事業和“巡礼”:唐代後半期的社会諸相与信仰世界」(陳金華・孫英剛等編『神聖空間:中古宗教中的空間因素』, 232～253頁, 復旦大学出版社, 2014年12月)。
- ③「從房山雲居寺石経事業看唐代後半期的社会諸相—關於「巡礼」与会昌滅仏」(台湾中央研究院歷史語言研究所講演, 於:台湾中央研究院歷史語言研究所, 2014年10月7日)。

③「唐代「巡礼」と会昌廃仏一房山雲居寺石經事業の展開に見る」(2014年度(第65回)仏教史学会学術大会, 於: 佛教大学, 2014年11月29日).

#### 巖 善平

①「中国における戸籍制度改革と農民工の市民化—上海市の事例分析を中心に」(『東亜』, No. 563, 80～90頁, 霞山会, 2014年5月).

②“Labor Market Transformation in Shanghai”, Ryoshin Minami, Fumio Makino, Kwan S. Kim eds., *Lewisian Turning Point in the Chinese Economy: Comparison with East Asian Countries*, pp. 155-180, Palgrave Macmillan, Jun. 2014.

③「中国の大都市における階層形成と世代間階層移動の実証分析—1997年・2008年天津市民調査に基づいて」(〈魏禱〉, 『アジア経済』, 55-3, 2～32頁, アジア経済研究所, 2014年9月).

④「現代中国における教育の発展と格差—CHIP調査の個票データに基づいて」(『中国経済研究』, 11-2, 31～55頁, 中国経済経営学会, 2014年9月).

⑤「中国の食糧安全保障と戦略的農業への展望」(『日中経協ジャーナル』, No. 249, 2～5頁, 日中経済協会, 2014年10月).

#### 黄 東蘭

①「歴史学」(『中国年鑑 2014』, 228～230頁, 社団法人中国研究所・毎日新聞社, 2014年5月, [年鑑項目]).

②「自我想像中的他者—日本近代歴史教科書の中国表述」(張仲民・章可編『近代中国的知識生産与文化政治—以教科書為中心』, 153～171頁, 復旦大学出版社, 2014年12月).

③「明治初期官版歴史教科書の歴史叙述—中国史の描かれ方を通して」(『愛知県立大学外国語学部紀要〈地域研究・国際学編〉』, 第47号, 309～334頁, 愛知県立大学外国語学部, 2015年3月).

#### 小杉 泰

①「勃興する「イスラム国」と国際社会の選択—「怪物」を生み出した欧米の「力の倫理」」(『外交』, 28号, 46～51頁, 外務省・時事通信社, 2014年11月).

②『イスラーム 書物の歴史』(〈林佳世子〉, 名古屋大学出版会, 2014年,

vii + 453 頁).

②『9・11 後のイスラーム政治 (岩波現代全書)』(岩波書店, 2014 年, xiii + 271 頁).

③“Islamic Civilization and its Prospective Contributions to the Global Society”, in the 5th International Symposium on Islam, Civilization, and Science, Kyoto University, 31 May 2014.

④“Islamic Economics and Halal Philosophy of Life”, in the 8th Durham-Kyoto International Workshop in Islamic Economics and Finance, Durham University, England, 25-26 Aug. 2014.

#### 小松 久男

①「タシュケントのアメリカ人」(『れにくさ』, 第5-2号, 250～260頁, 現代文芸論研究室, 2014年3月).

①「2013年の歴史学界—回顧と展望 総説」(『史学雑誌』, 123(5), 1～5頁, 史学会, 2014年5月).

①「韃靼の志士と乃木将軍」(『歴史書通信』, 216号, 2～5頁, 歴史書懇話会, 2014年11月).

②『激動の中のイスラーム—中央アジア近現代史』(山川出版社, 2014年, 124頁).

#### 小南 一郎

①「中国古代の学と校」(『学問のかたち—もう一つの中国思想史』, 3～32頁, 汲古書院, 2014年8月).

①「良渚文化の王冠」(『泉屋博古館紀要』, 30輯, 1～26頁, 泉屋博古館, 2014年11月).

②『学問のかたち—もう一つの中国思想史』(汲古書院, 2014年, 340頁).

②『仏説大目連経校勘訳注稿』([科学研究費補助金基盤研究(C)「浙江金華口承文芸研究—語りもの芸能「金華道情」を中心に」課題番号: 26370418, 代表者: 松家裕子], 2015年, 23頁).

#### 齋藤 真麻理

②『異類の歌合—室町の機智と学芸』(吉川弘文館, 2014年, 272頁).

櫻井 徹

- ②『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』(〈(公財) 東洋文庫〉, 山川出版社, 2015 年, 191 頁).

佐藤 健太郎

- ① “Chapter II: Form and Use of the Vellum Documents”, Miura Toru and Sato Kentaro eds., *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries*, Part I, pp. 8–22, The Toyo Bunko, 2015.
- ① “Chapter III: Description of the Vellum Documents (with Charts of Deeds, Family Trees of Transactors, and Signatures of Witnesses)”, Miura Toru and Sato Kentaro eds., *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries*, Part I, pp. 23–34, 99–110, The Toyo Bunko, 2015, [Document I, Document VII].
- ① 「イブン・ハルドゥーン自伝 7」(〈高野太輔, 湯川武, 茂木明石訳・註〉, 『イスラーム地域研究ジャーナル』, Vol. 7, 40～56 頁, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 2015 年 3 月).
- ② *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries*, Part I, (Toyo Bunko Research Library 15), 〈MIURA Toru〉, The Toyo Bunko, 2015, x + 295p.
- ③ 「東洋文庫所蔵フェス (モロッコ) の獣皮紙文書」(北大史学会月例会, 於: 北海道大学, 2014 年 7 月 4 日).

佐藤 仁史

- ① 「關於滿洲遣返日人団体の会報及其史料価値」(〈湯川真樹江, 菅野智博〉, 『暨南史学』, 第 17 号, 139～164 頁, 国立暨南国際大学歴史学研究所, 2014 年 7 月).
- ② 『嘉定県事—14 至 20 世紀江南地域社会史研究』(〈呉滔〉, 広東人民出版社, 2014 年, 316 頁).
- ③ 「從滿鉄上海事務所来看日本の華中調査」(中央研究院近代史研究所主催「全球視野下的中国近代史研究」国際學術研討会, 於: 中央研究院近代史研究所, 2014 年 8 月 12 日).
- ③ 「清末民初政争中地方的对立局势: 以江蘇省嘉定県の地方領導、自治、政党為個案分析」(《近代史研究》雜誌社和四川大学歴史文化学院第四期中国近代史論壇“地方的近代史: 州県士庶の思想与生活”學術會議, 於: 四



川大学歴史文化学院, 2014 年 10 月 11 日)。

③「被切断の記憶：従一位「富農」的講述看近代江南的農村社會」(中央研究院近代史研究所主催「従口述歴史尋找新議題」工作坊, 於：中央研究院近代史研究所, 2015 年 3 月 20 日)。

#### 塩沢 裕仁

①「洛河(洛水)・伊河(伊水)とその流域の都城・集落遺跡」(東洋文庫中国古代地域史研究グループ編『水経注疏訳注(洛水・伊水篇)(東洋文庫論叢第 78)』, 5～48 頁, (公財)東洋文庫, 2015 年)。

②『関野貞大陸調査と現在Ⅱ』(〈平勢隆郎〉, 東京大学東洋文化研究所, 2014 年, 180 頁, 執筆部分：「曲阜孔林の歴史文化財的な価値について」, 136～168 頁)。

②『水経注疏訳注(洛水・伊水篇)(東洋文庫論叢第 78)』(〈窪添慶文, 池田雄一, 多田狷介, 藤田忠〉, (公財)東洋文庫, 2015 年, 35 + 594 頁)。

#### 篠崎 陽子

②『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』(〈(公財)東洋文庫〉, 山川出版社, 2015 年, 191 頁, [解説執筆者])。

#### 斯波 義信

①「私の逸品：津門保甲冊 散逸をまぬがれた清代の地方文書」(東洋文庫編『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』, 28 頁, 山川出版社, 2015 年 2 月)。

①「戦中・戦後の東洋文庫」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 3～22 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月)。

①「座談会 東洋文庫の現在と未来」(〈田仲一成, 濱下武志, 平野健一郎, 山川尚義〉, 東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 63～85 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月)。

①“Economic Change in China”, 〈Joseph P. McDermott〉, John W. Chaffee and Denis Twitchett eds., *The Cambridge History of China*, Vol. 5, Part 2, *Sung China, 960–1279*, pp. 321–436, Cambridge, UK, Mar. 2015, [Ch. 6].

③「日本の中国史研究」(シンポジウム「アジア研究の現状」, 於：国際基督教大学・ICU アジア文化研究所, 2014 年 11 月 30 日)。

嶋尾 稔

- ① “Hoàng Sa Trường Sa trong Sử Liệu Trung Quốc”, Trần Đức Anh Sơn ed., *Hoàng Sa Trường Sa: Tư liệu and Quan điểm của Học giả Quốc tế*, pp. 127–139, Nhà Xuất bản hội nhà văn, 2014.
- ① 「七洲洋に関する覚書」(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』, 第 46 号, 391 ~ 418 頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2015 年 3 月)。

島田 竜登

- ① 「グローバル時代の歴史学—グローバル・ヒストリーと未来をみつめる歴史研究」(比較文明学会 30 周年記念出版編集委員会編『文明の未来—いま、あらためて比較文明学の視点から』, 148 ~ 162 頁, 東海大学出版部, 2014 年 5 月)。
- ① 「「長崎」再考—海域アジアと近世日本」(熊野純彦・佐藤健二編『人文知 3 境界と交流』, 109 ~ 125 頁, 東京大学出版会, 2014 年 9 月)。
- ① 「17・18 世紀におけるアユッタヤー朝のアジア域内貿易とオランダ東インド会社—『スレイマーンの船』との関連で」(『史朋』, 47 号, 1 ~ 16 頁, 北海道大学東洋史談話会, 2014 年 12 月)。
- ① “Hinterlands and Port Cities in Southeast Asia’s Economic Development in the Eighteenth Century: The Case of Tin Production and its Export Trade”, Tsukasa Mizushima, George Bryan Souza and Dennis O. Flynn eds., *Hinterlands and Commodities: Place, Space, Time and the Political Economic Development of Asia over the Long Eighteenth Century*, pp. 197–214, Leiden and Boston: Brill Academic Publishers, Jan. 2015.
- ① “Import Trade in Precious Metals and the Economy of Japan, 1763-c. 1850”, Jane Kate Leonard and Ulrich Theobald eds., *Money in Asia (1200–1900): Small Currencies in Social and Political Contexts*, pp. 443–463, Leiden and Boston: Brill Academic Publishers, Jan. 2015.

清水 信行

- ① 翻訳「E. Yu. ニキーチン・A. Yu. チェリユエフ「チェルニャチノ 5 墓地遺跡の構造的特徴」」(『青山考古』, 第 30 号, 35 ~ 47 頁, 青山考古学会, 2014 年 5 月)。
- ① 「2014 ロシア・クラスキノ土城発掘調査概要報告」(〈クラスキノ土城発掘調査団, ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学・考古学・

民族学研究所),『青山史学』,第33号,147,177～179頁,2015年2月)。

真道 洋子

- ①「都市と水：ナイルから家庭へ—エジプト，フスタート遺跡の事例を中心に」(縄田浩志・篠田謙一編著『国立科学博物館叢書⑮ 砂漠誌 人間・動物・植物が水を分かち合う知恵』,346～351頁,東海大学出版部,2014年4月)。
- ②「イスラームにおける聖なるものと聖なる場」(地中海学会,於：國學院大學,2014年6月15日)。
- ③「カイロ、イスラーム芸術博物館の成り立ち、コレクションとフスタート遺跡出土遺物」(第21回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会,於：金沢大学,2014年7月6日)。
- ④「ガラスからみたイスラーム社会—イスラームと異教徒との共存」(金沢大学公開講演会「イスラーム世界の歴史と文化」,於：金沢大学,2014年11月15日)。
- ⑤「フスタート遺跡出土遺物にみるガラスの形態—陶器、ガラス器、装身具類」(早稲田大学イスラム科学研究所主催シンポジウム「イスラームの「乱」と「静」～深刻化する政治社会と豊かな文化の伝統」,於：早稲田大学,2015年1月30日)。

杉山 清彦

- ① “Research on Contemporary Qing Imperial History: The Situation and Outlook in Japan”, *Asian Research Trends New Series*, No. 9, pp. 1–46, The Toyo Bunko, 2014.
- ② 書評「池尻陽子著 汲古書院『清朝前期のチベット仏教政策—扎薩克喇嘛制度の成立と展開』」(『中国研究月報』,68–8,48～50頁,一般社団法人中国研究所,2014年8月)。
- ③「多民族の中国、同文同種の中国—大清帝国とその遺産」(『アジア研究』,10号,71～74頁,静岡大学人文社会科学部アジア研究センター,2015年3月)。
- ④『大清帝国の形成と八旗制』(名古屋大学出版会,2015年,574頁)。
- ⑤「満洲語と満洲語文献の世界」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ,2014年度・東洋のコディコロジー (Codicology) Ⅲ・文理融合型東洋写本・版本学講習会「非漢字文献Ⅱ」,於：(公財)東洋文庫,2014年10月31

日).

鈴木 恵美

③ “Notable Politics and Parliament in Modern and Contemporary Egypt”, in the Third International Symposium of Inter-Asia Research Networks. Islamic and Chinese Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Supra-Regional Spheres of Islamic and Chinese Regions, Toyo Bunko, 1 Mar. 2015, [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 6, pp. 40–41, The Toyo Bunko, Mar. 2015].

鈴木 董

① 「東洋文庫所蔵のオスマン語及び欧文稀観書の白眉について」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 303～324頁, 勉誠出版, 2015年3月).

鈴木 立子

① 「元朝の吏員と経学」(『西域歴史語言研究集刊』, 第7輯, 155～168頁, 中国人民大学国学院西域歴史語言研究所, 2014年4月, [大島立子名義]).

砂山 幸雄

① 「梁漱溟と毛沢東—反近代の夢のゆくえ」(趙景達・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄編『講座 東アジアの知識人 5—さまざまな戦後』, 300～316頁, 有志舎, 2014年4月).

① 「「中国の夢」の由来」(『中部経済新聞』, 中部経済新聞社, 2014年9月12日).

③ 「「東亜同文書院」をめぐる一つのエピソード—コメントに代えて」(第64回日本現代中国学会全国学術大会, 於: 神奈川大学, 2014年10月15日).

妹尾 達彦

① 「イギリスから眺めたアジアの都市」(静永健編『東アジア海域に漕ぎだす6 海がはぐくむ日本文化』, 65～85頁, 東京大学出版会, 2014年4月).



- ①「東アジアの都城と宮苑構造—7～8世紀を中心に」(『古代東亞細亜都城斗益山 王宮城』下, 24～69頁, 国立扶余文化財研究所, 2014年12月, [原文は日本語と韓国語]).
- ①「帝都之風景、風景之帝都—建康・大興・洛陽」(陳金華・孫英剛編『神聖空間：中古宗教中的空間因素』, 23～105頁, 復旦大学出版社, 2014年12月).
- ①「東アジアの都市史と平泉」(岩手県教育委員会・一関市教育委員会・奥州市教育委員会・平泉町教育委員会編『アジア都市史における平泉—平成26年度「平泉の文化遺産」拡張登録に係る研究集会報告書』, 3～38頁, 岩手県教育委員会, 2015年3月).
- ①「中国三都の立地環境—建康・長安・洛陽の自然と社会」(『都城制研究』, 9号, 53～68頁, 奈良女子大学古代学学術研究センター, 2015年3月).

#### 關尾 史郎

- ①「“五胡”時代戸籍制度初探—以對敦煌・吐魯番出土漢文文書的分析為中心」(『敦煌吐魯番研究』, 第14卷, 223～231頁, 中国敦煌吐魯番研究会, 2014年12月).
- ①「魏晉簡牘のすがた—長沙吳簡を例として」(『国立歴史民俗博物館研究報告』, 第194集, 221～236頁, 国立歴史民俗博物館, 2015年3月).
- ②『湖南出土簡牘とその社会』(〈伊藤敏雄, 窪添慶文〉, 汲古書院, 2015年, 264頁).
- ③「鄭鳳安与其相關契約文書—走近『新疆博物館新獲文書研究』」(復旦大学・西北師範大学主弁国際学術研討会暨絲綢之路經濟帶高層論壇「歴史与展望：中西交通与華夏文明」, 於：中国蘭州市, 2014年8月19日～20日).
- ③「從出土史料看〈教〉—自長沙吳簡到吐魯番文書」(中国魏晉南北朝史学会第十一届年会暨国際学術研討会「魏晉南北朝史研究的新探索」, 於：中国北京, 2014年10月13日).

#### 高田 幸男

- ①「近代アジアと留学経験—第二次世界大戦前の留学を中心に」(『大学史紀要』, 20号, 10～12頁, 明治大学, 2015年3月).
- ③「中国と第一次世界大戦—教育界の視線を中心に」(2014年度駿台史学会大会, 於：明治大学, 2014年12月6日, [『駿台史学』, 154, 199～200頁, 駿台史学会, 2015年3月]).

高遠 拓児

- ① 「学界回顧 2014 東洋法制史」(〈柳橋博之〉, 『法律時報』, 86 (13), 322 ~ 325 頁, 日本評論社, 2014 年 12 日, [東アジア・内陸アジア分を執筆]).
- ① 「清末の奉天で日本人が受け取った呈と稟」(『東洋法制史研究会通信』, 28 号, 7 ~ 10 頁, 東洋法制史研究会, 2015 年 2 月).

高橋 英海

- ① “L’astronomie syriaque à l’époque islamique”, Émilie Villey éd., *Les sciences en syriaques* (Études syriaques 11), pp. 319-338, Paris: Geuthner, 2014.
- ① “Armenisch-Garschuni (Armenisch in syrischer Schrift)”, “Transcription of Syriac in Chinese and Chinese in Syriac Script in the Tang Period”, J. den Heijer, A. B. Schmidt and T. Pataridze eds., *Scripts beyond Borders: A Survey of Allographic Traditions in the Euro-Mediterranean World* (Publications de l’Institut Orientaliste de Louvain 62), pp. 187-214, 329-350, Louvain: Peeters, Apr. 2014.
- ① “Syriac as a Vehicle in the Transmission of Knowledge across Borders of Empires”, *Horizons: Seoul Journal of Humanities*, Vol. 5/1, pp. 29-52, Institute of Humanities, Seoul National University, Jun. 2014.
- ③ “Syriac as the Intermediary in Graeco-Arabica: On Some Historical and Philological Aspects”, in International Conference in Commemoration of the Centennial of the Birth of Franz Rosenthal “Graeco-Arabica. Present State and Future Prospects of an Emerging Field”, Yale University, New Haven (Ct.), USA, 25-27 Apr. 2014.
- ③ “On Some Late Collections of Syriac Anti-Armenian Tracts”, in International Conference “Christian East: Cultural Interactions with Other Traditions”, The State Hermitage, St. Petersburg, Russia, 4-6 Sep. 2014.

高松 洋一

- ① “Ottoman Population Registers of Late 18th- and 19th-Century Istanbul as a Source for the Study of the Greek Orthodox (Rum) Population”, Hidemitsu Kuroki ed., *Human Mobility and Multiethnic*

*Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 1: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut* (Studia Culturae Islamicae, No. 102), pp. 71-84, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA) Tokyo University of Foreign Studies, 2015.

①「アラビア文字に隠された年代を読み解く：「アラビア文字紀年銘（クロノグラム）年代計算プログラム」プロジェクト」（『FieldPlus』, 13号, 23頁, 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所, 2015年1月）.

②『トルコー日本・トルコ国交樹立90周年』（（公財）東洋文庫, 2014年, 28頁, [項目執筆：12, 16～19頁]）.

③“*Ayasofya Kütüphanesi ve Koleksiyonu*”, in *Lalenin ve İsyanın Gölgelediği Yıllar I. Mahmûd Dönemi. 1730-1754*, Mimar Sinan Güzel Sanatlar Üniversitesi Sedat Hakkı Eldem Oditoryumu, Fındıklı, İstanbul, 26 Sep. 2014.

#### 瀧下 彩子

②『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』（（公財）東洋文庫）, 山川出版社, 2015年, 191頁）.

#### 武内 紹人

①“The Function of Auxiliary Verbs in Tibetan Predicates and Their Historical Development”, Roberto Vitali ed. *Trails of the Tibetan Tradition*, pp. 401-415, Dharamsala: Amnye Machen Institute, 2015, [also in *Revue d'Etudes Tibétaines*, numero 31-Février 2015].

③“Contracts and Divinations in Old Tibetan Legal and Administrative Systems”, in Workshop “Secular Law and Order in the Tibetan Highland” at the International Institute for Tibetan and Buddhist Studies, Andiast, Switzerland, 9 June 2014.

#### 武内 房司

②『西川寛生「サイゴン日記」1955年9月～1957年6月』（（宮沢千尋）, 風響社, 2015年, 369頁）.

#### 武田 幸男

①「広開土王碑「多胡碑記念館本」の調査報告」（『汲古』, 65号, 19～28

頁, 汲古書院, 2014 年 6 月).

①「広開土王碑「長崎西高校本」の研究」(『年報 朝鮮学』, 17 号, 1 ~ 13 頁, 九州大学朝鮮学研究会, 2014 年 12 月).

#### 田島 俊雄

①「国民経済・国民生活」(中国研究所編『中国年鑑 2014』, 311 ~ 315 頁, 毎日新聞社, 2014 年 5 月).

①「「雑豆需給と日・中・台湾の雁行形態的通商関係」によせて」(『中国研究月報』, 68-6, 1 ~ 2 頁, 中国研究所, 2014 年 6 月).

①「東アジアの土地調査事業をいかなる枠組みで捉えるか」(『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』, 6 号, 121 ~ 124 頁, 大阪大学文学研究科片山剛研究室, 2015 年 3 月).

①「江丙坤博士に対するインタビュー」(〈大坪慶之〉, 『中国研究月報』, 69-3, 4 ~ 16 頁, 中国研究所, 2015 年 3 月).

③「東亜地区的水泥工業發展和衰退: 体制変遷与産業組織変化」(2014 年中国経済史学会年会暨“經濟轉型与社会經濟持續發展”學術研討会, 於: 河南省開封市, 2014 年 10 月 12 日).

#### 多田 狷介

① 書評「小林一美著『中共革命根拠地ドキュメント——一九三〇年代、コミンテルン、毛沢東、赤色テロリズム、党内大粛清』」(『史潮』, 新 75 号, 95 ~ 100 頁, 歴史学会, 2014 年 6 月).

②『中国逍遙——『中論』・『人物志』訳註他』(汲古書院, 2014 年, 348 頁).

②『水経注疏訳注(洛水・伊水篇)(東洋文庫論叢第 78)』(〈窪添慶文, 池田雄一, 藤田忠, 塩沢裕仁〉, (公財) 東洋文庫, 2015 年, 35 + 594 頁).

#### 立川 武蔵

①「『ニシュパンナヨーガーヴァリー』「悪趣清浄マンドラ」の問題点」(『印度学仏教学研究』, 63-1, 434 ~ 427 頁, 日本印度学仏教学会, 2014 年 12 月).

②『ヒンドゥー教の歴史』(山川出版社, 2014 年, 361 頁).

②『弥勒の来た道』(NHK 出版, 2015 年, 241 頁).

②『ブッダをたずねて—仏教二五〇〇年の歴史』(集英社, 2014 年, 238 頁).



田仲 一成

- ①「二十世紀潮幫祭祀活動回顧」(『饒宗頤国学院院刊』, 創刊号, 395～440 頁, 香港浸会大学饒宗頤国学院, 2014 年 4 月).
- ①「学問の思い出—田仲一成博士を囲んで」(〈上田望, 大木康, 片山剛, 呉真, 戸川芳郎, 廣瀬玲子〉, 『東方学』, 創立 65 周年記念「座談会特集号」, 1～43 頁, 東方学会, 2014 年 5 月).
- ①「戯劇文学產生於孤魂祭祀之說」(上海戯劇学院戯劇学研究中心編『戯劇学』, 第 2 輯, 45～77 頁, 文化芸術出版社, 2014 年 12 月).
- ①「中国農村の『災害駆逐、平安回復』の祭祀—組織・儀礼・演劇」(『日本学士院紀要』, 第 69 巻第 2 号, 37～76 頁, 日本学士院, 2015 年 2 月).
- ①「東洋文庫図書資料のオンライン検索及びデジタル化の歩み」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 87～104 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

田中 仁

- ①「1980 年代における中共党史研究の再建と展開」(『阪大法学』, 第 64 巻第 3・4 号, 127～146 頁, 大阪大学法学会, 2014 年 11 月).
- ①「日中戦争前期の華北農村と中国共産党：河北省涿源県の“800 日”」(〈許衛東訳〉, 『大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー』, 2015 年第 3 号, 1～22 頁, 大阪大学中国文化フォーラム, 2015 年 3 月).
- ②『20 世紀中国政治史の視角と方法：東洋文庫政治史資料研究班ワークショップの記録 (OUFC ブックレット vol. 5)』(大阪大学中国文化フォーラム, 2014 年, 117 + i 頁).
- ②『東アジア“生命健康圏”構築に向けて：大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録 (OUFC ブックレット vol. 6)』(〈思沁夫〉, 大阪大学中国文化フォーラム, 2015 年, 236 + iii 頁).
- ②『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ (青旗)』のデジタル化と公開の可能性—東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録 (OUFC ブックレット vol. 7)』(〈堤一昭〉, 大阪大学中国文化フォーラム, 2015 年, 127 + ii 頁).

田中 比呂志

- ① 書評「佐藤仁史著『近代中国の郷土意識—清末民初江南の在地指導層

と地域社会』(『中国研究月報』, 68 卷 4 号, 29 ~ 30 頁, 中国研究所, 2014 年 4 月).

①「[中国人留学生] 日本での暮らしぶり」(歴史科学協議会編『歴史の「常識」をよむ』, 182 ~ 185 頁, 東京大学出版会, 2015 年).

①「華北農村訪問調査報告 (6)—2013 年 8 月山西省 L 県 G 村、2014 年 8 月山西省 L 県 G 村、H 市 T 郷 Y 村、D 県 J 郷 Y 村」(〈河野正, 前野清太郎, 古泉達矢〉, 『東京学芸大学紀要 (人文社会科学Ⅱ)』, 第 66 集, 75 ~ 85 頁, 東京学芸大学, 2015 年 1 月).

### 竺沙 雅章

①「東洋文庫と東洋学文献センター」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 59 ~ 61 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

### P. ツィーメ

①“Fragments of a Chinese-Old Uigur Dictionary”, (『東方学研究論集 高田時雄教授退職記念 日英文分冊』, 468 ~ 481 頁, 東方学研究論集刊行会, 2014 年 6 月).

①“The West Uigur Kingdom: Views from Inside.”, *Horizons: Seoul journal of humanities*, 5 (1), pp. 53-81, Institute of Humanities, Seoul National University, June 2014.

①“Obituary. Shōgaito Masahiro 庄垣内正弘 (17. April 1942-23. März 2014)”, *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*, Vol. 67 (3), pp. 363-367, Budapest: Akademiai Kiadó, Sept. 2014.

①“Fragments of the Old Uighur *Maitrisimit nom bitig* in St. Petersburg, Helsinki, and Berlin”, *Written Monuments of the Orient*, 2015 (1), pp. 14-31, Moscow: Nauka Publishers, Vostochnaya Literatura, 2015.

### 塚原 東吾

①「中山茂先生学術評伝 (On Nakayama Shigeru, his intellectual achievement)」(〈黄栄光訳〉, 『中国科技史雑誌』, 第 35 巻第 4 期 (総 145 期), 471 ~ 487 頁, 中国科学技術史学会・中国科学院自然科学史研究所, 2014 年).

①「対談 ポスト・ノーマル時代の科学者の仕事」(〈美馬達哉〉, 『現代思想』, 42 (12), 46 ~ 77 頁, 青土社, 2014 年 8 月).

- ①「展望：「科学と帝国主義」研究のフロンティア、ネットワーク・ハイブリッド・連続性などの諸コンセプトについてのノート」（『科学史研究』, vol. 53, no. 271, 281～292 頁, 科学史学会, 2014 年 10 月）.
- ②『満州の科学・医学史：核をめぐる戦時科学の連続性』（神戸 STS 研究会, 2014 年, 174 頁, [神戸 STS 叢書シリーズ 11, 帝国日本の知識ネットワークに関する科学史的研究会主催, 第 4 回国際ワークショップ・プロシーディングス「中国コロニアル沿岸都市のメディア・ネットワークと東アジアの気候変動」]）.
- ② 翻訳『医師の社会史：植民地台湾の国家と民族』（〈ロー・ミンチェン著〉, 法政大学出版局, 2014 年, 316 + 62 頁）.

辻本 裕成

- ①「『とはずがたり』と医学」（『南山大学日本文化学科論集』, 15, 1～14 頁, 南山大学日本文化学科, 2015 年 3 月）.

土田 哲夫

- ①「開羅会議と日本」（呉思華・呂芳上・林永樂主編『開羅宣言的意義与影響』, 195～212 頁, 政大出版社（台北）, 2014 年 9 月）.
- ① 書評「田嶋信雄著 東京大学出版会『ナチス・ドイツと中国国民政府——一九三三——一九三七』」（『中国研究月報』, 第 68 巻第 12 号, 38～40 頁, 中国研究所, 2014 年 12 月）.
- ① “Declaraing War as an Issue in Chinese Wartime Diplomacy”, Hans van de Ven, Diana Lary, and Stephen MacKinnon eds., *Negotiating China's Destiny in World War II*, pp. 111-126, 265-269, Stanford University Press, Dec. 2014.

坪井 祐司

- ① “The Malay Society during the Transition of the Selangor Administration in the Late 19th Century”, *Sarjana*, 29-1, pp. 19-30, Faculty of Arts and Social Sciences, University of Malaya, Jun. 2014.
- ①「宗教の制度化、民族の制度化—1950 年代前半のマラヤ政治と『カラム』の戦略」（『マレーシア研究』, 3, 29～46 頁, 日本マレーシア学会, 2014 年 10 月）.
- ① “The Formation of Multicultural Public Sphere in British Malaya:

Controversies around Malayness during the 1930s”, Sawai et al. eds., *Islam and Multiculturalism: Exploring Islamic Studies within a Symbiotic Framework*, pp. 104–111, Organization of Islamic Studies, Waseda University, Mar. 2015.

②『『カラム』の時代Ⅵ：近代マレー・ムスリムの日常生活 2』（〈山本博之〉，京都大学地域研究情報統合センター，2015 年，36 頁）。

③“World View of Malay Muslim Intellectuals during the 1950s”, in The 9th International Malaysian Studies Conference, Kuala Terengganu, Malaysia, 19 Aug. 2014.

#### 寺田 浩明

①「審判制度中的“依据”和“案例参考”—以伝統中国法為線索」（周東平・朱騰主編『法制史訳評（2013 年巻）』，138～161 頁，中国政法大学出版社，2014 年）。

③「裁判制度における「基礎付け」と「事例参照」—中国律の法的性格に即して」（法制史学会第 66 回総会，於：専修大学，2014 年 6 月 1 日）。

③「明清法研究における法の概念について」（国際学術研討会「明清中国の法律与社会変遷」，於：香港中文大学，2014 年 9 月 5 日）。

#### 東條 哲郎

①“Research on the Chinese Tin Mining Industry on the Malay Peninsula”, *Asian Research Trends New Series*, No. 9, pp. 95–105, The Toyo Bunko, 2014.

#### 徳永 洋介

①「北宋時代の盗賊重法」（『東洋史研究』，第 73 巻 4 号，71～104 頁，東洋史研究会，2015 年 3 月）。

#### 徳原 靖浩

①「アフマド・マフムード『隣人たち』の語りの戦略」（『イラン研究』，11 号，59～75 頁，大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻，2015 年 3 月）。

②『もっと知りたい！イスラーム』（（公財）東洋文庫，2015 年，28 頁，[項目執筆：「イスラーム原理主義とは」，10 頁]）。



土肥 祐子

- ①「試論宋代的舶貨」(『国際社会科学雑誌(中文版)南宋経済和社会』, 2014年第2期, 70～111頁, 中国社会科学院, 2014年6月).
- ①「宋代の南海交易品乳香について—『中書備対』の記述より」(『南島史学』, 82号, 84～96頁, 2014年12月).
- ①「東洋文庫蔵手抄本『宋会要』食貨三八 市舶について(二)」(『東洋文庫書報』, 第46号, 19～45頁, (公財)東洋文庫, 2015年3月).

土肥 義和

- ②『八世紀末期～十一世紀初期燉煌氏族人名集成：氏族人名篇 人名篇』(汲古書院, 2015年, 1264頁).

富澤 芳亜

- ①「同興紡織支配人の回顧—立川団三氏(同興紡織)インタビュー」(〈桑原哲也〉, 『近代中国研究彙報』, 第37号, 15～39頁, (公財)東洋文庫, 2015年3月).
- ②『中国占領地の社会調査Ⅱ 別冊』(〈貴志俊彦, 弁納才一, 加藤聖文, 井村哲郎〉, 近現代史資料刊行会, 2014年, 147 + 34頁).

中兼 和津次

- ③「中国経済の成長可能性—悲観論、楽観論、慎重論」(東洋文庫アカデミア現代中国理解セミナー第4回, 於：(公財)東洋文庫, 2014年11月4日).
- ③“Intersectoral Resource Flows in China Revisited Again—in Memory of the Late Professor Shigeru Ishikawa”(第1回中国経済経営学会全国大会, 於：東京大学経済学部, 2014年11月9日, [『中国経済研究』12巻1号, 53～56頁, 2015年3月]).
- ③“China’s Economic Development and Sino-Japanese Economic Relationships: Beyond the Flying Geese Pattern Theory”, in the East Asian Cooperation Forum, Renmin University, 21 Nov. 2014.
- ③「腐敗の政治経済学—並論日中両国間【法治】概念的差異」(於：天則経済研究所(北京), 2014年11月24日).
- ③「佐藤経明、社会主義、中国」(特別シンポジウム「社会主義・ポスト社会主義と戦後日本社会：佐藤経明先生の遺産」, 於：日本大学経済学部

7号館, 2014年12月20日).

中谷 英明

③「インド人のやさしさと透徹した思想について」(関西外大FDカフェ, 於: 関西外国語大学, 2014年6月3日).

③「八頌品訳注」(日本印度学仏教学会第65回学術大会, 於: 武蔵大学, 2014年8月31日).

③“Buddha’s Denial of Human Universality”, in “Bouddhisme et universalisme”, Colloque international organisé par le Centre Hakubi de recherche avancée (Université de Kyōto), le Collège de France et l’École française d’Extrême-Orient, Institute for Research in Humanities, Kyoto University, 4 Oct. 2014.

③「実践知を基盤とする人文学の展望」(東洋学・アジア研究連絡協議会主催シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興」, 於: 東京大学法文2号館, 2014年12月13日).

中見 立夫

①“History of Mongol Studies in Japan and Collections of Mongolian Sources”, *Cultural Heritage of the Mongols: Manuscript and Archival Collections in St. Petersburg and Ulaanbaatar*, pp. 136–143, Russian Academy of Sciences & Institute of History, Mongolian Academy of Sciences, 2014.

①「虚構的“満蒙独立運動”及其真相」(烏雲毕力格主編『満蒙档案与蒙古史研究』, 243～265頁, 上海古籍出版社, 2014年7月)

③“Shiratori Kurakichi’s Visits to Vladivostok in the Early 20th Century: The First Page of the History of ‘Oriental Studies’ in Japan”, in the 57th Annual Meeting of the Permanent International Altaistic Conference (PIAC), Russia, Vladivostok, 9–14 Sep. 2014.

③「満洲語文献への注目と東洋文庫における満洲語文献の収集と研究」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ, 2014年度・東洋のコディコロジー(Codicology)Ⅲ・文理融合型東洋写本・版本文講習会「非漢字文献Ⅱ」, 於: (公財)東洋文庫, 2014年10月31日).

③「近代“モンゴル”、“東三省”における戸口調査資料について—東アジア地域の戸口調査事業展開のなかで」(2014年度内陸アジア史学会大会,

於：東京外国語大学，2014年10月25日，[『内陸アジア史研究』第30号，121～122頁，2015年3月]）。

中村 元哉

- ①「張君勸」（趙景達・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄編『講座 東アジアの知識人 5—さまざまな戦後』，53～69頁，有志舎，2014年4月）。
- ①「雑誌『観察』と羅隆基」（趙景達・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄編『講座 東アジアの知識人 5—さまざまな戦後』，122～136頁，有志舎，2014年4月）。
- ①「戦時中国的憲法制定史」（『抗日戦争研究』，2014年第2期，113～122頁，中国社会科学院近代史研究所，2014年4月）。
- ①「戦時中国の憲法制定史」（久保亨・波多野澄雄・西村成雄編『戦時期中国の経済発展と社会変容』，275～300頁，慶應義塾大学出版会，2014年6月）。

長沢 栄治

- ① 書評「栗田禎子著『中東革命のゆくえ 現代史のなかの中東・世界・日本』」（『経済』，234号，136～137頁，新日本出版社，2015年2月）。
- ①「「7月3日体制」下のエジプト」（『石油・天然ガスレビュー』，49-2，1～16頁，石油公団，2015年3月）。
- ①「アズハルと2011年エジプト革命」（『ODYSSEUS 地域文化研究紀要』，別冊2 [2014]，59～84頁，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻，2015年3月）。
- ②『グローバル戦略課題としての中東—2030年の見通しと対応』（日本国際問題研究所，2015年，236頁）。
- ③“Thawra and Nation State System in the Arab World” (in Arabic), in “JaCMES Seminar, Arab Uprising Reconsidered: Lebanese and Japanese Point of View”, Japan Center for Middle East Studies, Beirut, Lebanon, 19 Mar. 2015.

永田 雄三

- ③「近年のオスマン史研究の回顧と展望」（日本中東学会，於：東京国際大学，2014年5月10日，[『日本中東学会年報』，30-2，145～150頁，日本中東学会，2014年7月]）。

長縄 宣博

- ① 「イスラーム教育ネットワークの形成と変容：19 世紀から 20 世紀初頭のヴォルガ・ウラル地域」(橋本伸也編『ロシア帝国の民族知識人：大学・学知・ネットワーク』, 294～316 頁, 昭和堂, 2014 年 5 月).
- ② 「クリミア・タタール人：安住の地を求めて」(『ユーラシア研究』, 51 号, 12～16 頁, ユーラシア研究所, 2014 年 11 月).
- ③ 書評「堀川徹・大江泰一郎・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国：近代中央ユーラシアの法と社会』」(『イスラーム世界研究』, 8 巻, 376～380 頁, 京都大学イスラーム地域研究センター, 2015 年 3 月).
- ④ “Реформа магометанских духовных правлений в эпоху свободы совести и слова: переосмысление роли татарской прессы в процессе формирования мусульманской общественности”, in III Международная научная конференция «МИР ИСЛАМА: ИСТОРИЯ, ОБЩЕСТВО, КУЛЬТУРА», Всероссийская государственная библиотека иностранной литературы Москва, 22 Oct. 2014.
- ⑤ “Invitation to Guests of God: Bolsheviks’ Transnational Hajj Enterprise”, in the 46th Annual Convention of Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies, San Antonio Marriott Rivercenter, Texas, 20 Nov. 2014.

新村 容子

- ① 「The Friend of China より見るイギリスのアヘン貿易反対運動」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 253～267 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).
- ② 『アヘン戦争の起源—黄爵滋と彼のネットワーク』(汲古書院, 2014 年, 408 頁).

西 英昭

- ① 翻訳「何東「民国元年南京における江寧地方審判庁の再建過程—民国期司法の序幕」」(『法政研究』, 81-3, 273～297 頁, 九州大学法政学会, 2014 年 12 月).
- ② 「旧オランダ領東インド華僑・華人法制関連文献目録 (1848-1949)」(『法史学研究会会報』, 18 号, 174～192 頁, 法史学研究会, 2015 年 3 月).
- ③ 「オランダにおける「中国」法学の展開過程の一段面—M. H. van der



Valk の業績を中心にして」(『法政研究』, 81-4, 534 ~ 485 頁, 九州大学法政学会, 2015 年 3 月)。

②『中国人留学生のための法学・政治学論文の書き方』(〈九州大学大学院法学研究院, 杜崎群傑〉, 中国書店, 2015 年, 256 頁)。

②『九州大学百年史 第 4 巻: 部局史編 I : 第 5 編法学府・法学部・法学研究院』(〈九州大学百年史編集委員会〉, 『法政研究』, 81-4, 731 ~ 717, 689 ~ 667, 594 ~ 573 頁, 2015 年, 九州大学法政学会, [電子出版: <http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/recordID/1462303?hit=2&caller=xc-search> 第 3 章, 第 5 章を執筆, 2014 年])。

#### 八尾師 誠

② *Financial-Administrative System and Institutionalization of the First National Assembly of Iran*, 〈Author: Ali Tatari〉, The Toyo Bunko, 2015, vi + 365p, [Supervising].

#### 濱下 武志

① “Editor’s Note”, *Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko*, No. 72, p. i, The Toyo Bunko, 2014.

①「私の逸品: 1693 ~ 95 年、国王ジョン・アレクセーヴィツ [ピョートル 1 世] により中華帝国の首都北京に派遣された使節の紀行記」(東洋文庫編『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』, 86 頁, 山川出版社, 2015 年 2 月)。

①「座談会 東洋文庫の現在と未来」(〈斯波義信, 田仲一成, 平野健一郎, 山川尚義〉, 東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 63 ~ 85 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月)。

① “Concluding Note of International Symposiums, 2012-2014”, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 6, pp. 59-60, The Toyo Bunko, Mar. 2015.

③「趣旨説明: 東洋文庫と洋書—モリソン洋書」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ, 2014 年度・西洋古典籍書誌講習会「西洋書籍と東洋研究 II」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014 年 9 月 21 日)。

#### 濱島 敦俊

③「明末江南の商業化と宗族規範」(2014 年度前期東洋学講座「中国近世の規範と秩序」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014 年 7 月 24 日, [『東洋学報』,

96-2, 79～80 頁, (公財) 東洋文庫, 2014 年 9 月)].

## 林 俊雄

①「公元前 2 世紀至公元 2 世紀之間的格里芬和竜」(中国社会科学院考古研究所・新疆文物考古研究所編『漢代西域考古与漢文化』, 493～504 頁, 科学出版社, 2014 年 8 月).

①「西アジアの石像—新石器時代」(『西南アジア研究』, No. 81, 24～41 頁, 西南アジア研究会, 2014 年 9 月).

①「中央アジアの王墓」(アジア考古学四学会編『アジアの考古学 2 アジアの王墓』, 119～139 頁, 高志書院, 2014 年 11 月).

①「キプチャクの石人とイスラーム化後の墓石から見たテュルク系諸族の人間表現」(『第 21 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』, 120～138 頁, ヘレニズム～イスラーム考古学研究会, 2014 年 12 月).

③“Xiongnu (Hun)-Sarmatian Style Ornaments Found near Turfan”, in First International Congress of Eurasian Turkish Arts, Mimar Sinan güzel sanatlar Üniversitesi, Istanbul, 21-24, Nov. 2014, [*1st International Congress of Eurasian Turkish Arts*, pp. 45-52, Istanbul: Mimar Sinan güzel sanatlar Üniversitesi, 2014)].

## 原 實

①「辻直四郎先生の南アジア研究」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 55～57 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

## 原山 隆広

①“Chapter III: Description of the Vellum Documents (with Charts of Deeds, Family Trees of Transactors, and Signatures of Witnesses)”, Miura Toru and Sato Kentaro eds., *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries*, Part I, pp. 35-55, The Toyo Bunko, 2015, [Document II].

②『トルコ—日本・トルコ国交樹立 90 周年』((公財) 東洋文庫, 2014 年, 28 頁, [項目執筆: 20 頁]).

②『もっと知りたい! イスラーム』((公財) 東洋文庫, 2015 年, 28 頁, [項目執筆: 「コーランとは?」, 4 頁]).

②『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』((公財)

東洋文庫》，山川出版社，2015年，91頁，[解説執筆者]）。

平勢 隆郎

- ①「近年の所謂出土『左伝』に関する著作について—その書評に換えて」(『中国出土資料学会会報』，57号，2～8頁，中国出土資料学会，2014年12月)。
- ①「清華簡『繫年』に関する若干の話題」(『出土文献と秦楚文化』，8号，25～44頁，出土資料と漢字文化研究会，2015年3月)。
- ②『関野貞大陸調査と現在Ⅱ』(〈塩沢裕仁〉，東京大学東洋文化研究所，2014年，180頁)
- ②『東京国立博物館蔵竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』(〈田良島哲，三輪紫都香〉，東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2015年，xxvi + 457頁)。
- ②『中国の歴史—東アジアの周縁から考える』(〈濱下武志〉，有斐閣，2015年，362頁)

平野 健一郎

- ① “Matsuoka Yosuke's Miscalculation at Geneva: A Possible Reconsideration Using JACAR Data”, Madeleine Herren ed., *Networking the International System: Global Histories of International Organizations*, pp. 31-40, Springer, Jun. 2014.
- ①「だが庭を耕さなければならない—共生原論：リスボン大震災から自然と文化・文明の関係を考える」(権五定・斎藤文彦編『「多文化共生」を問い直す』，39～64頁，日本経済評論社，2014年9月)。
- ①「座談会 東洋文庫の現在と未来」(〈斯波義信，田中一成，濱下武志，山川尚義〉，東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』，63～85頁，勉誠出版，2015年3月)。
- ①「奇跡の書—東洋文庫蔵ジョン・セーリス『日本航海記』の書物学的考察」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』，107～127頁，勉誠出版，2015年3月)
- ③ “All Started from Huang Zun-xian's 'Chao-xian Ce-lue': The Gabo Reform and the Three Wars in the Context of the East Asian International Regime”, in KOSSREC Conference on the Gabo Reform and the Three Wars, at Seoul National University Asian Center, 24 Oct.

2014 [Keynote speech].

弘末 雅士

- ① 書評「太田淳著『近世東南アジア世界の変容—グローバル経済とジャワ島地域社会』名古屋大学出版会、2014」(『東南アジア研究』, 52-2, 325～327 頁, 京都大学東南アジア研究所, 2015 年 1 月).
- ② 『人喰いの社会史—カンニバリズムの語りと異文化共存』(山川出版社, 2014 年, 227 頁)
- ③ 「人喰いの語りと異文化共存—北スマトラの事例から」(平成 26 年度東方学会秋期学術大会, 於: 奈良女子大学, 2014 年 11 月 7 日).

深沢 眞二

- ③ 「江戸期版本の書誌調査」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ, 2014 年度・東洋のコディコロジー (Codicology) III・文理融合型東洋写本・版本学講習会「非漢字文献Ⅱ」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014 年 11 月 1 日).

藤井 昇三

- ① 書評「横山宏章著『素顔の孫文—国父になった大ぼら吹き』『中国の愚民主義』」(〈安藤久美子, 久保田博子, 久保田文次〉, 『孫文研究』, 55 号, 19～29 頁, 孫文研究会, 2014 年 12 月).

藤田 忠

- ② 『水経注疏訳注 (洛水・伊水篇) (東洋文庫論叢第 78)』(〈窪添慶文, 池田雄一, 多田狷介, 塩沢裕仁〉, (公財) 東洋文庫, 2015 年, 35 + 594 頁).

藤本 幸夫

- ① 「東洋文庫所蔵朝鮮本について」(東洋文庫編『アジア学の宝庫・東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 193～213 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

古屋 昭弘

- ① 「『度曲須知』所見的明末吳方音」(『吳語研究』, 第 7 輯, 24～33 頁, 上海教育出版社, 2014 年 6 月).
- ① 「『切韻』増補作業における王仁昫失誤の可能性」(『中国文学研究』, 114～127 頁, 早大中国文学会, 2014 年 12 月).



- ②『クラウン中国語単語 600』（〈和平〉，三省堂，2015 年，158 頁）。

弁納 才一

- ①「中華民国新民会による刊行物と華北農村調査の特徴について」（『中国占領地の社会調査Ⅱ—農村調査』，33～56 頁，近現代資料刊行会，2014 年 11 月）。
- ①「日中戦争期河北省石家庄地区農村における経済発展」（『史滴』，第 36 号，188～212 頁，早稲田大学東洋史懇話会，2014 年 12 月）。
- ①「近現代北京市近郊農村における経済発展と都市化」（『経済史研究』，第 18 号，63～90 頁，大阪経済大学日本経済史研究所，2015 年 1 月）。
- ①「華北農村訪問調査報告（9）—2014 年 8 月、山西省の農村」（『金沢大学経済論集』，第 35 巻第 1 号，149～168 頁，金沢大学経済学経営学系，2015 年 1 月）。
- ①「中華民国前期冀東地区玉田県 7 ヶ村における農村経済」（『金沢大学経済論集』，第 35 巻第 2 号，5～35 頁，金沢大学経済学経営学系，2015 年 3 月）。

寶劍 久俊

- ①「戦後期の統計制度」（尾高煌之助・斎藤修・深尾京司監修／南亮進・牧野文夫編著『アジア長期経済統計（3）中国』，42～50 頁，東洋経済新報社，2014 年 7 月）。
- ①“Grains: Marketing Systems and Agricultural Technologies for Low Prices”，Mariko Watanabe ed., *The Disintegration of Production-Firm Strategy and Industrial Development in China*, pp. 241-274, Edward Elgar, Dec. 2014.
- ①「二重構造と労働移動」（ジェトロ・アジア経済研究所・黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史編『テキストブック開発経済学 第 3 版』，25～39 頁，有斐閣，2015 年 2 月）。

星 泉

- ①「小説家の描く現代チベット：アムド出身の二人の作家」（〈海老原志穂〉，『日本西藏学会会報』，60 号，135～147 頁，日本西藏学会，2014 年 10 月）。
- ②『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA vol. 2』（〈海老原志穂，大

川謙作, 三浦順子), チベット文学研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2015 年, 152 頁).

② 翻訳『チベット文学の新世界 雪を待つ』(〈ラシャムジャ著〉, 勉誠出版, 2015 年, 352 頁).

② 翻訳『ハバ犬を育てる話 (物語の島 アジア)』(〈タクブンジャ著／海老原志穂, 大川謙作, 三浦順子共訳〉, 東京外国語大学出版会, 2015 年, 296 頁).

③ ““The Color of Death” and “Allurement” as Stories of Liberation from the Hell of Choice”, in *Transgressing Tibet: International Symposium on Pema Tseden’s Films, Fictions, and Translations*, Hong Kong Baptist University, 30 Oct. 2014.

#### 細谷 良夫

① 「「大明地理之図」を模写した細矢玄俊と細矢(細谷)家」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 159～177 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

③ 「山形細谷(細矢)家伝来「大明地理之図」—江戸時代の東アジア大絵図」(〈小沼孝博〉, 2014 年度後期東洋学講座「アジアの古地図を読む」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014 年 12 月 3 日).

#### 堀川 徹

① 「中央アジアの知の世界: イスラーム化の進展とティムール朝文化」(堀池信夫・堀川徹編『知の継承と展開—イスラームの東と西 (知のユーラシア 2)』, 103～130 頁, 明治書院, 2014 年 4 月).

① 「遊牧国家の興亡」(宇山智彦・藤本透子編『カザフスタンを知るための 60 章』, 83～87 頁, 明石書店, 2015 年 3 月).

① 「遊牧民のイスラーム化—その経緯と浸透の諸相」(宇山智彦・藤本透子編『カザフスタンを知るための 60 章』, 88～92 頁, 明石書店, 2015 年 3 月).

② 『知の継承と展開—イスラームの東と西 (知のユーラシア 2)』(〈堀池信夫〉, 明治書院, 2014 年, 229 頁).

#### 本庄 比佐子

① “In Memoriam: Ichiko Chūzō (1913–2014)”, *Memoirs of the Research*

*Department of the Toyo Bunko*, No. 72, pp. 207–210, The Toyo Bunko, 2014.

①「市古宙三先生追悼」(『近代中国研究彙報』, 37号, 1～14頁, (公財) 東洋文庫, 2015年3月)。

①「『台湾時報』掲載華南関係記事目録」(『近代中国研究彙報』, 37号, 121～156頁, (公財) 東洋文庫, 2015年3月)。

#### 牧野 元紀

③「キリスト教資料にみる東南アジア—近代ベトナムを中心に」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ, 2014年度・西洋古典籍書誌講習会「西洋書籍と東洋研究Ⅱ」, 於:(公財) 東洋文庫, 2014年9月21日)。

#### 松井 太

①「敦煌諸石窟のウイグル語題記銘文に関する簡記(二)」(『人文社会論叢 人文科学篇』, 32号, 27～44頁, 弘前大学人文学部, 2014年8月)。

①“Dating of the Old Uigur Administrative Orders from Turfan”, Mustafa Özkan and Enfel Doğan eds., *VIII. Milletlerarası Türkoloji Kongresi bildiri kitabı*, Vol. 4, pp. 611–633, İstanbul: İstanbul Üniversitesi, Oct. 2014.

①“Eski Uygur Hukuk belgelerinde geçen borun ve borunluq üzerine”, Aysima Mirsultan, Mihrban Tursun Aydın and Erhan Aydın eds., *Eski Türkçeden Çağdaş Uygurcaya: Festschrift in Honor of Mirsultan Osman on the Occasion of His 85th Birthday*, pp. 89–106, Konya: Kömen, Feb. 2015.

①「古ウイグル語行政命令文書に「みえない」ヤルリグ」(『人文社会論叢 人文科学篇』, 33号, 55～81頁, 弘前大学人文学部, 2015年2月)。

#### 松重 充浩

③「朝鮮在住日本人の華北認識—総合雑誌『朝鮮及満洲』掲載記事を事例として」(2014年度前期東洋学講座「華北の発見」, 於:(公財) 東洋文庫, 2014年6月30日, [『東洋学報』, 96–2, 73～74頁, (公財) 東洋文庫, 2014年9月])。

③「日本における満洲国期史・資料研究の現状と課題」(「満洲の記憶」研究会主催ワークショップ「満洲国研究と史料」, 於:慶應義塾大学三田キャンパス, 2014年7月5日)。

③「1920年代張作霖地方政権による現地統治の制度的構造と展開実態—奉天省を中心事例として」(平成26年度第4回国際日本文化研究センター

共同研究「日本の軍事戦略と東アジア社会：日中戦争期を中心として」,  
於：国際日本文化研究センター, 2014 年 12 月 21 日).

松永 泰行

① “Islamic Dissent in Iran’s Full-fledged Islamic Revolutionary State”,  
Khoo Boo Teik et al. eds., *Between Dissent and Power: The Transformation of  
Islamic Politics in the Middle East and Asia*, pp. 66–88, Palgrave-Macmillan,  
Jul. 2014.

① 「シーア派イスラーム革命体制としてのイランの利害と介入の範囲」  
(吉岡明子・山尾大編『「イスラーム国」の脅威とイラク』, 247～265 頁,  
岩波書店, 2014 年 12 月).

松本 弘

① 「冷戦後の中東和平—問題の新たな構図」(長谷川雄一・金子芳樹編著  
『現代の国際政治 [第 3 版] ポスト冷戦と 9.11 後の世界への視座』, 236～  
261 頁, ミネルヴァ書房, 2014 年 11 月).

② 『アラブ諸国の民主化—2011 年政変の課題』(山川出版社, 2015 年,  
114 頁).

三浦 徹

① 「海を渡った皮紙(ヴェラム)文書—モロッコの契約文書コレクション」  
(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 285～  
301 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

① “Chapter I: Introduction: The Vellum Contract Documents at the  
Toyo Bunko and Their Distinctive Features”, Miura Toru and Sato  
Kentaro eds., *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to  
Nineteenth Centuries*, Part I, pp. 1–7, The Toyo Bunko, 2015.

① “Chapter III: Description of the Vellum Documents (with Charts of  
Deeds, Family Trees of Transactors, and Signatures of Witnesses)”,  
Miura Toru and Sato Kentaro eds., *The Vellum Contract Documents in  
Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries*, Part I, pp. 77–92, 93–98, The  
Toyo Bunko, 2015, [Document V, Document VI].

② *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth  
Centuries*, Part I, (Toyo Bunko Research Library 15), <SATO Kentaro>.



The Toyo Bunko, 2015, x + 295p.

水野 善文

- ① 書評「現代の訳経僧—井筒俊彦著、野平宗弘訳『禅仏教の哲学に向けて』」（『総合文化研究』，第18号，110～113頁，東京外国語大学総合文化研究所，2015年3月）。

宮脇 淳子

- ① 東洋史エッセイ「ウクライナとクリミアの歴史背景」「日本とシナでは漢字の役割が違う」「シナの皇帝に土下座する朝鮮王」「かつてチベットは軍事大国だった」「歴史から見るチベットとモンゴルの深い関係」「チベットが支援したモンゴル最後の遊牧帝国」（『歴史通』，5月号，108～109頁；7月号，106～107頁；9月号，108～109頁；11月号，116～117頁；1月号，116～117頁；3月号，116～117頁，ワック出版，2014年4月；2014年6月；2014年8月；2014年10月；2014年12月；2015年2月）。
- ② 『かわいそうな歴史の国の中国人』（徳間書店，2014年，229頁）。
- ② 『悲しい歴史の国の韓国人』（徳間書店，2014年，213頁）。
- ② 『真実の朝鮮史 [1868-2014]』（〈倉山満〉，ビジネス社，2014年，255頁）。
- ② 『真実の朝鮮史 [663-1868]』（〈倉山満〉，ビジネス社，2014年，253頁）。

村井 章介

- ① 「15・16世紀海洋アジアの海域交流—琉球を中心に」（平尾良光・飯沼賢司・村井章介編『大航海時代の日本と金属交易』，21～45頁，思文閣，2014年10月）。
- ② 『大航海時代の日本と金属交易』（〈平尾良光，飯沼賢司〉，思文閣出版，2014年，218頁）。
- ② 『東アジアのなかの建長寺—宗教・政治・文化が交錯する禅の聖地』（勉誠出版，2014年，508頁）。
- ② 『境界史の構想（日本歴史私の最新講義）』（敬文舎，2014年，320頁）。
- ② 『中世史料との対話』（吉川弘文館，2014年，350頁）。

村上 衛

- ① 書評「古田和子編著『中国の市場秩序—17世紀から20世紀前半を中心に』」(『歴史と経済』, 223号, 69～71頁, 政治経済学・経済史学会, 2014年4月).
- ① 書評「岡本隆司編『中国经济史』」(『洛北史学』, 16号, 76～81頁, 洛北史学会, 2014年6月).
- ① “Trade and Crisis: China’s Hinterlands in the Eighteenth Century”, Tsukasa Mizushima, George B. Souza and Dennis O. Flynn eds., *Hinterlands and Commodities: Place, Space, Time and the Political Economic Development of Asia over the Long Eighteenth Century*, pp. 215–234, Leiden and Boston: Brill, Nov. 2014.
- ① 「日本の中国近現代史研究概観」(〈韓玲玲訳〉, 天児慧主編『当代日本中国研究』, 第4輯(歴史・社会), 3～12頁, 社会科学文献出版社, 2015年3月).
- ③ 「一九世紀中葉廈門苦力貿易の盛衰」(東洋史学会春季学術発表会, 於: 成均館大学校(韓国), 2014年5月31日).

村田 雄二郎

- ① 「東洋文庫蔵『康有為先生手札』簡訳」(『東洋文庫書報』, 第46号, 85～97頁, (公財)東洋文庫, 2015年3月).
- ② 『講座 東アジアの知識人5—さまざまな戦後』(〈趙景達, 原田敬一, 安田常雄〉, 有志舎, 2014年, 420頁).
- ② 『共同討議 日中関係 なにが問題か—1972年体制の再検証』(〈高原明生, 菱田雅晴, 毛里和子〉, 岩波書店, 2014年, 141頁).
- ② 『東大塾 社会人のための現代中国講義』(〈高原明生, 丸川知雄, 伊藤亜聖〉, 東京大学出版会, 2014年, 288頁).
- ② 『辛亥時期袁世凱秘牘(静嘉堂文庫蔵檔)』(〈劉路生, 駱宝善〉, 中華書局, 2014年, 854頁).

毛里 和子

- ① 「毛沢東時期中国外交論—以中蘇同盟為事例」(崔丕・青山瑠妙編『多維視角下的亞洲冷戰』, 1～11頁, 世界知識出版社, 2014年).
- ① 「日中は新しい“対抗”の関係に入った。メディアは合意や和解の事実を喚起せよ」(『Journalism』, 2015年第1号, 23～30頁, 朝日新聞社,

2015 年 1 月).

②『共同討議 日中関係 なにが問題か—1972 年体制の再検証』(〈高原明生, 菱田雅晴, 村田雄二郎〉, 岩波書店, 2014 年, 141 頁).

本野 英一

① “A Burden of British Mercantile Firms Doing Business in China: A Myth of Extraterritorial System in China, 1902-1907”, *Cheng Kung Journal of Historical Studies*, Vol. 47, pp. 113-154, Department of History, National Cheng Kung University, 2014.

① 書評「清末民国期社会経済史研究に有益な写真史料集:『上海総商会歴史図録』」(『東方』, 404 号, 28 ~ 31 頁, 東方書店, 2014 年 10 月).

② 翻訳『フェルメールの帽子—作品から読み解くグローバル化の夜明け』(〈ティモシー・ブルック著〉, 岩波書店, 2014 年, 323 頁).

③「辛亥革命時期上海に於ける中外契約履行紛争処理問題—アメリカ企業による債権取立活動を中心に」(明清史夏合宿 2014 報告, 於:福岡大学やまなみ荘, 2014 年 8 月 21 日).

稲山 明

①「里耶秦簡刻齒簡研究—兼論岳麓秦簡《数》中の未解読簡」(〈張春龍, 大川俊隆〉, 『文物』, 2015 年第 3 期, 53 ~ 69, 96 頁, 文物出版社, 2015 年 3 月).

②『文献と遺物の境界Ⅱ—中国出土簡牘史料の生態的研究』(〈佐藤信〉, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2014 年, 339 頁).

守川 知子

① “Pilgrims beyond the Border: Immigration at Khanaqin and Its Procedure in the Nineteenth Century”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 72, pp. 99-124, The Toyo Bunko, 2014.

① 監訳「ムハンマド・ブン・マフムード・トゥーサー著『被造物の驚異と万物の珍奇』(8)」(〈ペルシア語百科全書研究会訳注〉, 『イスラーム世界研究』第 8 巻, 266 ~ 358 頁, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, 2015 年 3 月).

③ “Imam Veneration and Pilgrimage to Their Tombs (from Iran to Ottoman Iraq)”, in International Workshop on Shiite Saint Veneration in

Comparative Studies, Isfahan University (Iran), 11 May 2014.

③ “Bisotun and Iranian Historiography of the Qajar Period”, in Fourteenth IQSA (International Qajar Studies Association) Conference: Literature and Writing in Qajar Iran, Otto-Friedrich University Bamberg (Germany), 30–31 May 2014.

③ 「17 世紀後半のサファヴィー朝対シャム使節団をめぐって」(東洋史研究会大会, 於: 京都大学, 2014 年 11 月 3 日).

#### 森平 雅彦

① 「『櫟翁稗説』 訳註 (4)」(〈押川信久, 川西裕也, 小池史織, 高村源太郎, 立花大輔, 和田健太〉, 『年報朝鮮学』, 17 号, 65～90 頁, 九州大学朝鮮学研究会, 2014 年 12 月).

① 「高麗・宋間における使船航路の選択とその背景」(『東洋文化研究所紀要』, 第 166 冊, 67～123 頁, 東京大学東洋文化研究所, 2014 年 12 月).

③ 「麗日關係와 표류민・피로인 문제 (日麗關係と漂流民・被虜人問題)」(江華高麗歴史財団・韓国中世史学会主催国際シンポジウム「10～14 세기 아시아의 상호 교류와 협력 (10～14 世紀アジアの相互交流と協力)」, 於: 仁川総合文化芸術会館, 2014 年 9 月 14 日).

#### 森安 孝夫

② 『東西ウイグルと中央ユーラシア』(名古屋大学出版会, 2015 年, xvi + 842 頁).

② 『ウイグル＝マニ教史関係史料集成 (『近畿大学国際人文科学研究所紀要』平成 26 年度版)』(近畿大学国際人文科学研究所, 2015 年, 137 頁).

③ 「ユーラシア世界史と古ウイグル民族の歴史的意義—付: 新出カリ Chol 王子墓誌銘の新解釈」(第 53 回日本女子大学史学研究会大会, 於: 日本女子大学・新泉山館国際交流センター, 2014 年 11 月 29 日).

③ 「回鶻カリ Chol 王子バイリンガル墓誌銘の新解釈」(第 53 回中央アジア学フォーラム, 於: 大阪大学, 2015 年 3 月 28 日).

#### 矢島 洋一

① 「イスラーム思想におけるイラン的要素」(堀池信夫・堀川徹編『知の継承と展開—イスラームの東と西 (知のユーラシア 2)』, 45～69 頁, 明治書院, 2014 年 4 月).



- ①「大仏とムスリム」(『月刊大和路ならら』, 17 巻 7 号, 42 ~ 43 頁, 地域情報ネットワーク株式会社, 2014 年 7 月).
- ① 書評「中西竜也著『中華と対話するイスラーム—17-19 世紀中国ムスリムの思想的営為』」(『史林』, 98 巻 1 号, 249 ~ 255 頁, 史学研究会, 2015 年 1 月).
- ③ “Ilkhanid Arabic Farmāns”, in *New Approaches on the Il-Khans*, National University of Mongolia, Ulaanbaatar, 21 May 2014.
- ③「近世・近代西トルキスタンの合法売買文書」(第 13 回中央アジア古文書研究セミナー, 於: 京都外国語大学, 2015 年 3 月 22 日).

柳澤 明

- ①「王鍾翰教授とその清史研究」(『東方学』, 128 号, 160 ~ 168 頁, 東方学会, 2014 年 7 月)
- ①「キャフタにおける清朝の「官営隊商」について—“bederge 回子”の活動」(『史滴』, 36 号, 232 ~ 253 頁, 早稲田大学東洋史懇話会, 2014 年 12 月).
- ③「《満文内国史院档》天聰五年部分及其史料価値」(瀋陽故宫博物院“清前史研究中心成立暨紀念盛京定名 380 周年學術研討会”, 於: 瀋陽賓館, 2014 年 9 月 11 日).

柳田 征司

- ②『日本語の歴史 5 上 音便の千年紀』(武蔵野書院, 2014 年, 207 頁)

柳谷 あゆみ

- ③「耳に響く秩序—5-6/11-12 世紀シリア諸都市におけるシアール」(第 11 回イスラーム初期史研究会, 於: 早稲田大学 121 号館, 2014 年 4 月 27 日).
- ③「シリアというクロスロード—ダマスカス・文学・人びと」(「シリアの鼓動」, 於: 京都市国際交流会館, 2014 年 12 月 14 日).

矢吹 晋

- ①「安倍ドンキホーテ政権に未来はあるか」(21 世紀中国総研編『中国情報ハンドブック 2014』, 20 ~ 61 頁, 蒼蒼社, 2014 年 7 月).
- ①「天安門事件から 25 年—解放軍最高幹部の党籍を剥奪した中国」(『情

況』, 2014 年 9-10 合併号, 59 ~ 98 頁, 情況出版, 2014 年 10 月).

②『中共政權の爛熟・腐敗—習近平「虎退治」の闇を切り裂く』(〈高橋博〉, 蒼蒼社, 2014 年, 266 頁).

②『敗戦・沖縄・天皇』(花伝社, 2014 年, 315 + 9 頁).

② 翻訳『中世日本の土地と社会』(〈朝河貫一著〉, 柏書房, 2015 年, 255 + 133 頁, [原書名 “Land and Society in Medieval Japan”]).

## 山内 民博

①「一九世紀末二〇世紀初朝鮮における戸口調査と新式戸籍—地方における認識と対応」(『朝鮮史研究会論文集』, 52 号, 39 ~ 68 頁, 朝鮮史研究会, 緑蔭書房, 2014 年 10 月).

③「日本所在韓国戸籍の現況と特性」(仁川広域市立博物館・仁荷大学校韓国学研究所共同学術会議, 於: 仁川広域市立博物館, 2014 年 8 月 29 日).

## 山本 英史

①「歴史の風—中国明清史料収集活動史」(『史学雑誌』, 123-9, 29 ~ 31 頁, 史学会, 2014 年 9 月).

①「サソリを食べよう」(『三田評論』, 1183 号, 83 頁, 慶應義塾, 2014 年 12 月).

①「近代蘇州基層社会復元の試み—郷村管理者に関する聴き取り調査: 附聴き取り記録」(『史学』, 83-4, 1 ~ 65 頁, 三田史学会, 2015 年 1 月).

①「清代のアウトロー「光棍」とその取締り法」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 237 ~ 251 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

③「光棍例の成立とその背景—清初における秩序形成の一過程」(2014 年度前期東洋学講座「中国近世の規範と秩序」, 於: (公財) 東洋文庫, 2014 年 7 月 15 日, [『東洋学報』, 96-2, 77 ~ 78 頁, (公財) 東洋文庫, 2014 年 9 月]).

## 山本 真

①「東マレーシア・サラワク華人社会と日中戦争・太平洋戦争—サラワク州クチン・シブでの調査記録」(『中国研究月報』, 68 (5), 38 ~ 49 頁, 2014 年 6 月).

- ①「中日戦争時期的福建省戦時体制、糧食管理と嚴家淦」(吳淑鳳編『轉型關鍵—嚴家淦先生与台湾經濟發展』, 1～36 頁, 台湾国史館, 2014 年 12 月).
- ③「20 世紀前半、中国福建省からサラワクへの移民とその歴史・社会的背景」(ワークショップ「中国僑郷と東南アジア移民先社会研究に関する双方向的視座—福建省福州・金門; サラワク・シンガポールの事例から考える」, 於: 筑波大学東京キャンパス, 2014 年 11 月 9 日).
- ③「1930～40 年代, 在福建省の国民政府之統治与地域社会—以龍岩県の保甲制度・土地整理事業・合作社為中心的考察」(華東師範大学・不列顛哥倫比亞大学現代中国与世界聯合研究中心・東京大学大学院総合文化研究科区域文化研究系主催「明清以来的地方意識与国家認同学術研討会」, 於: 上海華東師範大学, 2015 年 3 月 29～30 日).

山本 毅雄

- ③ “Kenneth Rexroth’s Syllabism Studied by Statistical and Text Analysis”, in Japanese Association for Digital Humanities Conference 2014, University of Tsukuba, 21 Nov. 2014, [<http://conf2014.jadh.org/Abstracts/Session3-2>].

湯浅 剛

- ①「ソ連崩壊とカザフスタンの独立—揺らぐ連邦制の中で追求した自立」(宇山智彦・藤本透子編『カザフスタンを知るための 60 章』, 137～141 頁, 明石書店, 2015 年 3 月).
- ①「外交・地域協力—『全方位外交』に見るリアリズム」(宇山智彦・藤本透子編『カザフスタンを知るための 60 章』, 264～267 頁, 明石書店, 2015 年 3 月).
- ①「安全保障—軍の変化と国際平和維持活動の実践」(宇山智彦・藤本透子編『カザフスタンを知るための 60 章』, 296～299 頁, 明石書店, 2015 年 3 月).
- ②『現代中央アジアの国際政治—ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』(明石書店, 2015 年, 336 頁).

吉澤 誠一郎

- ①「清末中国における男性性の構築と日本」(『中国—社会と文化』, 29 号,

42～65 頁，中国社会文化学会，2014 年 7 月）。

① 書評「藤谷浩悦著『湖南省近代政治史研究』」（『中国研究月報』，68-9, 23～28 頁，中国研究所，2014 年 9 月）。

① 書評「批評と紹介「林志宏著『民国乃敵国也—政治文化転型下の清遺民』」（『東洋学報』，96-2, 65～72 頁，（公財）東洋文庫，2014 年 9 月）。

③「近代日本の城市指南与中国印象：以北京、天津為例」（国際学術研究会「全球視野下的中国近代史研究」，於：中央研究院近代史研究所，2014 年 8 月 12 日）。

③「明清以来“西北”概念的變遷」（学術研討会「明清以来華北区域市場的演變」，於：天津社会科学院，2014 年 9 月 13 日）。

## 吉田 豊

①「霞浦摩尼教文書『四寂讃』及其安息語原本」（『国際漢学研究通説』，No. 9, 103～121 頁，北京大学出版社，2014 年 6 月）。

①「中世イラン語と中古漢語—「沙に消えた中国語」をめぐる—」（東方学研究論集刊行会編『高田時雄教授退職記念 東方学研究論集』，294～302 頁，臨川書店，2014 年 6 月）。

①“A Handlist of Buddhist Sogdian Texts”（『京都大学文学部研究紀要』，54 号，167～180 頁，京都大学大学院文学研究科，2015 年 3 月）。

①“Southern Chinese Version of Mani’s Picture Book Discovered?,” Siegfried G. Richter, Charles Horton, and Klaus Ohlhafer eds., *Mani in Dublin: Selected Papers from the Seventh International Conference of the International Association of Manichaean Studies in the Chester Beatty Library, 8–12 September 2009*, pp. 389–398, 439–446, Leiden and Boston: Brill, Mar. 2015.

②『中国江南マニ教絵画研究』（〈古川攝一〉，臨川書店，2015 年，310 頁）。

## 吉水 千鶴子

①“Chapter Titles and Divisions of the Mūlamadhyamakakārikā in Early Tibetan Commentaries”（『藏学学刊』，第 9 辑，182～193 頁，四川大学中国藏学出版社，2014 年）。

## 吉村 慎太郎

①「現代に生きる歴史書との出会い」（『日本古書通信』，通巻 1024 号，12



頁, 日本古書通信社, 2014 年 11 月).

②『現代アジアの女性たち—グローバル化社会を生きる』(〈福原裕二〉, 新水社, 2014 年, 370 頁).

六反田 豊

①「大同法の歴史的意義と地方財政におけるその運用実態」(『アジア遊学』, 179 号, 24 ~ 44 頁, 勉誠出版, 2015 年 2 月).

①「李舜臣と亀船—朝鮮水軍はどう活躍したのか」(歴史科学協議会編『歴史の「常識」をよむ』, 120 ~ 123 頁, 東京大学出版会, 2015 年 3 月).

渡辺 紘良

①「東洋文庫所蔵「北京全図」について」(東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』, 139 ~ 158 頁, 勉誠出版, 2015 年 3 月).

## IV 普及・展示事業

### 1. 展示

一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として、「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

#### A. 基本方針

このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対象とし、これらの利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

#### B. 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学到適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

#### C. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期した。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

#### D. 展示スケジュール

常設展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展示を開催した。

- (1) 常設展は国指定文化財を始めとする貴重資料を中心に構成されており、保存と集客の観点から、会期中に展示資料の入れ替えを行った。
- (2) 企画展は一年に3回の頻度で行っている。本年度は以下の企画展を実施した。
  - ①「仏教—アジアをつなぐダイナミズム—」(2014年1月11日～4月13日)
  - ②「トルコ—日本・トルコ国交樹立90周年—」(2014年4月23日～8月10日)
  - ③ 東洋文庫創立90周年「岩崎コレクション—孔子から浮世絵まで—」(2014年8月20日～12月26日)
  - ④「もっと知りたい！イスラーム」(2015年1月10日～4月12日)
- (3) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易なものわかりやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。
- (4) 上記企画展会期中に公開講座（企画展示記念講座）を開催した。講演者と演題は68～73頁の通りである。
- (5) 六義園特別展示「六義園をめぐる歴史」を開催した。
 

会期：① 2014年3月19日～4月7日  
           ② 2014年11月19日～12月7日

会場：東洋文庫ミュージアム1階オリエントホール
- (6) 小岩井農場での出張展示「時空をこえる本の旅：東洋文庫の世界」を行った。
 

会期：2014年11月8日～2015年5月31日

会場：小岩井農場資料館

## E. ガイドツアー

ミュージアムへの来客サービス・集客戦略の一環として、館内ガイドツアーを実施し、好評を得た（開館期間は毎日15時に開催している）。

## F. 学校連携

- (1) 東京藝術大学との協力協定により、記念コンサートを何度かミュージアム内にて開催し、多数の来場者を得た。また、同学彫刻科の卒業作品から一作品を選出して「東洋文庫賞」を授与し、東洋文庫敷地内のオープンスペースにて1年間作品を展示した。
- (2) 成蹊大学図書館との協力協定により、東洋文庫の貴重書を大学図書館入

口にて常設展示した。

- (3) 小岩井農場での「時空をこえる本の旅：東洋文庫の世界」展に関連し、岩手県雫石町立七ツ森小学校 6 学年校外学習にて学芸員がレクチャーを実施した（2014 年 12 月 16 日）。
- (4) 小石川中等教育学校 2 年生を対象に、2 日間の職場体験を実施した（2015 年 1 月 29 日～30 日）。

## G. 博物館連携

静嘉堂文庫との連携展示として、下記の美術品の借用展示を行った。

- ・『青花六果文瓶』 明代（15 世紀初期）景德鎮官窯 一口
- ・『色絵冠形香炉』（古清水）江戸時代（17～18 世紀）一合
- ・『色絵烏兜香炉』（古清水）江戸時代（17～18 世紀）一合
- ・『三彩獅子』（白、茶）唐代（8 世紀）二軀

## H. 入場者数

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日における、ミュージアム総入場者数は以下のとおりである。

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
入場者数	1,908 人	1,637 人	1,398 人	1,856 人	1,730 人	2,325 人
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
2,478 人	3,529 人	4,060 人	1,419 人	2,398 人	3,257 人	27,995 人

## 2. 広報普及

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。東洋学の若年層への普及を目指し、学校連携活動も行った。



## A. 要人の訪問

- (1) 行幸啓:天皇皇后両陛下が東洋文庫ミュージアムを来訪、観覧された(2014年4月9日)。
- (2) キャロライン・ケネディー駐日米国大使、福田康夫元首相、他。

## B. 関連書籍の刊行

東洋文庫創立90周年記念事業の一環として、下記の書籍を刊行した。

- ・東洋文庫善本叢書 全12巻(勉誠出版)
- ・『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史—』(山川出版社)
- ・『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究—』(勉誠出版)
- ・『東インド会社とアジアの海賊』(勉誠出版)

## C. 報道実績

ミュージアムに関しての報道実績の主なものを以下に挙げる。

新聞: 全国紙『朝日新聞』、『読売新聞』、『日本経済新聞』、『毎日新聞』、『産経新聞』など

雑誌: 『マンスリー三菱』、『芸術新潮』など

テレビ: テレビ東京『アンサー』(2015年2月16日放送)にて「もっと知りたい! イスラーム」展が紹介された。

ラジオ: J-WAVE『LOHAS TALK』(2015年2月9日~2月13日)に牧野元紀主幹研究員が出演し、東洋文庫の諸活動について紹介した。

## D. 『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援頂いている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員OBほか関係者をつなぐコミュニケーション誌として発行・頒布した。

## E. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信している。

## F. 近隣の中学・高校とのミュージアム・フリーパス連携

- (1) 小石川中等教育学校とのミュージアム・フリーパス連携を引き続き締結し、同校の新入生 160 名を招待した課外授業を実施した（2014 年 4 月 25 日）。
- (2) 神田女学園中学・高等学校地理歴史部のスクールプログラムに基づき、顧問・部員に展示について案内したほか、学芸員がレクチャーを実施した（2014 年 12 月 10 日）。

## G. 東洋文庫アカデミア

東洋文庫研究員をはじめとする各分野の専門家が講師となり、所蔵資料やこれまでの研究成果などの専門知識をわかりやすく教授する市民向け講座を下記のとおり実施した。

講座名	講師（所属）	期間	人数
ペルシア語の世界	渡部良子（東京大学非常勤講師）	2014 年 4 月 11 日 ～ 7 月 4 日	8
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子（トルコ細密画専門家）	2014 年 4 月 14 日 ～ 6 月 23 日	3
ドリユール	中村美奈子（Les fragments de M）	2014 年 7 月 5 日 ～ 7 月 19 日	4
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子	2014 年 7 月 14 日 ～ 9 月 22 日	3
霊と神と人	平勢隆郎（東洋文庫研究員・東京大学東洋文化研究所教授）	2014 年 7 月 14 日 ～ 8 月 18 日	7
第一次世界大戦と日本	加藤博章（国立公文書館アジア歴史資料センター調査員）	2014 年 7 月 25 日 ～ 9 月 5 日	4

東洋文庫バックヤードツアー	會谷佳光(東洋文庫)・岡崎礼奈(東洋文庫)	2014年8月26日	13
初歩の文人画講座	伊藤忠綱(二松学舎大学非常勤講師)	2014年9月3日 ～11月19日	8
講座名	講師(所属)	期間	人数
イランの芸術ペルシア書道に親しむ	角田ひさ子(拓殖大学語学研究所講師)	2014年9月6日 ～11月15日	3
ペルシア語の世界(中級編)	渡部良子	2014年9月12日 ～12月19日	6
ペルシア語の世界(初級編)	渡部良子	2014年9月24日 ～12月10日	4
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子	2014年10月13日 ～12月22日	4
現代中国理解セミナー	毛里和子(東洋文庫研究員・早稲田大学名誉教授)・山田辰雄(慶應義塾大学名誉教授)・姫田光義(中央大学名誉教授)・中兼和津次(東洋文庫研究員・東京大学名誉教授)・阿古智子(東京大学准教授)・菱田雅晴(法政大学教授)	2014年10月16日 ～11月18日	23
ことばの塾講習会「マルコポーロと東方見聞録」	牧野元紀(東洋文庫)	2014年10月19日	13
ことばの塾講習会「中国古代の文字とことば」	内山直樹(千葉大学准教授)	2014年12月14日	18
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子	2015年1月12日 ～3月23日	3
初歩の文人画講座2	伊藤忠綱	2015年1月14日 ～3月18日	6
江戸の書物1	清水信子(二松学舎大学非常勤講師)	2015年1月15日 ～1月29日	3
イランの芸術ペルシア書道に親しむ	角田ひさ子	2015年1月17日 ～4月4日	4

東洋文庫バックヤード ツアー	會谷佳光・牧野元紀	2015 年 1 月 21 日	7
ことばの塾講習会 「中国古代の文字とことば」	内山直樹	2015 年 1 月 25 日	15
講座名	講師(所属)	期間	人数
江戸の書物 2	清水信子	2015 年 2 月 12 日 ～ 3 月 19 日	2
東洋文庫コレクション で浮世絵に親しむ	岡崎礼奈	2015 年 2 月 18 日	6
孟嘗君と函谷関	平勢隆郎	2015 年 3 月 2 日 ～ 3 月 16 日	5
ことばの塾講習会 「江戸時代の仏教」	會谷佳光	2015 年 3 月 14 日	9
建築・絵画にみるイン ド・イスラームの歴史	小名康之(東洋文庫研究 員・青山学院大学名誉教授)	2015 年 3 月 20 日 ～ 4 月 24 日	6



## V 業務報告

### 1. 総務報告

#### A. 会議事項

##### (1) 理事会

2014 年度第一回通常理事会 開催日 2014 年 5 月 16 日（月曜日）

出席者 榎原 稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、  
平野健一郎、中根千枝、福澤 武、三木繁光、西村敏行、  
原 實

2014 年度第一回臨時理事会 開催日 2014 年 6 月 12 日（木曜日）

出席者 榎原 稔、山川尚義、鶴見尚弘、濱下武志、平野健一郎、  
福澤 武、三木繁光、西村敏行

2014 年度第二回通常理事会 開催日 2015 年 2 月 9 日（月曜日）

出席者 榎原 稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、  
濱下武志、平野健一郎、中根千枝、福澤 武、伊与部恒雄、  
原 實

##### (2) 評議員会

2014 年度定時評議員会 開催日 2014 年 6 月 12 日（木曜日）

出席者 大滝則忠、草原克豪、久保正彰、東條和彦、瀬谷博道、  
間野英二、増田信行

##### (3) 東洋学連絡委員会

前 期 開催日 2014 年 5 月 2 日（金曜日）

出席者 斯波義信、尾崎 康、中根千枝、間野英二、吉田順一、  
御牧克己、森本公誠

議 題 1. 2013 年度公益財団法人東洋文庫事業報告書について

後 期 開催日 2015 年 1 月 26 日（月曜日）

出席者 斯波義信、尾崎 康、中根千枝、間野英二、吉田順一、  
御牧克己、森本公誠

議 題 1. 2015 年度公益財団法人東洋文庫事業計画書について

## B. 総務・広報事項

- ・文庫長・学芸員による館内ガイドツアーを実施した。
- ・「三菱デジタルライブラリー」(三菱広報委員会)への収蔵品映像展示、『マンスリー三菱』への収蔵品掲載、文京区関係広報誌等への掲載協力等を行い、広報普及活動を図った。
- ・スクールプログラム及びキャンパスパートナーシップ制度を開始した。

## C. 設備・営繕事項

- ・空調の消耗部品交換・点検、及び稼働状況の見直しを図った。
  - 1 事務室・書庫空調設備の一部補修を行った。
  - 2 節電対策のため、本館空調の温度設定及び稼働時間を一部変更した。
  - 3 施設照明の点灯時間を一部変更した。

## 2. 人事報告

## A. 役員

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2014. 6.13	監事	西村 敏行	退任	
〃	〃	伊与部 恒雄	就任	

## B. 職員・研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2014. 4. 1	研究員	飯島 武次	委嘱	
〃	〃	関本 照夫	〃	
〃	〃	新村 容子	〃	
〃	〃	平野 健一郎	〃	
〃	研究員(兼任)	金子 修一	〃	
〃	〃	新免 康二	〃	
〃	主幹	池山 洋二	就職	
2014. 6.21	研究員	市古 宙三	逝去	
2014. 6.23	嘱託職員	篠木 由喜	就職	
2014. 6.30	参事	藤代 和卓	退職	
2014.10. 1	研究員	鈴木 木董	委嘱	
〃	〃	土肥 祐子	〃	
2014.12.20	〃	田村 晃一	逝去	
2015. 1.31	参事	長谷川 茂広	退職	
2015. 3.31	研究員	飯島 武次	退任	
〃	〃	宇都宮 美生	退職	
〃	〃	太田 啓子	〃	
〃	研究員(兼任)	楠木 道夫	退任	
〃	〃	土田 哲	〃	
〃	〃	八尾師	〃	

# C. 客員研究員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区分	備 考
2014. 4. 1	研究員(客員)	高 松 洋 一	委嘱	
〃	〃	徳 永 洋	〃	
2014.10. 1	〃	青 山 亨	〃	
〃	〃	石 川 重 雄	〃	
〃	〃	岡 本 隆 司	〃	
〃	〃	小 沼 孝 博	〃	
2015. 3.31	〃	糟 谷 憲 一	退任	
〃	〃	小 浜 正 子	〃	
〃	〃	佐 藤 慎 一	〃	
〃	〃	鈴 木 立 子	〃	
〃	〃	宮 脇 淳 子	〃	
〃	〃	森 安 孝 夫	〃	



## 3. 会計報告

## 賃借対照表

2015年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	18,630,703	28,945,411	△ 10,314,708
未収収益	3,734,832	3,715,078	19,754
未収金	3,171,360	792,765	2,378,595
立替金	0	149,020	△ 149,020
商 品	11,329,619	9,696,158	1,633,461
前払費用	258,684	343,875	△ 85,191
流動資産合計	37,125,198	43,642,307	△ 6,517,109
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
図書資料	3,583,541	3,583,541	0
基本財産合計	3,583,541	3,583,541	0
(2) 特定資産			
土地	110,494	110,494	0
建物	2,389,129,986	2,482,484,558	△ 93,354,572
構築物	135,612,532	147,394,902	△ 11,782,370
什器備品	283,923,417	316,477,116	△ 32,553,699
図書資料	1,350,297,902	1,324,127,389	26,170,513
ソフトウェア	3,474,743	5,659,603	△ 2,184,860
事業運営積立資産	2,842,663,122	2,842,663,122	0
退職給付引当資産	59,302,303	62,682,995	△ 3,380,692
建物設備修繕引当資産	217,821,192	198,941,861	18,879,331
P C B引当資産	24,621,762	24,615,515	6,247
長期前払費用	800,371	1,217,956	△ 417,585
特定資産合計	7,307,757,824	7,406,375,511	△ 98,617,687
(3) その他固定資産			
構築物	123,987	130,812	△ 6,825
什器備品	1,741,558	3,099,082	△ 1,357,524
ソフトウェア	930,812	1,559,995	△ 629,183
電話加入権	364,000	364,000	0
長期前払費用	304,791	389,849	△ 85,058
その他固定資産合計	3,465,148	5,543,738	△ 2,078,590
固定資産合計	7,314,806,513	7,415,502,790	△ 100,696,277
資産合計	7,351,931,711	7,459,145,097	△ 107,213,386

Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,437,683	3,899,929	△ 1,462,246
預り金	1,293,348	1,270,569	22,779
賞与引当金	7,874,219	7,614,910	259,309
流動負債合計	11,605,250	12,785,408	△ 1,180,158
2. 固定負債			
退職給付引当金	59,302,303	62,682,995	△ 3,380,692
P C B引当金	24,605,000	24,605,000	0
固定負債合計	83,907,303	87,287,995	△ 3,380,692
負債合計	95,512,553	100,073,403	△ 4,560,850
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	3,040,154,850	3,181,491,800	△ 141,336,950
補助金	254,053,749	229,955,469	24,098,280
分担金	38,322,829	35,671,597	2,651,232
固定資産受贈額	24,904,748	24,439,883	464,865
指定正味財産合計	3,357,436,176	3,471,558,749	△ 114,122,573
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	(3,357,436,176)	(3,471,558,749)	(△ 114,122,573)
2. 一般正味財産	3,898,982,982	3,887,512,945	11,470,037
(うち基本財産への充当額)	( 3,583,541 )	( 3,583,541 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	(3,866,414,345)	(3,847,528,767)	(18,885,578)
正味財産合計	7,256,419,158	7,359,071,694	△ 102,652,536
負債及び正味財産合計	7,351,931,711	7,459,145,097	△ 107,213,386

## 正味財産増減計算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	86,178,281	86,294,420	△ 116,139
受取寄付金	232,761,950	232,642,366	119,584
受取寄付金	91,425,000	90,960,000	465,000
受取寄付金振替額	141,336,950	141,682,366	△ 345,416
受取会費	448,000	585,000	△ 137,000
受取分担金	9,448,768	11,656,708	△ 2,207,940
受取分担金振替額	9,448,768	11,656,708	△ 2,207,940
事業収益	38,277,542	24,462,558	13,814,984
受取補助金等	85,901,720	87,873,219	△ 1,971,499
受取補助金等振替額	85,901,720	87,873,219	△ 1,971,499
雑収益	5,655,066	5,111,075	543,991
経常収益計	458,671,327	448,625,346	10,045,981
(2) 経常費用			
事業費	424,326,877	429,417,191	△ 5,090,314
調査研究費	20,560,679	23,214,970	△ 2,654,291
資料収集・整理費	15,077,965	15,391,559	△ 313,594
研究資料出版費	23,784,982	21,221,045	2,563,937
普及活動費	25,767,632	27,658,786	△ 1,891,154
学術情報提供費	21,920,180	25,321,558	△ 3,401,378
地域研究プログラム費	8,997,536	11,205,747	△ 2,208,211
人件費	119,538,337	114,371,584	5,166,753
役員報酬	19,032,000	19,032,000	0
給料手当	75,534,219	69,857,422	5,676,797
賞与引当金繰入	6,593,281	6,391,453	201,828
退職給付費用	4,272,126	4,973,125	△ 700,999
福利厚生費	14,106,711	14,117,584	△ 10,873
事務費	188,679,566	191,031,942	△ 2,352,376
設備保守修繕費	5,409,959	5,806,772	△ 396,813
水道光熱費	17,615,897	18,061,366	△ 445,469
賃借料	97,733	87,318	10,415
業務委託費	10,162,730	11,274,712	△ 1,111,982
減価償却費	143,677,575	144,538,734	△ 861,159
諸雑費	11,715,672	11,263,040	452,632
管理費	23,594,574	24,209,967	△ 615,393
人件費	18,565,598	18,114,921	450,677
役員報酬	4,588,000	4,618,000	△ 30,000
給料手当	9,352,972	9,002,654	350,318
賞与引当金繰入	1,280,938	1,223,457	57,481
退職給付費用	1,107,582	880,140	227,442
福利厚生費	2,236,106	2,390,670	△ 154,564
事務費	5,028,976	6,095,046	△ 1,066,070
設備保守修繕費	54,646	58,654	△ 4,008
水道光熱費	177,938	182,438	△ 4,500
謝金	2,636,521	2,669,060	△ 32,539
減価償却費	1,611,517	1,583,377	28,140
諸雑費	548,354	1,601,517	△ 1,053,163
経常費用計	447,921,451	453,627,158	△ 5,705,707
当期経常増減額	10,749,876	△ 5,001,812	15,751,688

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈額	720,166	552,082	168,084
経常外収益計	720,166	552,082	168,084
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	5	8,088	△ 8,083
経常外費用計	5	8,088	△ 8,083
当期経常外増減額	720,161	543,994	176,167
税引前当期一般正味財産増減額	11,470,037	△ 4,457,818	15,927,855
法人税、住民税及び事業税	0	70,000	△ 70,000
当期一般正味財産増減額	11,470,037	△ 4,527,818	15,997,855
一般正味財産期首残高	3,887,512,945	3,892,040,763	△ 4,527,818
一般正味財産期末残高	3,898,982,982	3,887,512,945	11,470,037
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	110,000,000	110,000,000	0
受取分担金	12,100,000	14,000,000	△ 1,900,000
固定資産受贈額	1,185,031	108,819	1,076,212
一般正味財産への振替額	△ 237,407,604	△ 241,764,375	4,356,771
当期指定正味財産増減額	△ 114,122,573	△ 117,655,556	3,532,983
指定正味財産期首残高	3,471,558,749	3,589,214,305	△ 117,655,556
指定正味財産期末残高	3,357,436,176	3,471,558,749	△ 114,122,573
III 正味財産期末残高	7,256,419,158	7,359,071,694	△ 102,652,536



## 正味財産増減計算書内訳表

2014年4月1日から2014年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引控除	当年度
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	73,506,804	12,671,477	0	86,178,281
受取寄付金	222,491,302	10,270,648	0	232,761,950
受取寄付金	82,410,000	9,015,000	0	91,425,000
受取寄付金振替額	140,081,302	1,255,648	0	141,336,950
受取会費	448,000	0	0	448,000
受取分担金	9,448,768	0	0	9,448,768
受取分担金振替額	9,448,768	0	0	9,448,768
事業収益	38,277,542	0	0	38,277,542
受取補助金等	85,901,720	0	0	85,901,720
受取補助金等振替額	85,901,720	0	0	85,901,720
雑収益	5,089,559	565,507	0	5,655,066
経常収益計	435,163,695	23,507,632	0	458,671,327
(2) 経常費用				
事業費	424,326,877	0	0	424,326,877
調査研究費	20,560,679	0	0	20,560,679
資料収集・整理費	15,077,965	0	0	15,077,965
研究資料出版費	23,784,982	0	0	23,784,982
普及活動費	25,767,632	0	0	25,767,632
学術情報提供費	21,920,180	0	0	21,920,180
地域研究プログラム費	8,997,536	0	0	8,997,536
人件費	119,538,337	0	0	119,538,337
役員報酬	19,032,000	0	0	19,032,000
給料手当	75,534,219	0	0	75,534,219
賞与引当金繰入	6,593,281	0	0	6,593,281
退職給付費用	4,272,126	0	0	4,272,126
福利厚生費	14,106,711	0	0	14,106,711
事務費	188,679,566	0	0	188,679,566
設備保守修繕費	5,409,959	0	0	5,409,959
水道光熱費	17,615,897	0	0	17,615,897
賃借料	97,733	0	0	97,733
業務委託費	10,162,730	0	0	10,162,730
減価償却費	143,677,575	0	0	143,677,575
諸雑費	11,715,672	0	0	11,715,672
管理費	0	23,594,574	0	23,594,574
人件費	0	18,565,598	0	18,565,598
役員報酬	0	4,588,000	0	4,588,000
給料手当	0	9,352,972	0	9,352,972
賞与引当金繰入	0	1,280,938	0	1,280,938
退職給付費用	0	1,107,582	0	1,107,582
福利厚生費	0	2,236,106	0	2,236,106
事務費	0	5,028,976	0	5,028,976
設備保守修繕費	0	54,646	0	54,646
水道光熱費	0	177,938	0	177,938
謝金	0	2,636,521	0	2,636,521
減価償却費	0	1,611,517	0	1,611,517
諸雑費	0	548,354	0	548,354
経常費用計	424,326,877	23,594,574	0	447,921,451
当期経常増減額	10,836,818	△ 86,942	0	10,749,876

2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産受贈額	720,166	0	0	720,166
経常外収益計	720,166	0	0	720,166
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	5	0	0	5
経常外費用計	5	0	0	5
当期経常外増減額	720,161	0	0	720,161
税引前当期一般正味財産増減額	11,556,979	△ 86,942	0	11,470,037
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	11,556,979	△ 86,942	0	11,470,037
一般正味財産期首残高				3,887,512,945
一般正味財産期末残高				3,898,982,982
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	110,000,000	0	0	110,000,000
受取分担金	12,100,000	0	0	12,100,000
固定資産受贈額	1,185,031	0	0	1,185,031
一般正味財産への振替額	△ 236,151,956	△ 1,255,648	0	△ 237,407,604
当期指定正味財産増減額	△ 112,866,925	△ 1,255,648	0	△ 114,122,573
指定正味財産期首残高				3,471,558,749
指定正味財産期末残高				3,357,436,176
III 正味財産期末残高				7,256,419,158

## 財務諸表に対する注記

### (1) 重要な会計方針

#### ①有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

#### ②棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

#### ③固定資産の減価償却方法

##### a)有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 30 ～ 50 年

構築物 15 ～ 20 年

什器備品 3 ～ 15 年

##### b)無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5 年

#### ④引当金の計上基準

##### a)賞与引当金

役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

##### b)退職給付引当金

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする小規模企業等における簡便法を適用しています。

##### c)役員退職慰労引当金

常勤役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当期末退職慰労金の要支給額を退職給付引当金に含めて計上しております。

d) P C B引当金

P C B（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、今後発生すると見込まれる額を計上しております。

⑤消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

(2) 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	3,583,541	0	0	3,583,541
小 計	3,583,541	0	0	3,583,541
特定資産				
土地	110,494	0	0	110,494
建物	2,482,484,558	0	93,354,572	2,389,129,986
構築物	147,394,902	0	11,782,370	135,612,532
什器備品	316,477,116	2,934,064	35,487,763	283,923,417
図書資料	1,324,127,389	26,170,513	0	1,350,297,902
ソフトウェア	5,659,603	0	2,184,860	3,474,743
事業運営積立資産	2,842,663,122	0	0	2,842,663,122
退職給付引当資産	62,682,995	5,379,708	8,760,400	59,302,303
建物設備修繕引当資産	198,941,861	22,876,665	3,997,334	217,821,192
P C B引当資産	24,615,515	6,247	0	24,621,762
長期前払費用	1,217,956	0	417,585	800,371
小 計	7,406,375,511	57,367,197	155,984,884	7,307,757,824
合 計	7,409,959,052	57,367,197	155,984,884	7,311,341,365



## (3) 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
図書資料	3,583,541	0	(3,583,541)	0
小 計	3,583,541	0	(3,583,541)	0
特定資産				
土地	110,494	(110,494)	0	0
建物	2,389,129,986	(2,389,129,986)	0	0
構築物	135,612,532	(135,612,532)	0	0
什器備品	283,923,417	(283,923,417)	0	0
図書資料	1,350,297,902	(312,173,431)	(1,038,124,471)	0
ソフトウェア	3,474,743	(3,474,743)	0	0
事業運営積立資産	2,842,663,122	(202,000,000)	(2,640,663,122)	0
退職給付引当資産	59,302,303	0	0	(59,302,303)
建物設備修繕引当資産	217,821,192	(30,211,202)	(187,609,990)	0
PCB引当資産	24,621,762	0	(16,762)	(24,605,000)
長期前払費用	800,371	(800,371)	0	0
小 計	7,307,757,824	(3,357,436,176)	(3,866,414,345)	(83,907,303)
合 計	7,311,341,365	(3,357,436,176)	(3,869,997,886)	(83,907,303)

## (4) 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建物	2,793,532,666	△ 404,402,680	2,389,129,986
構築物	179,828,553	△ 44,216,021	135,612,532
什器備品	421,874,679	△ 137,951,262	283,923,417
ソフトウェア	10,924,304	△ 7,449,561	3,474,743
小 計	3,406,160,202	△ 594,019,524	2,812,140,678
その他固定資産			
構築物	136,500	△ 12,513	123,987
什器備品	37,846,586	△ 36,105,028	1,741,558
ソフトウェア	12,838,010	△ 11,907,198	930,812
小 計	50,821,096	△ 48,024,739	2,796,357
合 計	3,456,981,298	△ 642,044,263	2,814,937,035

(5) 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
債券（事業運営積立資産）			
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	300,000,000	311,754,000	11,754,000
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	1,000,000,000	1,008,150,000	8,150,000
三菱UFJ証券ホールディングスクレジットリンク債	500,000,000	514,775,000	14,775,000
三菱UFJ証券クレジットリンク債	500,000,000	511,230,000	11,230,000
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	500,000,000	514,695,000	14,695,000
東京都公募公債（東京グローバル都債）	2,500,000	2,491,000	△ 9,000
債券（建物設備修繕引当資産）			
第13回大阪府公募公債	29,999,000	30,004,200	5,200
政府保証第855回公営企業債券	30,144,625	30,168,000	23,375
政府保証第27回本州四国連絡橋債券	34,172,338	34,187,000	14,662
三菱東京UFJ銀行期限前償還条項付社債	20,210,080	20,215,800	5,720
合 計	2,917,026,043	2,977,670,000	60,643,957

(6) 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 科学研究費補助金 (特定奨励費)	文部科学省	229,955,469	110,000,000	85,901,720	254,053,749	指定正味財産 (注)
合 計		229,955,469	110,000,000	85,901,720	254,053,749	－

(注) 当期末残高は、特定資産に計上されている図書資料及び固定資産に対応する指定正味財産相当額です。

## (7) 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	94,180,454
減価償却費計上による指定解除額	142,506,984
経常外収益への振替額	
減価償却費計上による指定解除額	720,166
合 計	237,407,604

## (8) 退職給付に係る注記

## ①採用している退職給付制度の概要

従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度を採用しています。

退職一時金制度では、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しています。

また、退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

## ②確定給付制度

a) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	62,682,995 円
退職給付費用	5,379,708 円
退職給付の支払額	<u>8,760,400 円</u>
期末における退職給付引当金	<u>59,302,303 円</u>

b) 退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用	5,379,708 円
----------------	-------------

## ③役員退職慰労金に関する事項

役員退職慰労金 19,832,000 円を退職給付引当金に含めて計上しています。また、役員退職慰労引当金繰入額 1,206,000 円を退職給付費用に含めて計上しています。

## (9) 金融商品関係

### ①金融商品の状況に関する事項

当法人は資金運用については短期的な預金及び元本償還の確実性の高い公社債等に限定しております。

### ②金融商品の時価等に関する事項

#### a) 現金預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

#### b) 事業運営積立資産

これらは預金及び前述 5. の債券で構成されております。

預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

債券の時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述 5. に記載されているため、開示は省略しております。

#### c) 退職給付引当資産

これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

#### d) P C B引当資産

これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

#### e) 建物設備修繕引当資産

これらは預金及び前述 5. の債券で構成されております。

預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

債券の時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述 5. に記載されているため、開示は省略しております。



## 財 産 目 録

2015 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金預金		
	現 金 手元保管	運転資金として	355,462
	普通預金 三菱東京 UFJ 銀行 駒込支店	運転資金として	18,098,384
	振替口座 ゆうちょ銀行	運転資金として	176,857
		〈現金・預金計〉	18,630,703
	未収収益	公益目的事業及び管理目的の財 源として使用する資産の利息	3,734,832
		〈未収収益計〉	3,734,832
	未収金	公益目的事業の事業収益分で ある。	3,171,360
		〈未収金計〉	3,171,360
	商品	公益目的事業の在庫である。	4,704,353
		〈商品計〉	6,625,266
	前払費用	役員賠償責任保険料	241,800
		日立キャピタル㈱他 計 2 件	16,884
		〈前払費用計〉	258,684
		流動資産計	37,125,198
(固定資産)			
基本財産	図書資料	国宝・重要文化財・浮世絵 他計 52,366 件 和漢書 80,064 冊 洋 書 20,018 冊	3,583,541
		〈基本財産計〉	3,583,541
特定資産	土地	所在 東京都文京区本駒込 2 丁 目 28 番 21 号 地番 東京都文京区本駒込 2 丁 目 147 番 1 号 地目 宅地 面積 3,687.63 平方メートル	(共用財産) うち公益目的保有財産 99% うち管理目的保有財産 1% 110,494
	建物	所在 東京都文京区本駒込 2 丁 目 147、157-2 建物(本館)構造 鉄骨鉄筋コン クリート造 建築面積 1,351.67 平方メートル 延床面積 6,698.12 平方メートル 空調衛生、昇降機、電気 給排水等諸設備	(共用財産) うち公益目的保有財産 99% うち管理目的保有財産 1% 2,217,467,946
		建物(付属棟)構造 鉄骨造 建築面積 216.45 平方メートル 延床面積 408.14 平方メートル 空調衛生、昇降機、電気 給排水等諸設備	171,662,040



(流動負債)	未払金	(株)美巧社他計 4 件	公益目的事業に於ける印刷物等である。	409,155
		東京海上日動ファシリティーズ(株)他計 7 件	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する事務所の設備管理等である。	976,017
		文京年金事務所	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の健康・厚生年金保険料 4 月納付金である。	912,066
		職員	公益目的事業の業務に従事する職員の 3 月勤務分時間外手当である。	140,445
	預り金		〈未払金計〉	2,437,683
		職員	健康保険料	3,784
		役職員他	源泉所得税	857,464
	賞与引当金	役職員	地方税（住民税）	432,100
			〈預り金計〉	1,293,348
			公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の賞与の引当金である。	7,874,219
		〈賞与引当金計〉	7,874,219	
流動負債合計				11,605,250
(固定負債)	退職給付引当金	役職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の退職給付金の引当金である。	59,302,303
			〈退職給付引当金計〉	59,302,303
	P C B 引当金		PCB（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出額の引当金である。	24,605,000
			〈P C B 引当金計〉	24,605,000
固定負債合計				83,907,303
負債合計				95,512,553
正味財産				7,256,419,158

## 附属明細書

### 1 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記の「(2) 基本財産及び特定資産の増減及びその残高」において開示しているため、附属明細での記載を省略します。

### 2 引当金の明細

#### 賞与引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	7,614,910	7,874,219	7,614,910	0	7,874,219

#### 退職給付引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	62,682,995	5,092,268	8,472,960	0	59,302,303

#### P C B引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
P C B引当金	24,605,000	0	0	0	24,605,000



## VI 役 職 員 名 簿

2015年3月31日現在の公益財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

## 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	楨 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
専 務 理 事	山 川 尚 義	東洋文庫専務理事
理 事	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	田 仲 一 成	東洋文庫図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	濱 下 武 志	東洋文庫研究部長 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター 研究フェロー
〃	平 野 健一郎	東洋文庫普及展示部長 東京大学名誉教授 早稲田大学名誉教授
〃	福 澤 武	三菱地所株式会社相談役
〃	三 木 繁 光	株式会社三菱東京 UFJ 銀行相談役
監 事	伊与部 恒 雄	三菱金曜会事務局長
〃	原 實	日本学士院会員 東京大学名誉教授

## 2. 評 議 員

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	荒 蒔 康一郎	キリンホールディングス株式会社相談役
〃	有 馬 朗 人	武蔵学園長 東京大学名誉教授
〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	大 崎 仁	人間文化研究機構長特別顧問
〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	草 原 克 豪	前拓殖大学副学長
〃	久 保 正 彰	元日本学士院院長 東京大学名誉教授
〃	後 藤 明	東京大学名誉教授
〃	瀬 谷 博 道	旭硝子株式会社相談役
〃	東 條 和 彦	三菱商事株式会社顧問
〃	大 滝 則 忠	国立国会図書館館長
〃	増 田 信 行	三菱重工業株式会社特別顧問
〃	間 野 英 二	京都大学名誉教授

## 3. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
委 員	尾 崎 康	慶應義塾大学元教授
〃	興 膳 宏	京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	間 野 英 二	京都大学名誉教授

役 職 名	氏 名	現 職
〃	御 牧 克 己	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	森 本 公 誠	東大寺長老
〃	吉 田 順 一	早稲田大学名誉教授

## 4. 名誉研究員

氏 名	所 属 機 関
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
De BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
HUMPHREYS, R. Stephen	University of California
GERNET, Jacques	Collège de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
韓 永 愚	Seoul 大学校 (Prof. Emeritus)
黄 寛 重	国立中興大学 中央研究院歴史語言研究所
KYCHANOV, E. I.	Saint-Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof. Emeritus)
李 伯 重	清華大学人文社会科学学院經濟学研究所
McDERMOTT, Joseph P.	St. Johns College, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kırgızistan-Türkiye Manas Üniversitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

## 5. 職員・研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
総 務 部 〃 普及展示部 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	理 事 長	楨 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
	文 庫 長	斯 波 義 信	研究員を兼務
	専 務 理 事	山 川 尚 義	総務部長を兼務
	課 長	柴 代 淳 子	
	参 事	堀 井 亮	
	部 長	平 野 健一郎	研究員を兼務
	主幹研究員	牧 野 元 紀	
	課 長	池 山 洋 二	
	研 究 員	岡 崎 礼 奈	
	参 事	牧 祐紀子	
図 書 部 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	嘱 託 職 員	篠 木 由 喜	
	部 長	田 仲 一 成	研究員を兼務
	課 長	會 谷 佳 光	研究員を兼務
	研 究 員	櫻 井 徹	
	〃	篠 崎 陽 子	
	〃	山 村 義 照	
	参 事	橘 伸 子	
	部 長	濱 下 武 志	研究員を兼務
	主幹研究員	瀧 下 彩 子	
	研 究 員	原 山 隆 広	
研 究 部 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	〃	相 原 佳 之	現代中国研究資料室派遣研究員
	〃	徳 原 靖 浩	イスラーム地域研究資料室派遣研究員
	〃	宇都宮 美 生	
	〃	太 田 啓 子	
	〃	飯 島 武 次	駒澤大学名誉教授
	〃	池 田 温	東京大学名誉教授
	〃		創価大学名誉教授
	〃		



部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研 究 員	池 田 雄 一	中央大学名誉教授
〃	〃	石 塚 晴 通	北海道大学名誉教授
〃	〃	梅 田 博 之	麗澤大学名誉教授 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学名誉教授
〃	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	尾 崎 文 昭	東京大学名誉教授
〃	〃	小 田 壽 典	豊橋創造大学名誉教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学名誉教授
〃	〃	片 桐 一 男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	辛 島 昇	東京大学名誉教授 大正大学名誉教授
〃	〃	北 村 文 夫	
〃	〃	草 野 靖	熊本大学元教授
〃	〃	窪 添 慶 文	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	久保田 淳	東京大学名誉教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学元教授
〃	〃	後 藤 明	東京大学名誉教授
〃	〃	設 樂 國 廣	立教大学名誉教授
〃	〃	部 勇 造	東京大学名誉教授
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学名誉教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	
〃	〃	末 成 道 男	
〃	〃	鈴 木 董	東京大学東洋文化研究所元教授
〃	〃	関 本 照 夫	東京大学名誉教授
〃	〃	曾 田 三 郎	広島大学名誉教授
〃	〃	武 田 幸 男	岐阜聖徳学園大学元教授
〃	〃	多 田 狷 介	日本女子大学名誉教授
〃	〃	立 川 武 藏	国立民族学博物館名誉教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研 究 員	竺 沙 雅 章	京都大学名誉教授
〃	〃	千 葉 禎	学校法人桐朋学園元理事長
〃	〃	P. ツ イ ー メ	
〃	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授
〃	〃		山梨県立大学名誉教授
〃	〃	戸 倉 英 美	東京大学元教授
〃	〃	朽 尾 武	成城大学名誉教授
〃	〃	土 肥 祐 子	中国楡林学院大学客座教授
〃	〃	土 肥 義 和	國學院大学名誉教授
〃	〃	鳥 海 靖	東京大学名誉教授
〃	〃	中 兼 和津次	東京大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学元教授
〃	〃	新 村 容 子	岡山大学名誉教授
〃	〃	延 廣 眞 治	東京大学名誉教授
〃	〃	濱 島 敦 俊	(台湾)国立暨南国際大学教授
〃	〃	原 實	東京大学名誉教授
〃	〃	藤 井 昇 三	電気通信大学名誉教授
〃	〃	藤 田 忠	国士舘大学名誉教授
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学名誉教授 東北学院大学アジア流域文化 研究所客員研究員
〃	〃	本 庄 比佐子	
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学名誉教授
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学名誉教授
〃	〃	毛 里 和 子	早稲田大学名誉教授
〃	〃	粃 山 明	埼玉大学元教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良大学元教授
〃	〃	矢 吹 晋	横浜市立大学名誉教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研 究 員	山 本 毅 雄	情報・システム研究機構 国立情報学研究所名誉教授
〃	〃	渡 辺 紘 良	獨協医科大学名誉教授
研 究 部	研究員(兼任)	青 木 敦	青山学院大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国士舘大学教授
〃	〃	今 西 祐一郎	国文学研究資料館館長 人間文化研究機構理事
〃	〃	内 山 雅 生	宇都宮大学名誉教授, 特任教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	遠 藤 光 暁	青山学院大学教授
〃	〃	太 田 信 宏	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
〃	〃	粕 谷 元	日本大学准教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	金 子 修 一	國學院大学教授
〃	〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	〃	楠 木 賢 道	
〃	〃	高 野 太 輔	大東文化大学准教授
〃	〃	小 松 久 男	東京外国語大学大学院特任教授
〃	〃	嶋 尾 稔	慶應義塾大学教授
〃	〃	清 水 信 行	青山学院大学教授
〃	〃	新 免 康	中央大学教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	高 田 幸 男	明治大学教授
〃	〃	武 内 房 司	学習院大学教授
〃	〃	土 田 哲 夫	中央大学教授
〃	〃	長 沢 栄 治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学大学院教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(兼任)	弘 末 雅 士	立教大学教授
〃	〃	深 沢 眞 二	和光大学教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	水 野 善 文	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	柳 澤 明	早稲田大学教授
〃	〃	山 本 英 史	慶應義塾大学教授
〃	〃	吉 田 光 男	放送大学教授・図書館長
〃	〃	吉 水 千鶴子	筑波大学教授
〃	〃	六反田 豊	東京大学大学院准教授

## 6. 客員研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	青 山 亨	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	青 山 瑠 妙	早稲田大学教授
〃	〃	秋 葉 淳	千葉大学准教授
〃	〃	浅 田 進 史	駒澤大学准教授
〃	〃	浅 野 秀 剛	大和文華館館長 あべのハルカス美術館館長
〃	〃	天 児 慧	早稲田大学教授
〃	〃	新 井 政 美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒 川 正 晴	大阪大学大学院教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学教授
〃	〃	飯 島 明 子	天理大学教授
〃	〃	飯 島 涉	青山学院大学教授
〃	〃	池 田 美佐子	名古屋商科大学教授
〃	〃	石 川 寛	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	石 川 重 雄	駒澤大学非常勤講師
〃	〃	磯 貝 健 一	追手門学院大学准教授
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学教授



部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	井 上 和 人	明治大学大学院特任教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	内 田 知 行	大東文化大学教授
〃	〃	宇 山 智 彦	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授
〃	〃	江 川 ひかり	明治大学教授
〃	〃	大河原 知 樹	東北大学大学院准教授
〃	〃	大 澤 肇	中部大学講師
〃	〃	大 澤 正 昭	上智大学特別契約教授
〃	〃	大 谷 俊 太	京都女子大学教授
〃	〃	尾 形 洋 一	早稲田大学講師
〃	〃	岡 野 誠	明治大学教授
〃	〃	岡 本 隆 司	京都府立大学准教授
〃	〃	丘 山 新	浄土真宗本願寺派総合研究所副所長
〃	〃	小 川 裕 充	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	奥 村 哲 哲	首都大学東京教授
〃	〃	小 沼 孝 博	東北学院大学准教授
〃	〃	梶 谷 懷	神戸大学大学院教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学名誉教授, 特任教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学教授
〃	〃	片 山 剛	大阪大学大学院教授
〃	〃	加 藤 弘 之	神戸大学教授
〃	〃	金 丸 裕 一	立命館大学教授
〃	〃	川 井 伸 一	愛知大学教授
〃	〃	川 合 安	東北大学大学院教授
〃	〃	川 崎 信 定	筑波大学名誉教授 東洋大学東洋文化研究所客員研究員
〃	〃	川 島 真	東京大学大学院准教授
〃	〃	貴 志 俊 彦	京都大学地域研究統合情報センター教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	北 川 香 子	学習院大学非常勤講師 青山学院大学非常勤講師
〃	〃	北 本 朝 展	情報・システム研究機構 国立情報学研究所准教授
〃	〃	橘 堂 晃 一	龍谷大学仏教文化研究所客員 研究員
〃	〃	金 鳳 珍	北九州市立大学教授
〃	〃	久 保 亨	信州大学教授
〃	〃	黒 田 卓	東北大学大学院教授
〃	〃	氣賀澤 保 規	明治大学客員研究員 東アジア石刻文物研究所長
〃	〃	巖 善 平	同志社大学大学院教授
〃	〃	黄 東 蘭	愛知県立大学教授
〃	〃	興 柁 一 郎	神田外語大学教授
〃	〃	小 嶋 芳 孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小 杉 泰	京都大学アジア・アフリカ地 域研究研究科教授
〃	〃	小 浜 正 子	日本大学教授
〃	〃	小 南 一 郎	京都大学名誉教授 泉屋博古館館長
〃	〃	近 藤 信 彰	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所准教授
〃	〃	齋 藤 真麻理	人間文化研究機構国文学研究 資料館准教授
〃	〃	早乙女 雅 博	東京大学教授
〃	〃	佐 藤 健太郎	北海道大学大学院准教授
〃	〃	佐 藤 慎 一	東京大学教授
〃	〃	佐 藤 宏	一橋大学教授
〃	〃	佐 藤 仁 史	一橋大学大学院教授
〃	〃	澤 江 史 子	上智大学准教授
〃	〃	塩 沢 裕 仁	法政大学准教授
〃	〃	島 田 竜 登	東京大学大学院准教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	城 山 智 子	一橋大学大学院教授
〃	〃	真 道 洋 子	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員
〃	〃	須 川 英 徳	横浜国立大学教授
〃	〃	杉 山 清 彦	東京大学大学院准教授
〃	〃	鈴 木 恵 美	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員
〃	〃	鈴 木 均	アジア経済研究所地域研究センター上席主任調査研究員
〃	〃	鈴 木 博 之	山形短期大学講師 東北学院大学講師
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学大学院教授
〃	〃	砂 山 幸 雄	愛知大学教授
〃	〃	關 尾 史 郎	新潟大学教授
〃	〃	高 遠 拓 児	中京大学准教授
〃	〃	高 橋 英 海	東京大学大学院准教授
〃	〃	高 松 洋 一	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
〃	〃	武 内 紹 人	神戸市外国語大学教授
〃	〃	田 島 俊 雄	東京大学教授
〃	〃	田 中 明 彦	国際協力機構理事長
〃	〃	田 中 仁	大阪大学大学院教授
〃	〃	田 中 比呂志	東京学芸大学教授
〃	〃	C. A. ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	塚 原 東 吾	神戸大学大学院教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学教授
〃	〃	坪 井 祐 司	立教大学非常勤講師
〃	〃	寺 田 浩 明	京都大学大学院教授
〃	〃	唐 成	中央大学教授
〃	〃	唐 亮	早稲田大学教授
〃	〃	東 條 哲 郎	愛媛大学特定研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	徳 永 洋 介	富山大学教授
〃	〃	富 澤 芳 亜	島根大学教授
〃	〃	中 谷 英 明	関西外国語大学教授 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	長 縄 宣 博	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター准教授
〃	〃	中 村 元 哉	津田塾大学准教授
〃	〃	西 英 昭	九州大学准教授
〃	〃	西 尾 寛 治	防衛大学校教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学准教授
〃	〃	濱 田 正 美	龍谷大学教授
〃	〃	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	平 勢 隆 郎	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	平 野 聡	東京大学准教授
〃	〃	廣 瀬 紳 一	国際大学准教授
〃	〃	藤 本 幸 夫	富山大学名誉教授 京都大学客員教授 麗澤大学客員教授
〃	〃	古 田 和 子	慶應義塾大学教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	弁 納 才 一	金沢大学教授
〃	〃	寶 劔 久 俊	アジア経済研究所研究員
〃	〃	星 泉	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
〃	〃	堀 川 徹	京都外国語大学教授
〃	〃	松 井 太	弘前大学教授
〃	〃	松 重 充 浩	日本大学教授
〃	〃	松 永 泰 行	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	松 本 弘	大東文化大学教授
〃	〃	丸 川 知 雄	東京大学教授
〃	〃	三 田 昌 彦	名古屋大学大学院助教



部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員(客員)	宮 崎 修 多	成城大学教授
〃	〃	宮 脇 淳 子	東京外国語大学非常勤講師
〃	〃	村 井 章 介	立正大学教授
〃	〃	村 上 衛	京都大学人文科学研究所准教授
〃	〃	村 田 雄二郎	東京大学大学院教授
〃	〃	本 野 英 一	早稲田大学教授
〃	〃	守 川 知 子	北海道大学大学院准教授
〃	〃	森 平 雅 彦	九州大学大学院准教授
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学名誉教授 近畿大学特任教授
〃	〃	矢 島 洋 一	奈良女子大学准教授
〃	〃	柳 谷 あゆみ	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 内 民 博	新潟大学准教授
〃	〃	山 本 真	筑波大学准教授
〃	〃	湯 浅 剛	防衛省防衛研究所主任研究官
〃	〃	吉 澤 誠一郎	東京大学大学院准教授
〃	〃	吉 田 伸 之	東京大学教授
〃	〃	吉 田 豊	京都大学大学院教授
〃	〃	吉 村 慎太郎	広島大学大学院教授
〃	〃	和 田 恭 幸	龍谷大学准教授

公益財団法人 東洋文庫年報 2014年度

---

2016年3月15日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

公益財団法人 東洋文庫  
横原 稔

印刷所 株式会社 東京プレス

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

公益財団法人 東洋文庫

---

本書は公益財団法人東洋文庫に対する2015年度文部科学省補助金の一部によって刊行されたものである。